# 平成24年度障害者スポーツ振興事業 「地域における障害者スポーツの振興事業」

報告書

公益財団法人日本障害者スポーツ協会

# 平成24年度障害者スポーツ振興事業 「地域における障害者スポーツの振興事業」報告書

# 目次

1.	総評 • • •		• • • P.1
2.	事業の報告	(福岡県障害者スポーツ協会) ・・・・・	· · · P.5
3.	事業の報告	(一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会)	• • P.35
4.	事業の報告	(一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会)	· · P.91

#### 1. はじめに

平成23年8月に「スポーツ基本法」が施行され、翌年3月には文部科学大臣により「スポーツ基本計画」が発表され、わが国のスポーツ施策が大きく変革する流れの中、障がいのある人が身近な場所でスポーツに参加できる環境つくりが大きな課題となっています。

「地域における障害者スポーツの振興事業」の実施に伴う検討会では、「地域」で暮らす障がいのある人のスポーツ参加を推進するために、都道府県・指定都市障害者スポーツ協会を中心に、日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者、一般スポーツ団体指導者、健康運動指導士やスポーツ推進委員などの指導者が協働し、障がいのある人へのスポーツ支援を通し地域住民の理解を深めていくことが重要と報告されました。

また、スポーツ教室、指導者の派遣や障がいのある人とない人が一緒に参加できるイベントを実施するための企画及び運営をマネージメントする人材の必要性が指摘されました。しかしこれらの取り組みは、障がい者スポーツ関係者だけでは到底できうるものではありません。各市町村スポーツ主管課や地区でのスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ、大学・高校等の教育機関との協力体制のもと展開されなければ一過性のものとなってしまいます。

この地域障害者スポーツ振興事業を基盤とし「地域スポーツ環境」を構築して行くためにも本年度モデル地区として委託させて頂いた、埼玉県障害者スポーツ協会・福岡県障害者スポーツ協会・秋田県障害者スポーツ協会の報告書を関係者の皆さまに配布させて頂きますので、障がいのある人が身近な地域で生涯にわたりスポーツに参加できる環境の整備に、役立てていただければ幸いです。

# 2. 目的

地域の障がい者スポーツ振興を目的に当協会の指導員を活用し、その地域の特色を考慮した事業を展開する。国庫補助事業として地域の障がい者スポーツ振興を掲げたモデル事業を実施する。

# 3. 事業の実施

平成24年度については、埼玉県障害者スポーツ協会、福岡県障害者スポーツ協会、秋田県障害者スポーツ協会の三県に、「地域における障害者スポーツの振興事業」(モデル事業)として実施を委託した。平成24年7月には各県の事業計画を元に検討会を実施し、内容を確認・修正したうえで事業実施を依頼した。平成25年2月には、第2回の検討会を実施し、各県の事業報告・経過報告を行った。また、事業終了後報告書を作成し、関係団体に配布した。

# 4. 事業の成果(24年度のまとめ)

モデル事業として、福岡県、埼玉県、秋田県の3県において種類の異なる事業を実施できた。

福岡県では、福岡県障害者スポーツ協会が、スポーツ教室、障害者スポーツ指導員の派遣、選手強化を柱に事業を行った。県内の総合型地域スポーツクラブや日本障害者スポーツ協会資格取得認定校との連携を図り、障がい者スポーツ指導員の現場での活用や、各地域における核となる人材・グループの形成が進んだ。

埼玉県では、埼玉県障害者スポーツ協会が、障がい者スポーツ教室とスポーツ大会を実施した。事業実施にあたっては、健常者と障がい者との『ふれあい』をキーワードに、高校野球強豪校やプロスポーツ選手をスポーツ教室の講師に招くなど、健常者も参加して障がい者と共にスポーツを楽しむことができるように工夫した。

秋田県では、秋田県障害者スポーツ協会にて、障がいに対する理解を深める講習会と障がい者スポーツの体験・交流会を実施した。事業実施にあたっては、障がい者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障がい者と総合型地域スポーツクラブとの交流を深め、地域において障がい者が安全かつ継続的に活動できるように配慮した。

詳細は各報告書に委ねるが、本モデル事業を通して各地域の特性を活かした事業を展開することができた。また、一般スポーツ関係者の理解促進や障がい者スポーツ指導員の活動の場の拡充など、障がい者が身近な地域でスポーツに参加するために不可欠な環境整備に寄与することができた。

# 5. 今後の課題

2年間に亘る本事業を通していくつかの振興モデルが提示された。今後はこれらのモデルを参考に、その他の地域へも本事業を拡充していくことが必要である。また、将来的に補助金収入が削減されても事業が実施できるよう自主財源の確保についても検討し、永続的に事業が実施できるよう創意工夫することも必要である。

#### 事業検討会委員

	氏 名	役 職
1	<b>七</b>	公益財団法人日本障害者スポーツ協会技術委員長/JPC 副委員長
1	大久保春美	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 副会長
2	佐藤 慶子	一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会 スポーツ推進員
3	関口 一道	長野県障害者福祉センター サンアップル所長
4	高山 浩久	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会地域スポーツ振興室室長
5	藤原進一郎	【元】公益財団法人日本障害者スポーツ協会技術委員長/JPC 運営委員
6	山野 明	福岡県障害者スポーツ協会 主任指導員

(50 音順、敬称略)

# 事務局(公益財団法人日本障害者スポーツ協会)

1	中森 邦男	指導部長/企画情報部長/JPC 事務局長
2	水原 由明	養成研修部次長/指導部指導課長
3	井田 朋宏	企画情報部企画情報課長/指導部指導課長代理/JPC 事務局員
4	鈴木 圭	指導部指導課長補佐/JPC 事務局員
5	滝澤 幸孝	養成研修部研修係長/JPC 事務局員
6	長谷部 貴	指導部指導課指導係長/企画情報部企画情報課主查/JPC 事務局員
7	黒田 美穂	総務部総務課調整係長/JPC 事務局員

#### 会議の実施

#### 第1回会議

日 時: 平成 24 年 7 月 5 日(木)

場 所: 東京都中央区 浜町区民館 5 号室

出席者:藤原、大久保、関口、高山、山野、佐藤

(事務局)中森、水原、井田、鈴木、滝澤、長谷部、黒田

内容: 概要・進行の確認、各県事業の計画・予算について

#### 第2回会議

日 時: 平成 25 年 2 月 25 日(月)

場 所: 東京都中央区総合スポーツセンター 第3会議室

出席者:藤原、大久保、関口、高山、山野、佐藤

(事務局)中森、井田、鈴木、滝澤、長谷部、黒田

内 容: 各県事業の報告、24年度事業の総括、25年度事業の計画・予算について

# 平成 24 年度 一福岡県内における障害者スポーツ振興事業―

福岡県障害者スポーツ協会

# 平成24年度「地域における障害者スポーツの振興事業」 実績報告書

#### I. 実施目的

昨年の「地域振興事業」を継続化することにより1)スポーツ教室においては障害者スポーツ指導者及び地域組織(認定校等)がサポートを継続することで自主運営を目指す。

- 2) 指導者の派遣については、総合型地域スポーツクラブ及び地域組織(特別支援学校・障害者団体等)との連携を強化することにより、気軽に安心して参加できるスポーツ環境の構築を目指す。
- 3) 選手強化事業においては、当協会会員として活動しているクラブを対象とし、クラブに 所属する障害者スポーツ指導者等と連携し選手及び指導者の育成・強化を図ることを目的とし て下記事業を行った。

#### Ⅱ. 事業概要及び実施体制

- 1) スポーツ教室事業
  - 1. 知的障害児水泳教室

日 時 10月~3月の毎月第一・第三金曜日 18 時~19 時 合計 12 回 (10/5・19・11/2・16・12/7・21・1/11・25・2/1・15・3/1・15)

会 場 健康の森運動公園・室内プール (飯塚市吉北 118)

受講者 12名(知的障害児)

指導者 講師2名(上級1名·中級1名)

補助員 指導員7名(中級1名・初級6名)ボランティア1名

2. 知的障害児バスケットボール教室

日 時 12月~3月の毎週木曜日 18時30分~20時 計10回 (1/10・24・31・2/7・14・21・28・3/7・14・21)

会場 サン・アビリティーズいいづか (飯塚市大字柏の森 956-4)

受講者 12名(知的障害児)

指導者 講師2名(中級1名·特別支援学校教師1名)

補助員 指導員6名(初級6名)ボランティア5名

3. フロアーバレーボール教室

日 時 11月~2月の毎月2回の木曜日19時30分~21時30分合計12回 (11/8・15・22・29・12/6・13・20・1/10・24・2/7・14・21)

会 場 久留米市立久留米特別支援学校(久留米市南町 1-2-1)

受講者 22名(指導員及びボランティア12名を含む)

指導者 講師2名(上級1名・クラブ指導者1名)

補助員 指導員2名(初級2名)ボランティア10名(久留米大学AST)

#### 2) 指導者の派遣事業

#### 1. 総合型スポーツクラブでの基盤づくりのための指導者派遣

①しいだコミュニティ倶楽部×ASプロジェクト協議会

日 程: H24年5/10·24·6/14·28·7/12·26 隔週木曜日 全6回

時 間:13時30分~15時30分

会 場:築上町椎田体育館

参加者:延べ人数 251 名 (障害者 106 名 健常者 52 名 スタッフ 93 名)

指導者:講師1名(上級)指導員1名(初級)

補助員:ボランティア21名(九州共立大学学生8名・しいだコミュニティ

倶楽部等 13 名)

内 容:フライングディスク体験教室

②スポーツBRNDEX福岡×ASプロジェクト協議会

日 程: H24年5/13·27·6/9·23·7/15·29 土 or 日曜日 全6回

時 間:10時~12時 or13時~15時

会場:中ノ島公園・ミリカローデン那珂川・那珂川町民体育館

参加者:延べ人数 166 名 (障害者 21 名 健常者 76 名 スタッフ 69 名)

指導者:講師1名(初級)

補助員:指導員3名(初級)ボランティア14名(西九州短期大学学生6名 スポーツBRNDEX福岡スタッフ等8名)

内容:ハンドバイク体験教室

③ 久留米市総合型クラブ×ASプロジェクト協議会

日 程: H24年5/12·26·6/9·23·7/7·21 土曜日 全6回

時 間:10時~12時

会場:宮の陣中学校体育館・荘島体育館

参加者:延べ人数193名(障害者25名 健常者99名 スタッフ69名)

指導者:講師1名(初級)

補助員:指導員1名(中級)ボランティア15名(久留米大学AST8名 久留米市総合型クラブ等スタッフ7名)

内 容:車いすスポーツ体験教室

2. 特別支援学校等での障害者スポーツ普及・指導者派遣

①日 時: 平成24年8月17日(金)13時30分~15時30分

会場:クローバープラザ・アリーナ棟体育館

参加者:福岡県高等学校家庭クラブ連盟加盟校 生徒30名

指導者:講師2名(上級・初級)

内容:障害者スポーツ紹介(DVD等) 車椅子バスケットボール体験

②日 時:平成24年9月11日(火)13時~14時

会 場: 久留米特別支援学校体育館

参加者: 久留米特別支援学校 高等部生徒25名

指導者:講師2名(上級·初級)

補助員:ボランティア3名(久留米大学AST)

内容:ふうせんバレーボール

③日 時: 平成24年9月18日(火)13時~14時

会 場: 久留米特別支援学校体育館

参加者: 久留米特別支援学校 高等部生徒40名

指導者:講師2名(上級・初級)

補助員:ボランティア5名(久留米大学AST)

内容: ふうせんバレーボール

④日 時:平成24年11月27日(火)9時30分~11時30分

会 場: 久留米特別支援学校体育館

参加者:小学・中学・高等部 計182名、保護者・教員199名

指導者:講師4名(上級·中級2名·初級)

補助員:指導員1名(初級)ボランティア5名(久留米大学AST)

内容:軽スポーツ&リズム体操

⑤日 時:平成24年12月26日(水)10時~12時

会 場:太宰府中学校通級指導教室

参加者:発達障害の中学・高校生14名・教員2名

指導者:講師3名(上級·中級·初級)

補助員:ボランティア1名(福岡大学学生)

内容:ボッチャ・フライングディスク

⑥日 時:平成25年2月14日(木)10時~12時

会 場:太宰府特別支援学校

参加者:小学・中学・高等部20名・教員18名

指導者:講師5名(スポーツコーチ・上級・中級2名・初級)

内容:陸上(スラローム・ビーンバッグ投・ジャベリックスロー)フライングディスク

⑦日 時:平成25年2月27日(水)14時~16時

会 場:宗像市立玄海中学校

参加者:生徒20名·教員18名

指導者:講師2名(上級1名·中級1名)

補助員:博多パトラッシュ8名(県障害者スポーツ協会会員クラブ)

内容:車椅子ツインバスケットボール体験

⑧日 時:平成25年2月27日(水)14時~16時

会 場:柳河特別支援学校

参加者:生徒9名・教員8名

指導者:講師3名(スポーツコーチ1名・中級1名・初級1名) 内容:県大会競技種目(50m走・スラローム・ビーンバッグ投)

3. その他障害者施設等での障害者スポーツ普及・指導者派遣

①日 時: 平成24年7月23日(月)19時~21時

会 場:嘉穂郡桂川町総合体育館

参加者: 筑豊地区スポーツ推進委員・社会体育担当職員 50名

指導者:講師2名(上級·初級)

内 容: ~ルールや用具を工夫しながらディスクを楽しもう~ フライングディスク

②日 時: 平成24年8月22日(水)10時~12時

会 場:那珂川町民体育館

参加者:町内在住小学4・5・6年生31名、スポーツ推進委員8名

指導者:講師3名(上級·初級2名)

内容:子どもスポーツ教室(車椅子バスケットボール体験)

③日 時: 平成24年8月23日(木)10時~12時

会場:小郡市生涯学習センター七夕ホール

参加者:障害児親の会等 50名

指導者:講師2名(上級·初級)

補助員:ボランティア25名(大原中学校女子ソフトボール部)

内 容:障害者スポーツ・レクリエーション

~ルールや用具を工夫しながら楽しもう~ (ボッチャ等)

④日 時: 平成24年8月26日(日)10時~12時

会場: 夜須高原青少年自然の家

参加者: 久留米市手をつなぐ育成会障害児とその家族 30名

指導者:講師3名(上級·中級·初級)

補助員:ボランティア1名(久留米大学AST)

内容:軽スポーツ(ボッチャ・ボウリング等)

⑤日 時:平成24年11月18日(日)13時~15時

会場:えーるピア久留米

参加者: 久留米市手をつなぐ育成会障害児者(知的・聴覚)とその家族50名

指導者:講師3名(上級・中級・初級)

補助員:指導員1名(初級)ボランティア9名(久留米大学AST)

内容:軽スポーツ(ボッチャ・フライングディスク等)

⑥日 時: 平成 24 年 12 月 13 日·平成 25 年 2 月 21 日(木) 13 時~15 時

会 場:築上町中央公民館·椎田体育館

参加者:障害者(身体・知的)39名 (12/13)・25名 (2/21)

指導者:講師3名(上級·中級·初級)

補助員:スポーツ推進員等12名(しいだコミュニティ倶楽部)

内容:軽スポーツ(リズム体操・フライングディスク等)

⑦日 時: 平成25年1/21·28·3/18·25(月)11時~12時 計4回

会 場:春日市松ヶ丘公民館

参加者:障がい福祉サービス事業所はるかぜ(障害者・職員)12名

指導者:講師1名(中級)

補助員:指導員2名(中級・初級)

内容:軽スポーツ(ふうせんバレー・ホッケー・卓球バレー等)

⑧日 時: 平成25年2月9日(土)10時~12時

会場:かすやドーム

参加者: 粕屋町在住小学生20名

指導者:講師2名(上級1名・中級1名)九州ドルフィン4名(車椅子バスケ

女子チーム) HAGAKURE 6名(車椅子バスケ男子チーム)

内 容: 車椅子バスケットボール体験

⑨日 時:平成25年3月16日(土)10時~12時

会 場: 久留米市西田体育館

参加者:知的障害児11名

指導者:講師4名(上級1名·中級2名·初級1名)

補助員:指導員1名(初級)

⑩日 時:平成25年3月24日(日)9時30分~16時30分

会場:福岡市立障がい者スポーツセンター

参加者: 車椅子ツインバスケットボールチーム(県内4チーム)

指導者:講師2名(上級·中級)

補助員:指導員3名(中級・初級2名)

ボランティア11名(久留米大AST1名)

(那珂川町立福岡女子商業高等学校バスケットボール部10名)

#### 3) 選手強化事業

福岡県障害者スポーツ協会会員クラブの選手強化事業

① 知的障害者バスケットボールクラブ (福岡レイカーズ)

日 時 平成24年12月16日(日)13時~17時 平成25年 3月15日(金)18時~21時

会場 クローバープラザ・アリーナ棟体育館

指導者 講師1名(中級)

補助員 指導員2名(初級)

参加者 20名

知的障害者バスケットボールクラブ(福学クラブ)

日 時 平成25年2月23日(土)13時~17時

会場 クローバープラザ・アリーナ棟体育館

指導者 講師1名(中級)

補助員 指導員4名(初級)ボランティア2名

参加者 50名

② 車椅子バドミントンクラブ (SHUTTLE-ONE)

日 時 平成24年9月16日(土)13時~17時 平成25年1月28日(月)18時~21時

平成25年2月10日(日)13時~17時

平成25年2月11日(月) 9時~16時

会場 クローバープラザ・アリーナ棟体育館

指導者 講師2名 (スポーツコーチ1名・中級1名)

補助員 指導員2名(中級)

参加者 13名

#### Ⅲ. 成果及び評価

- 1) スポーツ教室事業
  - ① 知的障害児水泳教室

筑豊地域の障害者スポーツ指導者が地域のニーズを把握し、水泳教室実施に向けて、会場確保・日程調整、受講者の把握等のプロデュースに取り組むと共に指導実践も併せて行った。2年目の取り組みは自主的運営・継続化に向けて更に大きな期待がもてる教室となった。

② 知的障害児バスケットボール教室

筑豊地域の障害者スポーツ指導者が地域のニーズを把握し、バスケットボール教室実施に向けて、会場確保・日程調整、受講者の把握等のプロデュースを保護者と連携し取り組むことができた。また指導実践も併せて行った。

講師は昨年に引き続き特別支援学校教諭(大学バスケット部卒)及び中級指導員を地域から発掘・継続できたことにより、参加者の意欲やスキルアップに繋げ、この教室も自主的運営・継続化に向けて期待がもてる教室となった。

③ フロアーバレーボール教室

認定校である久留米大学AST (アダプテッドスポーツチーム: H20年11月発足)が積極的にサポートを行うことにより、教室参加者のスキルアップは勿論であり、楽しい雰囲気づくり、意欲に大きく貢献した。

また、学生にとってもフロアーバレーボールというスポーツを通じて視覚障害者から の声かけや支援方法を自然に習得することができた。

2) 指導者の派遣事業

派遣事業については昨年同様、総合型地域スポーツクラブでの基盤づくり、特別支援学校等での普及、障害者施設等での普及の3区分に分け地域団体と連携・構築に取り組んだ。

① 総合型地域スポーツクラブでの基盤づくりのための指導者派遣

この派遣事業では、徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部、徳島大学総合科学部人間文化学科心理・健康コース、行實鉄平氏の研究助成事業との協働事業で3つの総合型地域スポーツクラブと連携し実践した。背景と概要・評価・アンケート結果等については、行實氏の研究資料V. 資料4)のとおりとする。

② 特別支援学校等での派遣

新たな学校も増加し、全国障害者スポーツ大会の競技種目やふうせんバレーボール・軽スポーツ等、学校のニーズに合った内容及び指導者を派遣することができた。

③ 障害者施設等での派遣

各団体は様々なニーズがあり、可能な範囲で地域障害者スポーツ指導者を派遣すると同時に、ニーズに合った専門指導者を派遣することとなった。地域のニーズに合った地域指導者の選択・日程調整等、マネジメントするスタッフの育成及び構築の必要性を痛感する派遣事業となった。

#### 3) 選手強化事業

- ① 知的障害者バスケットボールクラブ (福岡レイカーズ・福学クラブ) バスケットボール及び知的障害者に興味・関心のある障害者スポーツ指導者のき っかけづくりとなった。これを契機にクラブの育成・強化に携わるよう継続的サポートを期待したい。
- ② 車椅子バドミントンクラブ (SHUTTLE-ONE) 競技及び障害に精通した専門指導者の指導により、競技力アップに繋げることが できた。対外的な練習が少ない中、関東・関西・九州各県より選手が参加し、充実 した選手強化事業となった。

#### IV. 今後の課題

1) スポーツ教室事業

教室事業においては、自主運営のためのきっかけづくりであり、知的障害児水泳教室 及びバスケットボール教室の課題であったサポートスタッフの定着化・会場確保は、次 年度に向けてすでに取り組んでいるが、運営のための予算確保(参加費等)が保護者の 理解も必要であり、大きな課題である。

フロアーバレーボール教室は、久留米大学ASTのサポートが必要不可欠であるが、 積極的にサポートした4年生が卒業することで、サポート体制が不安定にならないよう 在学生への引き継ぎが大きな課題である。また、地域の障害者スポーツ指導者の育成も 並行して行うことが大切である。

#### 2)派遣事業

総合型地域スポーツクラブでの派遣事業は3つのクラブがすでに継続事業として取り組んでおり、県内の地域クラブにおいて更に取り組めるように普及・情報提供をすることが大切である。

また、特別支援学校・障害者施設等組織との連携が図れるように障害者スポーツ指導者の構築(指導者の情報:だれが・だれを・いつ・どのような指導・どの程度等)を整えていくことが、福岡県障害者スポーツ協会としての課題である。

- 3)選手強化事業
  - ① 知的障害者バスケットボールクラブ(福岡レイカーズ・福学クラブ) 継続的なサポート(共に練習できるスタッフ)体制が必要であり、障害者スポーツ指導者・地域スポーツ指導者及び認定校等との連携を図り、クラブのニーズに合ったサポートをコーディネイトすることが必要である。
  - ② 車椅子バドミントンクラブ (SHUTTLE-ONE) 全国で競技している選手との交流・練習をすることでお互いに刺激を受け、強化 に繋がることができたことは評価できる。これを継続的な強化事業とするためには、 指導者・場・予算の確保をどのように維持していくかが課題である。

#### V. 資料

- 1) スポーツ教室事業開催要項・指導者名簿
- 2) 指導者の派遣事業
  - •派遣指導者名簿、実践風景
- 3)選手強化事業
  - · 指導者名簿、実践風景
- 4) 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部、徳島大学総合科学部 人間文化学科心理・健康コース、行實鉄平氏の研究資料、実践風景

#### V. 資料 1) スポーツ教室開催要項

## 平成24年度福岡県内における障害者スポーツ振興事業 知的障害児水泳教室開催要項

- 1. 目 的 筑豊地域における知的障害児が水泳を楽しめる機会をつくり、健康維持・増進、 機能の向上を図ると共に、地域の障害者スポーツ指導者と連携を図り、生涯スポーツとして継続化することを目的とする。
- 2. 主 催 福岡県障害者スポーツ協会
- 3. 教室の内容(日程等)
  - ①日 程 10月~1月の毎月第一・第三金曜日18時~19時 合計12回 (10/5・19・11/2・16・12/7・21・1/11・25・2/1・15・3/1・3/15)
  - ②会 場 健康の森運動公園・室内プール (飯塚市吉北 118)
  - ③対象者 筑豊地域に居住する小学校3年生~中学生の知的障害児
- 4. 参加費 1000円(傷害保険料等) 徴収します。
- 5. 携行品 水着・スイミングキャップ・タオル
- 6. 申込方法

希望者は、別紙申込書及び自己申告の健康チェック票を添付し申込むこと。(FAX可)

7. 申込先・連絡先

#### 福岡県障害者スポーツ協会(クローバープラザ受箱 15 号)

春日市原町3丁目1-7 TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

※この事業は平成24年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

# 平成24年度福岡県内における障害者スポーツ地域振興事業 知的障害児バスケットボール教室開催要項

- 1.目 的 筑豊地域における知的障害児がバスケットボールを楽しめる機会をつくり、健康維持・増進、機能の向上を図ると共に、地域の障害者スポーツ指導者と 連携を図り、生涯スポーツとして継続化することを目的とする。
- 2. 主 催 福岡県障害者スポーツ協会
- 3. 教室の内容(日程等)
  - ①日 程 1月~3月の毎週木曜日 18時30分~20時 計10回 (1/10・24・31・2/7・14・21・28・3/7・14・21)
  - ②会場サン・アビリティーズいいづか(飯塚市大字柏の森956-4)
  - ③対象者 筑豊地域に居住する小学生~高校生の知的障害児
- 4. 参加費 1000円(傷害保険料等) 徴収します。 (なお、兄弟児が参加する場合は一人500円とします。)
- 5. 携行品 上靴・タオル
- 6. 申込方法

希望者は、別紙申込書及び自己申告の健康チェック票を添付し申込むこと。(FAX可)

7. 申込先・連絡先

#### 福岡県障害者スポーツ協会(クローバープラザ受箱 15 号)

春日市原町3丁目1-7 TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

※この事業は平成24年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

# 平成24年度福岡県内における障害者スポーツ振興事業 フロアーバレーボール教室開催要項

- 1.目 的 筑後地域における視覚障害者が、フロアーバレーボールを楽しめる機会をつくり、 健康維持・増進、機能の向上を図ると共に、地域の障害者スポーツ指導者と連携を 図り、生涯スポーツとして継続化することを目的とする。
- 2. 主 催 福岡県障害者スポーツ協会
- 3. 教室の内容(日程等)
  - ①日 程 12月~2月の毎週木曜日19時30分~21時30分 合計12回 (11/8・15・22・29・12/13・20・1/10・24・31・2/7・14・21)
  - ②会 場 久留米市立久留米特別支援学校(久留米市南町 1-2-1)
  - ③対象者 筑後地域に居住する視覚障害者及びフロアーバレーボールに興味 のある障害者スポーツ指導員・認定校学生等
- 4. 参加費 1000円(傷害保険料等) 徴収します。
- 5. 携行品 上靴・タオル
- 6. 申込方法

希望者は、別紙申込書及び自己申告の健康チェック票を添付し申込むこと。(FAX可)

7. 申込先・連絡先

#### 福岡県障害者スポーツ協会(クローバープラザ受箱 15 号)

春日市原町3丁目1-7 TEL 092-582-5223 FAX 092-582-5228

※この事業は平成24年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

# 1)スポーツ教室事業(指導者名簿)

教室名	指導者	NO	区分 NO	氏名	資格•所属	備考
	講師	1	1	藤原 香	上級	
	니다큐미	2	2	奥村 勝志	中級	
		3	3	藤原 克美	中級	
		4	4	足立 和広	初級	
】 ①知的障害児水泳教室		5	5	高木 靖夫	初級	
	補助員	6	6	山下 三夏子	初級	
	冊切貝	7	7	出水 和幸	初級	
		8	8	大野 早紀	初級	
		9	9	新納 勝成	初級	
		10	10	藤川 寛曜	無	
	講師	11	1	大屋 寛記	特別支援学校教諭	
	니다(무대	12	2	奥村 勝志	中級	
		13	3	新納 勝成	初級	
		14	4	足立 和広	初級	
		15	5	佐藤 俊吾	初級	
	補助員	16	6	高木 靖夫	初級	
②知的バスケットボール教室		17	7	梶原 楓	初級	
		18	8	山崎 あや	初級	
		19	9	甲斐 みどり	無	
		20	10	金子 加代	無	
		21	11	山田 宗範	無	
		22	12	藤川 寛曜	無	
		23	13	宮嶋 久枝	無	
	講師	22	1	高木 富士男	上級	
	비나무대	23	2	大久保 幸雄	会員クラブコーチ	
		25	3	徳永 朱李	初級	
		26	4	平地 恭子	初級	
		28	5	諸富 悟	無	
		29	6	福元 一絵	無	
③フロアーバレーボール教室		30	7	川島 綾香	無	
	補助員	31	8	一法師 健登	無	久留米大
	加少只	32	9	吉田 沙緒理	無	学AST
		33	10	安河内 雄紀	無	
		34	11	大津 貴昭	無	
		35	12	新保 亜唯	無	
		36	13	大久保 絵梨	無	
		37	14	小関 あゆみ	無	

## 1)スポーツ教室事業(実行委員会名簿)

<u> </u>	1/ W. / WEAK(VI) A K Z A A A									
教室名	NO	区分 NO	氏名	資格·所属	備考					
	1	1	藤原 香	上級						
①知的障害児水泳教室	2	2	奥村 勝志	中級						
		3	山野 明	上級						
	4	1	奥村 勝志	中級						
  ②知的バスケットボール教室	5	2	金子 加代	無	保護者代表					
	6	3	甲斐 みどり	無	保護者代表					
	7	4	山野 明	上級						
	8	1	高木 富士男	上級						
③フロアーバレーボール教室	9	2	大久保 幸雄	会員クラブコーチ						
	10	3	山野 明	上級						

# 2)指導者の派遣事業(指導者名簿)

1. 総合型地域スポーツクラブでの基盤づくりのための指導者の派遣

1. 総合型地域スポーツクラ 事業名	<u>ノでの基盤</u> 指導者	NO	区分		<u>相等有の派進</u> 氏名	資格•所属	 備考
尹未石			NO	.1.07	-		1佣 右
	講師	1	1	山野	明	上級	
		2	2	芳賀	優子	初級	
		3	3	花田	道子	スポーツ学部	助手
		4	4	羽有	ありさ		
①しいだコミュニティ倶楽部		5	5	藤川	千恵		
X		6	6	鎌田	潮里		
ASプロジェクト協議会 (フライングディスク体験教室)	補助員	7	7	藤村	幸子	九州女子大学	学生
(フライフファイベラ)や河太安王/		8	8	藤山	幸香	人間発達学部   	,
		9	9	野上	桂		
		10	10	矢野	夏未		
		11	11	蓑原	花佳		
				しいた	ニコミュニティ倶楽	楽部スタッフ等(13	3名)
	講師	12	1	藤野	一成	初級	つむじ風
		13	2	中神	法子	初級	
		14	3	北原	理恵	初級	
	補助員	15	4	山野	洸平	初級	
		16	5	梶谷	利治	スポーツBRANDEX 福岡	
②スポーツBRANDEX福岡		17	6	高木	富士男	西日本短期大学	講師
× ASプロジェクト協議会		18	7	原彩		西日本短期大 学健康スポーツ コミュニケーショ ン学科	学生
(ハンドバイク体験教室)		19	8	倉掛	大周		
		20	9	小濱	将平		
		21	10	福迫	由紀		
		22	11	古川	慧史郎		
		23	12	松田	 拓磨		
				スポー	ーツBRANDEX裕		<b>'</b> 1)
	講師	23	1	岩﨑	 満男	初級	
		24	2	山下	大介	中級	
		25	3	陣内	 博	久留米総合型 クラブ	
		26	4	諸富	 悟	,,,,	
②力 匈亚士 炒 △ 刑 万二 一		27	5	川島	 綾香		
③久留米市総合型クラブ ×		28	6	吉田	沙緒里		
ASプロジェクト協議会	補助員	29	7		一絵	│ 久留米大学 │ │ AST	***
(車いすスポーツ体験教室)		30	8		 朱李	(アダプテッドス	学生
		31	9		<del></del> 典子	ポーツチーム)	
		32	10	大津			
		33	11	平地			
			<u> </u>			<u> </u> ブスタッフ等(8名)	)
			<u> </u>	<u>  八世</u>	トロックロエノノ	- ハノノノ 寸 (0位)	,

#### 2)派遣指導者名簿

2. 特別支援学校等での障害者スポーツ普及・指導者派遣

3. その他障害者施設等での障害者スポーツ普及・指導者派遣 ○ 印が「地域振興」でのサポートスタッフ 支出 対象 NO 備考 氏 開催日 会場 内容 対象団体 資格 区分 区分 山野 明 講師 上級 桂川町 フライング 3 筑豊地区スポーツ 7/23(月) 1 推進委員協議会 講師 理恵 体育館 ディスク 2 北原 3 初級 2 3 講師 山野 明 上級 福岡県高等学校 2 車椅子バスケ クローバー 8/17(金) 家庭クラブ連盟 2 講師 山野 洸平 初級 4 5 講師 山野 洸平 3 初級 那珂川町民 那珂川町教育委員会 6 3 講師 小藤 8/22(水) 車椅子バスケ 3 初級 (スポーツ推進委員) 体育館 7 山野 阴 3 講師 上級 阴 8 講師 山野 3 上級 小郡市生涯 軽スポーツ おもちゃ図書館 8/23(木) 4 ゴリリンクラブ 学習センター (ボッチャ・FD) 9  $\bigcirc$ 講師 北原 理恵 3 初級 講師 山野 明 3 上級 10 講師 古屋 貴啓 3 中級 11 軽スポーツ 久留米市手を 夜須高原青少 5 8/26(日) 年自然の家 (ボッチャ等) つなぐ育成会 12 講師 山野 洸平 3 初級 入留米 ボラ 諸富 13 悟 3 講師 山野 明 2 上級 14 講師 小藤 昇 初級 15  $\bigcirc$ 2 久留米特別支 ふうせん 久留米市立久留米 ボラ 9/11(火) 2 16 6  $\bigcirc$ 諸富 悟 援学校体育館 バレー 特別支援学校 久留米 「ボラ 17 吉田 沙緒理 2 大学AST 18 ボラ 徳永 朱梨 2 19 講師 山野 明 2 上級 講師 小藤 昇. 2 初級 20 ボラ 21 諸富 悟 2 ふうせん 久留米特別支 久留米市立久留米 22 7 ボラ 吉田 沙緒理 9/18(火) 2 バレー 特別支援学校 援学校体育館 久留米大 ボラ 23 徳永 朱梨 2 学AST ボラ 2 24 相浦 由美子 25  $\bigcirc$ ボラ 杉本 茉祐佳 2 講師 山野 明 3 上級 26 福岡 勇気 3 中級 27 講師 山野 28 講師 洸平 3 初級 3 初級 29  $\bigcirc$ 補助員 平地 恭子 30 ボラ 3 諸富 悟 ボラ 福元 31 3 えーるピア 軽スポーツ 久留米市手を 8 ボラ 川島 11/18(日) 32 綾香 3 久留米 (ボッチャ・FD) つなぐ育成会 ボラ 吉田 沙緒理 33 3 久留米大 ボラ 34  $\bigcirc$ 大久保 絵梨 3 学AST ボラ 35 新保 亜唯 3 ボラ 3 36  $\bigcirc$ 相浦 由美子 37 ボラ 杉本 茉祐佳 3  $\bigcirc$ ボラ 3 38 三浦 史織 講師 甲 鶴子 2 上級 39 染谷 2 中級 40 講師 佳世 講師 山野 明 2 上級 41 中村 2 初級 42 講師 満子 久留米市立久留米 補助員 平地 恭子 初級 43 2 久留米特別 軽スポーツ 9 11/27(火) 特別支援学校 支援学校 ミュージックケア ボラ 諸富 悟 2 44 保護者会 ボラ 川島 2 45  $\bigcirc$ 綾香 久留米大 ボラ 2 福元 46 一絵 学AST ボラ 大津 2 貴昭 47 48  $\bigcirc$ ボラ 一法師 健登 2

	NO	支出区分	氏 名	開催日	会場	内容	対象区分	対象団体	資格	備考
49		$\bigcirc$	講師 山野 明				1		上級	
50		<u> </u>	講師 染谷 佳世		築上町中央	軽スポーツ	1	しいだコミュニティ	中級	
51	10		補助員 芳賀 優子	12/13(木)	体育館	(リズム体操)	1	倶楽部	初級	
52		<u> </u>	補助員 スポーツ推進員				1		1/3/1/2	12名
53			講師山野明				2		上級	ТДРД
54			講師小藤昇		太宰府	軽スポーツ	2	太宰府中学校 太宰府中学校	初級	
55	11		講師 山野 洸平	12/26(水)	中学校	(ボッチャ等)	2	通級指導教室	中級	
56			ボラ 宮地 茜				2		1 102	福岡大学
57		Ĭ	講師山野明				3		上級	10011 35 4 3
58	12		講師 山野 洸平	1/7(月)	久留米総合	軽スポーツ	3	久留米市手を	中級	
59	1-		ボラ 宮地 茜	_, ,	福祉センター	(ボッチャ等)	3	つなぐ育成会	1 7004	福岡大学
60		<i></i>	講師山野明				3		上級	
61	13		講師 山野 洸平	1/21(月)	松ヶ丘公民館	軽スポーツ	3	はるかぜ	中級	
62	10		補助員 三笠 愛吏	=, = = 0, •,	12.7	(ふうせんバレー)	3		初級	
63		<i></i>	講師山野明				3		上級	
64	14		講師 山野 洸平	1/28(月)	松ヶ丘公民館	軽スポーツ	3	はるかぜ	中級	
65			補助員 福岡 勇気			(ホッケー)	3		中級	
66		0	講師山野明	- (- ( ) )		車椅子バス	3	粕屋町在住小学生	上級	
67	15	0	講師 山野 洸平	2/9(土)	かすやドーム	ケットボール	3	(粕屋町社協)	中級	
68		0	講師 小手川 郁人				2		コーチ	
69		Ō	講師 染谷 佳世			陸上(スラロー	2		中級	
70	16	0	講師 山野 洸平	2/14(木)	太宰府特別支	ム・ビーンバッ グ)・フライング	2	福岡県立太宰府 特別支援学校	中級	
71			講師 小藤 昇		援学校体育館	ク J・/ フィンク   ディスク等	2	村別又抜子仪	初級	
72			講師 山野 明				2		上級	
73		0	講師 山野 明				1		上級	
74	1.7		講師 染谷 佳世	0 (01 ( 1.)		軽スポーツ(フ	1	しいだコミュニティ	中級	
75	17	0	補助員 芳賀 優子	2/21(木)	椎田体育館	ライングディス     ク・リズム体操)	1	倶楽部	初級	
76			補助員 スポーツ推進員				1			12名
77		0	講師 小手川 郁人			陸上(50m走・	2		コーチ	
78	18	0	講師 染谷 佳世	2/27(水)	柳河特別支援 学校体育館	スラローム・	2	福岡県立柳河 特別支援学校	中級	
79			講師 小藤 昇		于仅件月岛	ビーンバッグ)	2	刊加入极于区	初級	
80	19	0	講師 山野 洸平	2/27(水)	宗像市立玄海	車椅子ツインバス	2	宗像市立	中級	
81	19	$\overline{}$	講師 山野 明	2/21(/5\)	中学校体育館	ケットボール	2	玄海中学校	上級	
82		0	講師 染谷 佳世				2		中級	
83		0	講師 山野 洸平		h 571 V. ±	軽スポーツ (ボッチャ・ボウ	2	h 연기 구선 스트린	中級	
84	20	0	補助員 北原 理恵	3/16(土)	久留米市 西田体育館	リング・ハンド	2	久留米市社会福祉 協議会	初級	
85		$\angle$	講師 小藤 昇			サッカー)	2		初級	
86			講師 山野 明				2		上級	
87	21	0	補助員 三笠 愛吏	3/18(月)	松ヶ丘公民館	卓球バレー	3	はるかぜ	上級	
88	41	0	補助員 福岡 勇気	0/ 10(/)1/			3	18.0% C	中級	
89		$\angle$	講師 山野 明				3		上級	
90		0	講師 山野 洸平				3		中級	
91		0	補助員 平地 恭子		福岡市立障が	1.11.	3		初級	
92	22	0	補助員 川島 綾香	3/24(日)	い者スポーツ	車椅子ツイン バスケットボール	3	博多パトラッシュ	中級	久留米大
93		0	補助員 吉田 沙緒理		センター	/ // // /*	3		初級	学AST
94		0	ボラ 諸富 悟				3			
95		$\circ$	ボラ 那珂川町立福岡女子商 業高等学校バスケットボール部				3			10名
96			講師 山野 洸平				3		中級	
97	23	0	補助員 三笠 愛吏	3/25(月)	松ヶ丘公民館	ふうせん バレー	3	はるかぜ	初級	
98			補助員 福岡 勇気			ハレー	3		中級	$\Box$

















































# 3)選手強化事業(指導者名簿)

対象競技(クラブ名)	指導者	NO	区分 NO	氏名	資格	備考
	講師	1	1	山野 洸平	中級	
		2	2	山下 尚子	初級	
		3	3	手島 元幸	初級	
①知的障害者バスケットボール	補助員	4	4	片岡 千亜紀	初級	
(福岡レイカーズ・福学クラブ)		5	5	北原 理恵	初級	
		6	6	平地 恭子	初級	
		7	7	吉田 沙緒理	無	久留米大学 AST
		8	8	大津 貴昭	無	
	講師	11	1	平野 一美	スポーツコーチ	
②車椅子バドミントン		12	2	森 勇作	上級	
(SHUTTLE-ONE)	12 IL F	13	3	古屋 貴啓	中級	
	補助員	14	4	山野 洸平	中級	



















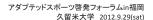




車椅子バドミントン選手強化事業 2/10(日)・2/11(月)実施内容						
第1日目:平成25年2月10日(日)	第2日目: 平成25年2月11日(祝/月)					
9:00 会場準備 9:50 開会式 オリエンテーション	9:00 会場準備 10:00 ウォーミングアップ					
10:00 ウォーミングアップ	10:20 チェアスキルトレーニング					
10:20 チェアスキルトレーニング	11:00 基礎打ち 12:00 休憩					
11:00 基礎打ち 12:00 休憩	13:00 中級者:ショット練習(ノックによるコース打ち)、パタ					
13:00 中級者:ショット練習(ノックによるコース打ち) 初級	ーン練習初級者:シャトルキャッチ、基礎ショット練習(手持)					
者:シャトルキャッチ、基礎ショット練習(手投げ)	14:00 ゲーム(男女別シングルス、団体戦)					
14:30 パターン練習	16:00 希望項目練習、質疑応答					
15:30 ダブルスゲーム(男女別、ミックス)	16:30 クールダウン 17:00 退館					
16:30 クールダウン 17:00 退館						
参加者:選手13名、スタッフ7名						
男子	女子 1. 小林悦子(福岡県)2. 桐田理子(福岡県					
1. 山見誠治(福岡県)2. 大江 守(福岡県)3. 齊藤英雄(福岡県)4. 久保里司(長崎県	3. 福永千笑(福岡県)4. 瑞泉亮子(長崎県					
	,					
5. 荒木正弥(長崎県)6. 楠瀬由希也(神奈川県	5. 江上陽子(滋賀県)6. 浜田華(健常者・滋賀県)					
7. 成瀬修次(健常者・福岡県)						

#### V. 資料 4)

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部、徳島大学総合科学部 人間文化学科心理・健康コース、行實鉄平氏の研究資料



パネルディスカッション

「ASプロジェクトに参加した総合型クラブの実践」



# ASプロジェクトの背景と概要

行實鉄平(徳島大学) yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp







【SBF:ハンドバイク教室】

【久留米:車いすスポーツ教室】

#### ASプロジェクトとは

地域の身近な場で障がいを持った 方々も健常者と一緒に継続的なスポーツ活動ができる場を創造してい こうとする研究プロジェクト!



大学

総合型クラブ

行政

障害者スポーツ協会

# 背景(実践者の想い)

障がいを持った 方が身近な場 で定期的なスポーツ活動を行 う場が少ない! 障がい者と関わることで、こんなにも学生の変化 があるのか!



(障害者スポーツ 指導員として勉 強された方々の 実践の場が少 ない!

これまでの活動 によって醸成さ れた、レガシー を活用すること はできないか!

もう一度、 「総合型クラブ」で障がい者スポーツ活動を展開してみたい!

# 

- ●各種調査の実施(H22-23)
  - ▶障害者スポーツ指導員の活動および意識に関する調査 実査方法:「福岡ハンディキャップサポートの会(irs)」を対象とした郵送法によるアンケート調査 実査日時:平成22年12月14日 ~平成23年1月17日 配布・回収(筆)・配布⇒453枚、回収⇒185枚(40.8%)
  - ▶福岡県の総合型クラブにおける障がい者スポーツ活動に関する調査 実査方法・福岡県内の総合型クラブ(62クラブ)を対象とした郵送法によるアンケート調査 実査日時・平成23年4月20日~平成23年5月16日 配布・回収(申)・配布⇒62枚、回収~44枚(70.1%)
- ●県内3クラブと協力したASプロジェクトを計画(H23-24)
- step 1:プログラム「開発」(H23.11~H24.4)
  - ⇒ 各組織代表者によるプログラム開発会議を開催(3回)⇒ 総合型クラブが主体となって取り組むことのできるASプログラムを開発
- step 2:プログラム「実践」(H24.5~H24.7)
  - ⇒ 県北・県央・県南の総合型クラブでASプログラムを実践(6回)
- step 3 : プログラム「評価」(H24.8~H24.9)
  - ⇒ 各組織代表者によるプログラム評価会議を開催(内部評価:2回)⇒ AS啓発フォーラムの開催(外部評価)

総合型クラブ ⇒しいコミ、SBF、久留米 大学

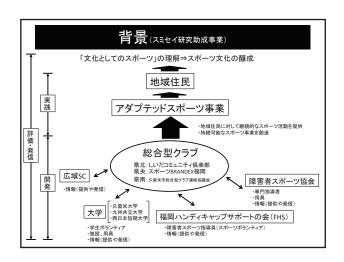
大学 →九州共立大学、西日本短期大学、 久留米大学 行政

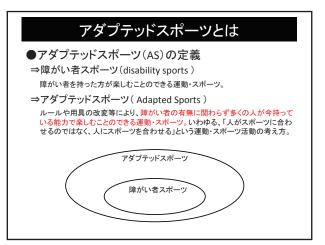
行政

→ 福岡県、福岡県教育委員会、障害者スポーツ協会、広域な、築上町、築上町教育委員会、那到川町教育委員会、久留米市教育委員会

京書者スポーツ指導者

→ 福岡ハンディキャップサポートの会





# アダプテッドスポーツ(AS)事業とは

- ・健常者と障がい者が一緒に楽しめるスポーツプログラムであること
- ・継続的な事業(教室)を見据えた展開を考えながら活動すること

- 事業(教室)を常に評価をすること
- → 教室実施後は、必ずスタッフの「反省会」をすること⇒ 参加者等の人数、参加者の雰囲気等の記録(活動実践報告書)
- ⇒ 参加者やスタッフの気持ちの記録(アンケート調査)
- ・事業はボランティアベースで実施すること(ただし、交通費等の実費は稼<del>ぎたい</del> ・あくまでも、総合型クラブ主体の事業(教室)であること

「参加者」や「スタッフ」が無理なく継続できるプログラムは、、 どのようなものなのかを本実践において検討したい!

# ASプロジェクト実践 ●各教室(1回)の流れ スタッフ準備(会場、用具、内容打ち合わせ) 受付(参加者、スタッフ) 本日の教室内容の説明、始まりの挨拶 約2時 準備体操 主運動+レクゲーム 本日の教室内容についての感想、終わりの挨拶 スタッフ反省会 教室実施報告書





【しいだコミュニティ倶楽部】

2005年3月、発上町相田体育館を拠点とし、地域住民 により設立・選定される地域スポーツクラブ、地域住民 の雑もが参加でき、様々なスポーツグラブ、地域住民が、 送じて金倉同士や世代間交流を否禁にし、地域住民が、 よりよい人間間を作り、「電サンド業」より足りて いけるような交流の場となることを目指す。

【ASプロジェクト協議会】

1027ビニュイ Issuand 地域の身近な場で降かいを持った方々も健常者と一 緒に機能的なスポーツ活動が出来る場を創造していこうとする研究プロジュケ、ACは、アダプテ・バスポー ツの路、福岡県都書ネボーツ協会を中心として、大 学研究者や学生ポランティア団体、泉や市町村行政、 地域スポーツラブが連携し、2012年4月より実践プロ グラムの始動を目指す。

日程: 平成24年5月10日(木)スタート

(5/10・24、6/14・28、7/12・26の全6回開催)

時間: 13:30~15:30(2時間/回)

場所 : 築上町椎田体育館

対象 : 築上町住民

(子どもも、大人も、障がいのある方々も参加歓迎)

内容: フライングディスク + 軽スポーツ

参加費 : クラブ会員 1回チケット

無料 \_500円\_⇒ 200円

一括(6回)チケット 2500円 ⇒ 1000円

\*研究プロジェクトの助成により多くの方が参加しやすい金額を設定させていただきました。 \*この事業は平成24年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

【主催】LUパニミュニティ俱楽部、ASプロジェクト協議会 【協力指開開侃協スポーツセンター、福岡県房番名スポーツ協会、京篆教育事務所、福岡県ハンディキャップサポート の後、九州北五大学アダブテットボーン研究会、第上町、第上町の青季角会

かな 年齢 住所 障がい 有・無 氏名 種類等) 連絡先・Eメール かな 年齢 障がい 有・無 住所 氏名 連絡先・Eメール かな 年齢 歳 住所 障がい 有・無 氏名 種類等) 連絡先・Eメール

申し込み用紙

記入事項

かな 年齢 住所 障がい 有・無 氏名 連絡先・Eメール かな 年齢 住所 障がい 有・無 氏名 種類等) 連絡先・Eメール

\*参加申し込みに際して、ご記入いただく個人情報は、本教室以外の目的には使用いたしません。

## 申し込み方法と締切

上記の申込用紙に必要事項を記入の上、下記までFAXもしくはメールにてお申し込みください。また、直接申し込み用紙を持ってきていただいてもOKです。

申し込み締切 : 4月27日(金)

#### 申し込み先

NO

しいだコミュニティ倶楽部(総合型地域スポーツクラブSINCE2005) 〒829-0331 福岡県築上郡築上町大字高塚787-2(築上町椎田体育館内)

> : 0930-56-0075 メール : s-taiikukan@mild.ocn.ne.jp

「スポーツBRANDEX福岡 × ASプロジェクト協議会」連携プログラム ハンドバイク体験教室





【スポーツBRANDFX福岡】

2010年2月に設立。那珂川町を拠点とし、地域住民に より設立・選塞される地域スポーツクラブ。那珂川町体 育協会加盟団体である「サイクルスポーツ那珂川連 型が母体であり、自転車スポーツによる多世代、多志 向の金月による健康増進・スポーツ交流を図るべく、現 在、様々な自転車スポーツに関する教堂やイベントを 展開している。

#### 【ASプロジェクト協議会】

(ベンコンエン「加速板」 地域の身近な場で降がいを持った方々も健常者と一緒に継続的なスポーツ活動が出来る場を創造していこうとする研究プロジント、&とは、アダプラッドスポーツの路、福岡県障害者スポーツ協を全中心として、大学研究者や学生ポランティア団体、県や市町村行政、地域スポーツクラブが連携し、2012年4月より実践プログラムの始動を目指す。

: 平成24年5月13日(日)スタート

(①5/13・②5/27・③6/9・④6/23・⑤7/15・⑥7/29の全6回開催)

時間:3410時~12時、12513時~15時、610時~15時

場所 : ①中ノ島公園、②⑤ミリカローデン那珂川、③④那珂川町民体育館、⑥グリンピア那珂川 \*時間、場所は変更する場合があります。

対象:那珂川町民

(子どもも、大人も、障がいのある方々も参加歓迎)

内容: ハンドバイク + 自転車 + 軽スポーツ

参加費 : クラブ会員 無料 1回チケット

\_\_500円\_ ⇒ 200円 一括(6回)チケット 2500円 ⇒ 1000円 \* 研究プロジェクトの助成により多くの方が参加しやすい金額を設定させていただきました。 \*この事業は平成24年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

【主催】スポーツBRANDEX福岡、ASプロジェケト協議会 【協力】祖岡県広境スポーツセンター、福岡県務害者スポーツ協会、福岡県ハンディキャンプサポートの会、西日本短期 大学健康スポーツコミュニケーシュン学科、久留米大学ダブデッポスポーツチーム、勝珂川町、藤珂川町敷育委員会

#### 申し込み用紙

NC			記入事項	
	かな	年齢 歳	Ŧ	
1	氏名	障がい 有・無	住所	備考 (障害の 種類等)
		連絡先・Eメール		恒现寺/
	かな	年齢 歳	Ŧ	
2	氏名	障がい有・無	住所	備考(除害の
		連絡先・Eメール		種類等)
	かな	年齢 歳	Ŧ	
3	氏名	障がい有・無	住所	備考(除害の
		連絡先・Eメール		種類等)
Г	かな	年齢 歳	Ŧ	
4	氏名	障がい 有・無	住所	備考 (除書の 種類等)
		連絡先・Eメール		恒现寺/
	かな	年齢 歳	Ŧ	
5	氏名	障がい 有・無	住所	備考 (除書の 種類等)
		連絡先・Eメール		恒现寺/

\*参加申し込みに際して、ご記入いただく個人情報は、本教室以外の目的には使用いたしません。

#### 申し込み方法と締切

上記の申込用紙に必要事項を記入の上、下記までFAXもしくはメールにてお申し込みください。また、直接申し込み用紙を持ってきていただいてもOKです。

申し込み締切 : 4月30日(月・祝)

#### 申し込み先

スポーツBRANDEX福岡(総合型地域スポーツクラブ) 〒811-1215 福岡県筑紫郡那珂川町松原3番11号

> : 092-954-1023 メール: info@sports-brandex.jp



# 久留米市総合型クラブ 🗴 🕵



#### 【久留米市総合型クラブ】

人の場合になっていない。 人の資本にあるてつめた場とオーツクラブの連合組織。2006年度より活動をスタート。市内全域を対象としたイベントを乗ぎる部には、各クラブが協力し合い、様々な事業を展開し、総合型グラブの中を行っている。 たなけた。食費のシタルはあるが、各スポーツクラブでは、誰よが参加できる運動、スポーツ教堂やイベントを 年間を造して展開している。

#### 【ASプロジェクト協議会】

いスプレン・ハ turnsのより 地域の身近な場で降がいを持った方々も健常者と一緒に継続的なスポーツ活動が出来る場を創造していこうとする研究プロジェクト。ACとは、アダプラッドスポーツの路、福岡県等者マオージの後を中心として、大学研究者や学生ボランティア団体、県や市町村行政、地域スポーツクラブが連携し、2012年4月より実践プログラムの始勤を目指す。

日程: 平成24年5月12日(土)スタート

(5/12・26、6/9・23、7/7・21の全6回開催)

時間: 10:00~12:00(2時間/回) 場所 : 宮ノ陣中学校体育館、荘島体育館

対象: 久留米市民と周辺地域のみなさま

(子どもも、大人も、障がいを持った方々も参加歓迎)

内容: 車いすテニス + 車いすバスケ + 軽スポーツ

参加費 : クラブ会員 無料

1回チケット \_500円 ⇒ 200円 一括(6回)チケット 2500円 ⇒ 1000円

\*研究プロジェクトの助成により多くの方が参加しやすい金額を設定させていただきました。 \*この事業は平成24年度公益財団法人日本障害者スポーツ協会からの委託により実施するものです。

【主催】入電米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、A3プロジェクト協議会 【協力】温岡県広域スポーツセンター、福岡県財産者スポーツ協会、福岡県ハンディキャップサポートの会、久留米大学 アダプテッドス・ツラーム、公園本内、公園本作司委員会

			申	し込み用紙		
NO				記入事項		
П	かな	年齢	歳	Ŧ		
1	氏名	障がい 有・無	住所	f	備考 (障害の 種類等)	
		連絡先・Eメール			性現寺)	
П	かな	年齢	歳	Ŧ		
2	氏名	障がい 有・無	住所	i	備考 (障害の 種類等)	
		連絡先・Eメール			性現寺)	
П	かな	年齢	歳	Ŧ		
3	氏名	障がい有・無	住所	i	備考 (障害の 種類等)	
		連絡先・Eメール			性現寺)	
П	かな	年齢	歳	Ŧ		
4	氏名	障がい 有・無	住所	i	備考 (障害の 種類等)	
		連絡先・Eメール			種類等)	
П	かな	年齢	歳	Ī		
5	氏名	障がい 有・無	住所	i	備考 (障害の 種類等)	
1 1		生物化 ヒルコ			性規等)	I

連絡先・Eメール \*参加申し込みに際して、ご記入いただく個人情報は、本教室以外の目的には使用いたしません。

#### 申し込み方法と締切

上記の申込用紙に必要事項を記入の上、下記までTEL/FAXもしくはメールにてお申し込みください。また、直接申し込み用紙を持ってきていただいてもOKです。

申し込み締切 : 4月30日(月・祝)

#### 申し込み先

笑群バイクラブ(総合型地域スポーツクラブ) 〒839-0803 福岡県久留米市宮ノ陣町大社434-2 (宮ノ陣校区コミセン内)

FAX : 0942-35-6670 メール : syogunbai@miracle.ocn.ne.jp

久留米市市民文化部体育スポーツ課 〒830-0042 久留米市荘島町11-1 (荘島体育館)

TEL: 0942-30-9226 FAX: 0942-38-2259

# ASプロジェクト 教室事業参加実績

	【しいだ】フラィ	イングディス	くク体験教	<u></u> 室	
日時	場所		参加	人数	
Д ну	<i>2</i> €171	障害者	健常者	スタッフ	計
5月10日	椎田体育館	13	17	16	46
5月24日	椎田体育館	13	13	11	37
6月14日	椎田体育館	21	6	21	48
6月28日	椎田体育館	19	6	17	42
7月12日	椎田体育館	19	5	13	37
7月27日	椎田体育館	21	5	15	41
辺	Eベ人数	106	52	93	251

	【那珂川】/	ヘンドバイク	体験教室		
日時	場所		参加	人数	
ഥ년	物別	障害者	健常者	スタッフ	計
5月13日	中之島公園	5	13	14	32
5月27日	ミリカローデン	4	14	12	30
6月9日	ミリカローデン	3	7	10	20
6月23日	町民体育館	3	14	12	29
7月15日	JR博多南駅	3	13	10	26
7月29日	むねのき	3	15	11	29
————	[べ人数	21	76	69	166

	【久留米】車は	ハすスポー	ツ体験教室	Ē	
日時	場所		参加	人数	
口吋	物別	障害者	健常者	スタッフ	計
5月12日	宮ノ陣中学校	3	4	8	15
5月26日	宮ノ陣小学校	5	17	8	30
6月9日	荘島体育館	5	18	15	38
6月23日	荘島体育館	3	14	10	27
7月7日	荘島体育館	5	33	15	53
7月21日	荘島体育館	4	13	13	30
<b></b>	[ベ人数	25	99	69	193

# ASプロジェクトに参加した総合型クラブ アンケート結果性別

	全体	<b>本</b>	<u>ر</u>	ี่ ≝⊏เาา	SE	SBF	久昏	留米
垻ㅂ	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
男性	38	55.9	13	48.1	15	75.0	10	47.6
女性	30	44.1	14	51.9	2	25.0	11	52.4
合計	89	100.0	27	100.0	20	100.0	21	100.0

年齢

면	₩	全体	17	こいコミ	SBF	3F	久昏	久留米
ы П	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
歳以下	9	9.1	0	1	0	ı	9	30.0
10代	13	19.7	ဇ	11.5	က	15.0	7	35.0
20/K	Ξ	16.7	2	7.7	2	25.0	4	20.0
30/K	7	10.6	ဇ	11.5	က	15.0	-	5.0
40代	Ξ	16.7	7	26.9	က	15.0	-	2.0
50/t	10	15.2	2	19.2	4	20.0	-	5.0
60歳以上	8	12.1	9	23.1	2	10.0	0	I
슈타	99	100.0	26	100.0	20	100.0	20	100.0

障害有無

留米	%	19.0	81.0	100.0
久昏	度数	4	17	21
SBF	%	21.1	78.9	100.0
SE	度数	4	15	19
=⊏เาา	%	7.7	92.3	100.0
กา	度数	2	24	26
<b>本</b>	%	15.2	84.8	100.0
(表	度数	10	26	99
坦	Ä I	æ ህ	なし	合計

教室参加

떠	全体(N=68)	(89=N	LU⊐≡(n=27)	:(n=27)	SBF(n=20)	n=20)	久留米	:(n=21)
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
1回目	35	51.5	13	48.1	Ξ	55.0	11	52.4
2回目	27	39.7	Ξ	40.7	11	55.0	2	23.8
3回目	33	48.5	13	48.1	=	55.0	6	42.9
4回目	30	44.1	16	59.3	7	35.0	7	33.3
5回目	36	52.9	14	51.9	6	45.0	13	61.9
回9	61	89.7	20	74.1	20	100.0	21	100.0

教室の認知

면	全体(N-66)	(99-1	ミニいつ		SBF(	SBF(n=20)	久留米(n=21)	(n=21)
Д П	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
チラン・ポスター	2	7.6	3	12.0	0	1	2	9.2
学校の先生	4	6.1	က	12.0	-	5.0	0	I
障害者スポーツ協会	12	18.2	2	8.0	9	30.0	4	19.0
総合型クラブ	24	36.4	10	40.0	œ	40.0	9	28.6
友人•知人	4	6.1	-	4.0	-	5.0	2	9.5
家族	9	9.1	0	ı	0	ı	9	28.6
その他	11	16.7	9	24.0	4	20.0	1	4.8

教室での役割

면	全体(	全体(N=64)	LU1⊒≅(n=25)	(n=25)	SBF(n=19)	n=19)	久留米	留米(n=20)
祖日	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
一般参加	19	29.7	2	8.0	4	21.1	13	65.0
保護(介助)者	7	10.9	က	12.0	-	5.3	က	15.0
指導者	4	6.3	2	8.0	2	10.5	0	ı
スタッフ(指導補助)	32	50.0	17	0.89	11	57.9	4	20.0
その街	2	3.1	-	4.0	1	5.3	0	1

「する」スポーツとの関わり

면	全体(	(本(N=68)		(n=27)	SBF(n=20)	n=20)	久留米	米(n=21)
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
週に3日以上	15	22.1	4	14.8	9	30.0	2	23.8
週に1~2日程度	34	50.0	10	37.0	10	20.0	14	66.7
月に1~2日程度	12	17.6	6	33.3	2	10.0	-	4.8
3か月に1~3日程度	2	2.9	-	3.7	0	ı	-	4.8
まったくしていない	Ľ	7.4	cc	111	0	10.0	C	1

#### 本教室であまり良くなかったこと(不満足内容)

#### 【しいコミ】

- ケガ人が出たこと。
- ・はっきりとしたことは言えないが、学園の方が1時間足らずで買える点。体調面のことを考えてのことなのか、スポーツをする集中力のことなのか?もう少し長く時間を確保して、できれば良かったのではないか。。
- ふうせんバレー実戦での転倒による怪我。声かけやサポート体制を徹底すべきであった。
- ・フライングディスクと聞いていったのに、バレーをしてうまく参加できない人がいた。
- 技術的に向上させるという部分をどう伝えていくかということがひとつのカギになるように思います。
- ・参加者以外の対応をどうするか(応援および随行者)。
- 子ども達が集まってからの行動が少しおそいかなと思った。もう少し早くはじめられたらいい。
- ・少しの時間しか参加できなかったのが残念。時間、曜日等。

#### (SBF)

- ハンドバイクが足りない点。
- ・もう少し長距離を乗りたい。
- ・安心して走ることができる場所、走りやすい場所を提供してほしい。中之島公園付近は車の交通量が少ないところもあり、走りやすい道がありました。
- ・開催場所の時間・場所の変更が多々あること。また、その情報などの告知方法について問題があった。
- ・開催場所の変更があり、間に合わないことがあった。
- ・開催場所を定めていない点(急な変更)。
- ・外から見ていて受けた印象ですが、スタッフの連携がもう少し取れていた方がいいのではないかと思います。
- ・教室の指導実践については講師(ハンドバイク)が中心になって運動するようにコーディネートするべきであった。主催であるクラブに任せていたところもあり、当日どのような実践になるのか、わからない状況が多かった。会場の変更が毎回のようにあり、講師やサポート側も初めての会場では、実践およびサポートは大変難しかったと思う。
- ・最初しか参加できなかった為、全体的な意見ではありませんが、ちょっとグダグダする時間があったため、今から何をする時間なのかわかるとよかったです。
- ・天候不順のため実施できなかった。代替案の用意があるとよい。
- ・本当の障害者が少なかった。

#### 【久留米】

- ・スタッフの連携の不十分さ。もっと声をかけあって具体的な教室にもっとできたと思う。
- ・車椅子のタイヤがたまに取れ、ころげおちそうになった。(車いすのタイヤがとれること)。
- ・車椅子の数が足りない時があり、全員参加できなかった。
- ・車椅子の数が足りなかった。
- 先生がうるさい。
- ・日曜日開催は無理ですか?もっと回数を増やしてほしいです。
- ・毎回、参加人数がバラバラで車椅子の数が足りないことも多く、こどもたちが満足にできていたが疑問に思う。

#### 今後、教室で取り入れてほしい内容

#### 【しいコミ】

- ・カローリング、フライングディスク
- ・カローリング、フライングディスクふうせんバレー、フライングディスクは、障害あるなしに楽しめられた。
- ・どれも、工夫次第で楽しくできる事がわかった。
- ・どんな障害があっても、全員でできて、全員が楽しめる種目。
- ・フライングディスク、シッティングバレー、卓球バレー、ローリングバレー
- ・フライングディスクの記録会は参加者も自分だけの記録用紙をもらえてうれしそうだったので、ぜひ取り入れてほしい。
- 外でのスポーツ実践も入れたらどうでしょうかね。
- 参加した日に行ったスポーツは、どれも良いと思います。

#### [SBF]

- ・ハンドバイクの方々とのサイクリング・参加者に合わせて、運動量が多くできるときは、運動量を多くしてほしいです。
- ・子どもをたくさん参加させてみてはどうでしょうか?・障害者との交流が欲しい
- ・全天候体育館に常時教室開講・卓球バレー、ボッチャ
- ・日常メンテナンス、故障時の応急処置方法。自分にできる修理等を知りたい。

#### 【久留米】

- ・バスケ、テニス。サッカーなど・バスケット・バドミントン・ふうせんバレーボール・今まで通りの車椅子バスケ、車いすテニス
- ・車いすサッカー・車椅子テニスやバレーとか車椅子バスケット・車椅子でバレーボール・車椅子バドミントン
- ・車椅子リレー・色々な障害者スポーツを体験的に実施してほしい・卓球、バドミントン

#### この教室に対しての感想

#### 【しいコミ】

- ・スタッフ側の意見として、今後教室を続けていくことに対して、指導者の確保や知識、障害者に対しての対応に不安があります。
- ・たくさんのスタッフがいらっしゃるので、十分なサポートが出来ていると思いました。
- ・とても学べることがあり、楽しかった。・みなさん、熱心に関わられてて、とても良かったと思います。
- ・教室終了後のサポート体制が同じように継続されることが望ましいですが、学生等が定期的に参加できる方法を検討できないでしょうか?
- ・継続して実施するとき、指導者の確保が必要である。地域住民に対し、募集の方法等を検討し、多くのスタッフが参加できるシステムづくり。
- ・健常者、障害者ともにスポーツをする上でケガのかの可能性はつきものである。障害者に対しての配慮は当然必要であるが、ケガの事だけを気にしていたら、何もできなくなる。
- ・今後も継続的にPRをして推進してほしい
- ・参加者がみんな平等に手軽に活動できました。活躍の機会が均等であることが素晴らしいと思います。
- ・子ども(未就学児)に関する仕事場でチラシを見ました。小さな子を持つお母さんたちは、パッと見るだけで(無理だから)と言ってじっくり見ることもしませんでした。子どもを連れてでもできるスポーツがたくさんあるのでは。。。と今回参加しておもいました。色々な方がスポーツのできる地域になっていけたら良いと思います。こんな教室にもっと多くの方が参加できたらいいなと思いました。といってもよかったです。
- ・自分も参加して楽しめて、かつ障害を持っている方も楽しめていて、すごく良い交流ができたなと思いました。今後もまた参加したいです。
- ・反省会で出たことを次の回には取り入れられてて、回を増すごとにより充実し、楽しい教室になっていったと思う。障害を持った方々とも交流することができ、とてもよかった。参加できよかったです。ありがとうございました。

#### [SBF]

- ・ASプロジェクトで3教室やっていましたが、それぞれで出た反省(良い面、悪い面)を持ち寄ったら、効率よく進みそうな気がします。とっても楽しい教室だったので、ぜひ続けてほしい。
- お疲れ様でした。またお手伝いできる事があれば、参加したいです。
- ・ハンドバイク教室の最終回は予定どおり開催してほしかったです。この教室では多くの子どもたちが参加していたので、活発な教室をすることができていたと思います。
- まとめ、よろしくお願いします。
- ・もっと障害者の方に広くもっと多くの方に参加していただけるように宣伝できるよう参加呼びかけの方法があればと思います。
- ・会場の心配、難しい。
- ・会場を2か月毎に替える程度にすれば、各場所の良し悪しがわかるのでは!
- ・最初の時に比べて子ども達など上達していると思います。じゃりみちやスラロームなどいろんな工夫がされていてよかったです。
- ・子ども達が楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。
- ・障害を持っている方にとってスポーツ活動の機会は十分とは言えないと思います。その中で、今回開催されたような教室は障害を持った方にとって、とても充実したスポーツの場となったと思う。今後も続けてほしいと思います。ありがとうございました。
- 総合型クラブでハンドバイクを紹介できたことに感謝です。今回の運営の反省を生かして、教室終了後の活動をぜひ期待したいです。
- ・普通じゃあじわえないことが体験できたので、楽しかった。
- 普通車椅子を使ってスポーツをしないから、いい体験になった。

#### 【久留米】

- I・子ども達に凄く良い機会となりました。今後も継続して行ってほしいです。
- ・ずっとしてほしい・バスケやテニスができて楽しかった。
- ・パスはあまりできなかったけど、よかったです。・一年間これがあってほしい
- ・回数を重ねるごとに課題が生まれ、解決し、また新たな課題ができるような、充実した教室だったと思います。
- ・楽しかったです。・またしたいと思いました・野球をしてみたいです。たのしかったです。
- ・健常のお友達と一緒にできるところがとても有意義できた。こうゆう体験をたくさん増やしていきたいし、一緒に楽しむ場が欲しいと思います。 定期的に行われると嬉しいです。
- ・考えてもいなかった。普通は、立ってやるのに、車いすに乗ってできるのがびっくりしました。
- 最後にシュートができてうれしかった。
- ・指導が良い・車椅子が大変だと思いました。
- ・車椅子でバスケットをしました。シュートを入れたときが、めっちゃめっちゃうれしかった。
- ・多くの子ども達が興味を持ってくれ、多くの交流があってとても良かったと思う。
- ・地域の小学生がたくさん参加していて、たくさんのことを知ってもらえる良い機会になったと思う。車いすは初めての子も多かったと思うが、全員、楽しそうにしていたので、とても良かった。自分自身も楽しかった。
- ・特になし。10月からよろしくお願いします。
- ・日常生活の中で障害者スポーツに触れる機会がなかなかない子ども達も多くいると思うので、このような経験を通して障害者スポーツだけでなく、障害に対する意識に何らかの良い変化があれば、教室を運営する意味が大いにあると思います。今後も継続できれば、子ども達のためにもあると思います。

# 平成24年度 一埼玉県ふれあい地域振興事業―

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

### I はじめに

平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」を受けて、平成25年1月には「埼玉県スポーツ推進計画」が発表され、今後は障がい者が暮らす身近な地域のスポーツ環境が大きく変わることが期待されています。各市町村スポーツ主管課等では、障がい者をどのように受け入れ、どのように事業を実施していくかに苦慮している状況があるが、今こそ障がい者のスポーツに関わる多くの関係者が、地域スポーツ環境を構築するために一層の力を注がなくてはならない時期です。

本事業は一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会と埼玉県障害者スポーツ指導者協議会との共催事業として位置づけ、障がい者のスポーツ振興および推進の担い手となる障害者スポーツ指導者を中心に実行委員会を組織しました。実際のスポーツ指導現場だけでなく、事業の企画・調整、運営等のマネージメントを担当し幅広いスポーツ振興の担い手を育成することにより、本県における障がい者スポーツの一層の推進を図ることも事業のねらいとしました。

今年は、国庫補助事業「地域における障害者スポーツ振興事業」(モデル事業)の2年目ですが、本事業の事務局を担っている埼玉県障害者スポーツ協会が多数の事業を抱えていることから、事業を縮小して昨年度の半分の予算で実施しました。しかし、事業数は初年度と大きくは変わらず、4事業(7会場)を行いました。

事業予算の縮小に伴い実行委員会会議の開催数が少なくなり、事業の検討や打ち合わせの時間の確保ができなくなると同時に、障害者スポーツ協会の負担を大きくしました。また、各事業における障害者スポーツ指導者の活用は、事業をとおしてリーダーの育成や自立を促すことが本事業の主眼とすべきところでありましたが、事業の準備段階から、その手立てを明確にして取り組むことができませんでした。

そのため、実行委員が事業を主体的に運営するという当初の目的がぶれてしまい、企画 運営に携わる機会が少なくなるという結果を招いてしまいました。この点は大いに反省し なければならないことです。

本年度事業も、ふれあいフットサル大会や四面卓球バレー大会では、障がいのある人とない人、また異なる障がい者同士が一緒に同じスポーツを楽しめたことは、スポーツ共生社会のひとつのモデルを示すことができたものと確信します。

報告書の作成にあたり、本事業がモデル事業であるという性格から、今後、全国各地域におけるスポーツ振興の具体的資料となるよう実行委員の活動報告や各事業の工夫や留意点も掲載しました。また、失敗も貴重な事例であると認識し、今後の取り組みの際の参考にしていただきたい。

本事業の実施にあたりご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。本事業の結果が、 各地域の障害者のスポーツの振興あるいは推進の参考にしていただければ幸いです。

### Ⅱ 事業写真報告

1. 埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会





### 2. 実施事業

(1) ふれあい野球教室、ふれあいティーボール教室

1-1 ふれあい野球教室









### 1-2 ふれあいティーボール教室









### (2) ふれあいフットサル大会









### (3) ふれあいサッカー教室









### (4) 彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会









### Ⅲ 報告の概要

市坐々	平成24年度 埼玉県ふれあい地域振興事業
事業名	
主 催	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、
	埼玉県障害者スポーツ指導者協議会
運営	障害者スポーツ指導者による「埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会」
事業予算	1,000,000 円
事業のねらい	障がいのある人と障がいのない人がスポーツをとおして交流し、お互い
	の理解を深めるとともに、地域に根ざしたスポーツの振興を一層推進す
	る。また、野球、フットサルの組織化を進める。
事業数	4 事業 8 会場
①ふれあい	浦和学院高校野球部(コーチ 1 人、3 年生 15 人)の指導を受け、野球
野球教室	の基礎を学んだ。
	①身体、聴覚、知的、精神障がい者 62 人が参加した。
	②浦和学院高校野球部の指導、交流もあり参加者の満足度は高かった。
	③初めて障がい者と接する野球部員にとっても、ふれあいは有意義だと感じた部員が多かった。
ティーボール教室	元プロ野球選手2人を講師に迎え、野球の基礎技術の一つである打つこ
	とやゲームを、ティーボールを使って体験した。
	①特別支援学校中学部生徒 82人、高等部 2年 35人を対象に行った。
	②各回とも、あらかじめ運動能力別に 4 グループに分けて指導を受け、ま
	た質問コーナーやロングティー対決など、楽しく交流した。
②ふれあい	共生スポーツのモデルとして4つの部門「中学生以上の部(障害あり)、
フットサル大会	小学生の部(障害なし)、一般交流の部(障がいのあるチームと障がいな
	いチームの交流戦)、ふれあい MIX の部(混合)」を設定した。
	① 319人(36チーム)が参加した。
	② 障がいのある人とない人、知的障がいや精神障がいなど、異なる障が
	い者との交流を深めた。
③ふれあい	特別支援学校および特別支援学級児童・生徒を対象に、学校単位の申
サッカー教室	し込みとした。元なでしこジャパンの選手等がコーチングにあたり実行委
	員と障害者スポーツ指導者が児童・生徒をフォローした。
	①3 会場4つの特別支援学校や特別支援学級から、154人が参加した。
	②昨年は4回の教室を開催しているので、個々のスポーツ指導者の動きは
	細部にも目が届き、コーチや児童へのサポートがスムースだった。
	③学校の先生から、障害者スポーツ指導者が適切に生徒たちに接し、楽し
	く体を動すことを支援したことへの感謝があった。
サッカー教室	員と障害者スポーツ指導者が児童・生徒をフォローした。 ①3 会場4つの特別支援学校や特別支援学級から、154人が参加した。 ②昨年は4回の教室を開催しているので、個々のスポーツ指導者の動きは 細部にも目が届き、コーチや児童へのサポートがスムースだった。 ③学校の先生から、障害者スポーツ指導者が適切に生徒たちに接し、楽し

### ④ふれあい 四面卓球バレー大会

健常者1人を含む4人を1チームとし4チームが同時にゲームを行う。 重度障がい者も含め、誰とでも一緒に楽しめる埼玉生まれのスポーツ。

- ①56人が参加。幅広い年齢層障害層の参加があった。
- ②予選は、ブロック別にリーグ戦を行い、試合数を多くした。
- ③車椅子を使用している人や重度の麻痺がある人、知的障がい者など、異なった障がい者が、対等にゲームをとおして交流した。

### 障害者スポーツ指導 者の活用と効果

全事業は、障害者スポーツ指導者による実行委員会を組織して準備を進めた。各事業は、競技・種目別指導者とともに、障害者スポーツ指導者協議会や障害者スポーツ協会が行った。

- ①実行委員会会議の開催は、事業開始前に1回だったため、実行委員が主 体的に事業の立案から周知、実行までを担うことはできなかった。
- ②障害者スポーツ指導者については、各事業対象者等(学校など)からの 評価も高く、安全で効果的な事業の展開には、十分な力を発揮できた。
- ③障害者スポーツ指導者は、全事業をとおし 30 人(実人数)が参加。初級指導員が25人(83%)であった。年代別にみると、50~60歳代が最も多く全体の53%を占めた。
- ④女性指導者は47% (昨年は38%)。今年度は平日の昼間に5回の事業があり、女性や60歳以上の指導者にとって参加しやすかった。

#### 結果および反省点

- ①フットサルの組織化は、ほぼ時期が熟していると思われる。野球の参加 者は、身体障がい者は少なく、障害者ソフトボール協会に所属している 人が多かった。現状での組織化は難しいと思われる。
- ②前年度予算を半分にして事業を実施したため、実行委員会の開催数は事業前に1回のみであった。そのため、E-mailでの意見交換をしたものの、委員全員の総意で事業を準備することができなかった。
- ③障害者スポーツ指導者が、地域において自主的自発的に事業が運営できるようになるための「育成」という視点が足りなかった。

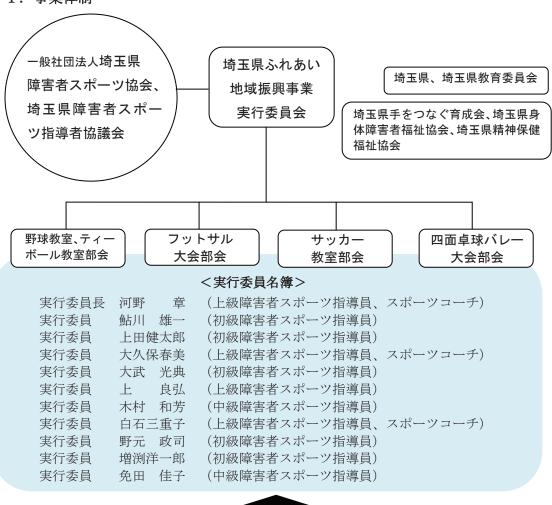
#### 今後の課題

県内各地域(市町村)が、障がい者のスポーツを振興するために行動(実行)に移せるようなモデルとなりうる事業の実施が必要である。

- ①地域(市町村)の既存事業に障がい者が参加できるように事業の組立や 実施を地域のスポーツや社会福祉関係組織等と連携して実施すること。
- ②障害者スポーツ指導者の「活用」から「育成」そして「自立」へ向けた 取り組みの実践とその方策の確立。
- ③地域振興を推進するための手引き書の作成。
  - ①②を推進するツールとして、具体的な事例を含めた手引き書の作成
- ④「埼玉県障がい者フットサル協会」設立に向けた支援。

### IV 事業の概要

### 1. 事業体制



### ≪野球教室≫

埼玉県高等学校 野球連盟

浦和学院 高等学校野球部

さいたま市役所 野球部、 浦和野球クラブ

≪ティーボール教室≫

社団法人 全国野球振興会

### 協力団体

浦和レッド ダイヤモンズ、 株式会社 レッズランド

さいたま市役所 サッカー部、 埼玉県障害者 サッカー協会、 レッドダイヤモン ズ後援会

株式会社 モアスマイルズ さいたま市立 植水小学校

埼玉県総合リハビリ テーションセンター

図1 埼玉県ふれあい地域振興事業の組織図

### 2. 日程と会場

	事業	開催日	会 場
1	ふれあい野球教室	11月24日(土)	県営大宮公園野球場
	ふれあいティーボール教室		
2	①上尾かしの木	6月12日 (火)	県立上尾かしの木特別支援学校校庭
3	②所沢おおぞら	12月4日 (火)	県立所沢おおぞら特別支援学校体育館
4	ふれあいフットサル大会	11月3日(土)	レッズランド
	ふれあいサッカー教室		
5	①大宮北特別支援学校	9月26日(水)	県立大宮北特別支援学校校庭
6	②上尾特別支援学校	10月19日(金)	県立上尾特別支援学校校庭
7	③富岡小学校	11月6日 (火)	所沢市立富岡小学校体育館
8	彩の国ハート&スマイル 四面卓球バレー大会	平成 25 年 2月 10 日(日)	さいたま市立植水小学校体育館

### 3. 参加人数

### (1) 事業別参加者

### 表 1 事業別参加者数

	事業名	参加者内訳	合計
1	ふれあい野球教室	62人	62人
2	ふれあいティーボール教室	(上尾かしの木) 82人	117人
3	<u> </u>	(所沢おおぞら) 35人	111/
4	ふれあいフットサル大会	36チーム	319人
5		(大宮北) 92人	
6	ふれあいサッカー教室	(上尾) 38人	154人
7		(富岡小) 24人	
8	彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会	12チーム	56人
			708人

### ①ふれあい野球教室

### 1-1 野球教室

### 表 2 障害別参加者数(人)

• 知的障害	51	82.3%
• 精神障害	3	4.8%
・肢体不自由	4	6.5%
・知的、聴覚重複	1	1.6%
・知的、精神重複	2	3.2%
・知的、肢体重複	1	1.6%
計	62	100.0%

### 表 4 男女別参加者(人)

•男	58	93.5%
·女	4	6.5%
計	62	100.0%

表 3 年代別参加者数(人)

•10歳代	20	32.3%
•20歳代	17	27.4%
•30歳代	12	19.4%
•40歳代	9	14.5%
•50歳代	4	6.5%
計	62	100.0%

### 1-2 ふれあいティーボール教室

表 5 会場別参加者数

会場名	学年	生徒	教員	計
上尾かしの木特別支援学校	中学部1~3年	82	31	113
所沢おおぞら特別支援学校	高等部2年	35	12	47
計		117	43	160

### ②ふれあいフットサル大会

表6 部門別参加人数とチーム数

		人数	チーム数
・中学生以上の部	『(障害あり)	105	12
・小学生の部	(障害なし)	68	8
•一般交流の部	(障害あり)	65	7
	(障害なし)	37	5
・ふれあいMIXの	部(混合)	44	4
計		319	36

• 男	287	90.0%
·女	32	10.0%
計	319	100.0%

表 7 男女別参加者数 (人) 表 8 障害別参加者数 (人)

•知的障害	151	47.3%
•精神障害	44	13.8%
•肢体不自由	1	0.3%
・なし	123	38.6%
計	319	100.0%

### ③ふれあいサッカー教室

表 9 会場別参加者数

学校名	学年	生徒	教員	計
大宮北特別支援学校	高等部1~3年	92	40	132
上尾特別支援学校	高等部1、2年	38	20	58
所沢市立富岡小学校、中央小学校	小学生1~6年	24	10	34
計		154	70	224

### ④彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会

表10 隨害別参加者数(人)

<u> </u>		
•知的障害	34	60.7%
•精神障害	6	10.7%
·肢体不自由(立位)	2	3.6%
·肢体不自由(車椅子)	3	5.4%
・なし	11	19.6%
計	56	100.0%

表11 年代別参加者

・70歳代	1	1.8%
・60歳代	6	10.7%
・50歳代	4	7.1%
•40歳代	9	16.1%
•30歳代	13	23.2%
・20歳代	7	12.5%
・10歳代	16	28.6%

表 1 2 男女別参加者

•男	38	67.9%
·女	18	32.1%
計	56	100.0%

### (2) 事業別指導者及び障害者スポーツ指導者

表13 事業別指導者数

事業名	事業別指導者		障害者 スポーツ 指導者	実行 委員	計
ふれあい野球教室	浦和学院高等学校野球部 コーチ (1) 、3年生 (15) さいたま市役所野球部(3)、浦和野球クラブ(5)	24	1	4	29
ふれあいティーボール教室 (上尾かしの木)	小野和幸、鈴木健	2	4	1	7
ふれあいティーボール教室 (所沢おおぞら)	小野和幸、鈴木健	2	3	1	6
ふれあいフットサル大会	さいたま市役所サッカー部(7) 埼玉県障害者サッカー協会(9) レッドダイヤモンズ後接会(1)	17	11	8	36
ふれあいサッカー教室 (大宮北)	北本綾子、木原梢、窪田飛鳥、竹下智美	4	4	4	12
ふれあいサッカー教室 (上尾)	北本綾子、木原梢	2	5	0	7
ふれあいサッカー教室(富岡小)	北本綾子、木原梢	2	4	1	7
彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会	埼玉県総合リハビリテーションセンター(1)	1	12	8	21
計		54	44	27	125

### (3) 障害者スポーツ指導者(実行委員を除く)

### 表14 障害者スポーツ指導者の資格(人)

・初級障害者スポーツ指導員	25	83.3%
・中級障害者スポーツ指導員	4	13.3%
・上級障害者スポーツ指導員	1	3.3%
計	30	100.0%

### 表15 障害者スポーツ指導者の性別(人) 表16 障害者スポーツ指導者の年代(人)

•男	16	53.3%
·女	14	46.7%
計	30	100.0%

・20歳代	3	10.0%
・30歳代	2	6.7%
・40歳代	5	16.7%
・50歳代	4	13.3%
・60歳代	12	40.0%
・70歳以上	4	13.3%
計	30	100.0%

### 表17 平成23年度ふれあい地域振興事業参加の有無(人)

・あり	21	70.0%
・なし	9	30.0%
計	30	100.0%

### 参加事業(のべ)

沙州 事未(ツ)	
•野球教室	1
<ul><li>フットサル大会</li></ul>	3
<ul><li>女子サッカー教室</li></ul>	4
•ウォーキング	5
計	13

### V 各事業の活動報告

### 1. ふれあい野球教室

野球教室とティーボール教室(2箇所)を実施した。

#### 1-1 野球教室

### (1) 実施概要

障がい(肢体・聴覚・知的・精神)を問わず、野球を楽しみたい人・興味のある人を対象に埼玉県営大宮公園野球場にて開催し 62 人が参加した。野球をつうじて「共に野球を楽しむ」をテーマに掲げ、浦和学院高校野球部コーチ、選手(3 年生)の指導で教室は進められた。開講式・ウォーミングアップ・投げる・捕る・守る・打つという野球の基本を学んだ。また「ふれあい」の場を設け、参加者全員で交流を深めた。

交流会では、参加者から浦和学院の選手に対し、「僕は車椅子で、野球はできないが、大 学では僕の分まで頑張ってください」という激励のメッセージが送られる場面もあった。

### (2)活動の工夫と留意点

#### ①教室内容

- ・あらかじめ障がいの状況に応じて班分けを行い、色別ビブスを用意した。また、電光掲 示板で、プラグラムを表示するなど、参加者も指導者も動きやすいように配慮した。
- ・投げる、捕るなどの基本動作について、野球部員が模範を示し動きのポイントを披露し、 参加者がこれにならって行うことで野球の基本となる技術をしっかり学ぶようなプログラムにした。
- ・名門浦和学院高校野球部によるデモンストレーションや質問コーナーを設け、プレーを 生で見たり挑戦したり、そして対話することで参加者が教わるだけでなく、違った観点 からも楽しめる内容づくりに工夫した。

### ②指導者との連携

・野球部顧問およびコーチとの事前打ち合わせを通して、内容や進行について細かく詰めていくことで指導者側が当日に向けてスムースに準備できるよう心掛けた。また、高校生も指導者として依頼しており、初めて障がい者と関わる方が多数いたので、参加者の配慮事項等を事前に伝え、指導する上で配慮できるようにした。

#### ③支援指導体制づくり

・障害者スポーツ指導者の参加が少なく(関東ブロック研修会と重なった)、さいたま市役 所野球部及びクラブチームの選手の協力を得た。当日、教室開始の前に、実行委員や指 導者打ち合わせを行い、担当グループを振り分けや支援上での配慮事項の確認を行った。

### 1-2 ティーボール教室

### (1) 実施概要

県立上尾かしの木特別支援学校(中学部生徒 82 人)と県立所沢おおぞら特別支援学校(高等部 2 年生 35 人)の二つの学校にいる知的障がいのある児童生徒を対象に行った。

ティーボールを通じて「参加者全員で楽しむ」ことをねらいとして、元プロ野球選手の 鈴木健氏、小野和幸氏の指導で教室は進められた。開講式、打つ、ゲーム、ふれあいの時 間を設けて行うなど、ティーボールの醍醐味を学んだ。また、生徒たちにとって元プロ野 球選手や地域の指導者たちと接することができ、有意義な交流を図ることができた。

### (2)活動の工夫と留意点

### ①教室内容

- ・生徒をあらかじめ運動能力別に4グループに分けて、色別ビブスを着用した。
- ・打つことが中心であり、指導者と一緒にバットを持って打つなど、参加者と指導者が一体となって取り組めるプログラムを立て取り組んだ。
- ・元プロ野球選手によるロングティー対決や質問コーナーを設け、さまざまな会話をやり とりすることで違った観点からも楽しめる内容づくりに工夫した。
- ・能力別に「ソフトボールに準じたルール」と簡易ルールとして「1塁、2塁、3塁ベース に指導者に入ってもらい指導者にボールが渡った段階でボールデット(試合を止める) とする」方法を採った。

### ②支援体制

・障害者スポーツ指導者は、あらかじめ担当グループを決めておくことで、配慮事項等を 確認できた。だが、当日のみの打ち合わせで細かな動きまで明確になっておらず、スム ースにいかなかった面もある。

### 2. ふれあいフットサル大会

#### (1) 実施概要

昨年に引き続き J1 リーグ浦和レッドダイヤモンズが運営するレッズランドを会場に、4 部門に 36 チーム、319 人が参加した。共生スポーツのモデルとして「ふれあい」ができるよう、障がいのある人とない人が対戦する競技区分「一般交流の部」を新設した。この部門には、「浦和レッドダイヤモンズハートフルクラブ」のコーチ陣にもご参加いただいた。また、全試合終了後、同クラブによるサッカー教室を、大会参加者全員を対象として行い、障がいのある人とない人、また知的障がいと精神障がいなど、異なる障がいのある人同士の交流を深めた。

昨年好評だった、勝敗にかかわらず各試合の優秀選手をチームごとに選ぶ「あなたがヒーロー!各試合の優秀選手を表彰します。優秀選手を選ぶのはあなたです。」の表彰方法を引き続きおこない、選出された選手には賞状と記念品が贈呈された。なかには「華麗な

プレイ賞」「攻守ともに走り回った賞」「ボールタッチがうまいで賞」などユニークなも のもあり、試合終了後の表彰式はたくさんの笑顔であふれていた。

### (2)活動の工夫と留意点

#### ①試合区分の設定

- ・(1) 中学生以上の部 (障がいあり) 12 チーム、(2) 小学生の部 (障がいなし) 8 チーム、
  - (3)一般交流の部 (障がいのあるチームと障がいのないチームの交流戦) 12 チーム、
  - (4) ふれあい MIX の部(混合) 4 チーム が参加した。

#### ②支援体制

- ・チーム受付、各コートの設営と試合管理、表彰の進行、閉会式他、実行委員を中心として でによる。 でである。
- ・審判として埼玉県障害者サッカー協会、さいたま市役所サッカー部、レッドダイヤモン ズ後接会の協力をいただき試合を進行した。

### 3. ふれあいサッカー教室

### (1) 実施概要

今年度は特別支援学校および特別支援学級児童・生徒を対象に、学校単位の申し込みとして開催した。県立大宮北特別支援学校、県立上尾特別支援学校、所沢市立富岡小学校の3箇所で行い、所沢市立富岡小学校では、同市中央小学校特別支援学級の全学年児童が加わり、他校との交流を図った。4校で、154人が参加した。

元なでしこジャパンの北本綾子コーチをリーダーに、各回2人のコーチ(大宮北会場については3人)のリードのもと、実行委員と障害者スポーツ指導者が参加者をフォローする形式をとった。各会場とも、午前中の開催として、開始式、準備運動、ウォーミングアップ(じゃんけん列車)、ボールフィーリング、的当てゲーム、試合を基本の流れとして、参加者の実態や学校の実情に合わせて進め方を工夫した。

### (2)活動の工夫と留意点

### ①参加者が楽しめる内容・雰囲気づくり

- ・学校との綿密な打ち合わせをとおして、個々の実態に応じたプログラムを企画した。
- ・レベル別のグループ分けをして、色違いビブスを用意し活動がしやすいようにした。
- ・じゃんけん列車の勝者に渡す「王冠」、的当てゲームの「鬼などの絵」を実行委員が手作りした。
- ・明るくテンポのよい曲を流して、音響での心理的な効果を図った。

#### ②安全確認

- ・施設、器具が安全に使用できるか、活動場所が安全であるかどうかを事前に確認した。
- ③講師(元なでしこジャパン、元浦和レッズレディース)との連携

- ・講師の指導したいことがスムースにいくように連携を密にし、企画段階と当日の活動を サポートした。
- 事前打ち合わせをとおして活動内容と留意する点を共通理解しておいた。
- ・当日の参加者の中で情緒面と身体面で配慮すべき点を共通理解しておいた。
- ④きめ細かな支援指導体制作り
- ・参加者が活動しやすいように、実行委員と障害者スポーツ指導者の動きをできるだけ具 体的なものにした。

### 4. 四面卓球バレー大会

#### (1) 実施概要

埼玉生まれの四面卓球バレーは、健常者1名を含めた4人が1チームになり、同時に4 チームが対戦できる競技である。重度障がい者も参加でき、さまざまな障がい者が一緒に 楽しめるスポーツであり、14歳から70歳までの幅広い年齢層の参加があった。

本協会独自事業として開催していたが、今年度は特別支援学級の児童や近隣地域の障がい者の参加を前提に、さいたま市立植水小学校体育館で実施した。

### (2)活動の工夫

#### ①参加者が楽しめる内容

- ・予選リーグを2コートで行い、上位4チームによる決勝戦を行った。
- ・試合ごとに招集所に集合し、入場時には効果音楽を流すとともにチーム紹介を行った。
- ・暖房機を借用し、寒さ対策を行った。
- ・開会式の最後に、バレンタインチョコの贈呈、昼休みに協会職員によるミュージックイ ベントを行った。
- ②さいたま市立植水小学校の協力
- ・実行委員の一人が当校の教員であり、学校とスポーツ協会との調整役を担った。
- ・スポーツ少年団の通年利用があったが、会場利用を配慮していただいた。
- ・通常は体育館での飲食を禁じているが、ブルーシートの上で食事をすることをお願いした。
- ・男女別車椅子用トイレが整備されていた。

#### ③今後の課題

会場となった小学校の特別支援学級児童をはじめ、さいたま市内特別支援学級からの参加を予定していたが参加申し込みがなかった。競技の部、交流の部などの部門を分けることが可能であったが、実施要項では、小学生から参加可能としたものの、どのように試合を行うかの明記がなく、大人とゲームをすることへ不安があったことが今後の課題と言える。

### VI アンケートの結果

### 1. ふれあい野球教室

### ①参加者アンケート (参加者 62 人中 23 人から回答)

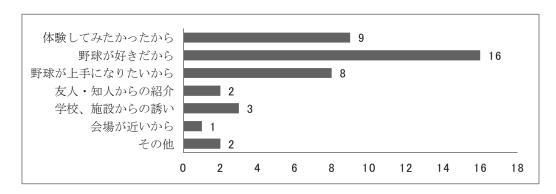
### Q1 今日の野球教室のことは、何で知りましたか

①学校からの案内	7	30.4%
②知り合いからの紹介	3	13.0%
③その他	13	56.5%
計	23	100.0%

その他

- ・昨年も参加したので通知が来た
- ・所属しているソフトボールチームから聞いた

### Q2 今日の教室に参加しようと思った理由はなんですか(Oは3つまで)



### Q3 今日の野球教室についてお聞きします

### (1)技術面

①難しかった	13	56.5%
②つまらなかった	6	26.1%
③どちらともいえない	4	17.4%
計	23	100.0%

### (2)楽しさ

①楽しかった	23	100.0%
②つまらなかった	0	0.0%
③どちらともいえない	0	0.0%
計	23	100.0%

### Q4 今日の野球教室でいちばんよかったことはなんですか

- ・コントロールがよくなった
- バットに球が当たってよかった
- ボールの持ち方がよくなったこと
- ・みんなが一緒になって野球できたこと。一人ひとりが集中して真剣に取り組んでいました
- やさしく教えてくれたことです
- ・浦和学院の野球部の人達を身近に感じられたのでよかったです
- 強いゴロがとれたところ
- ・本物の野球の雰囲気が真近で味わえた

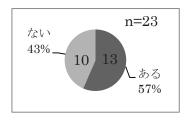
### Q5 またこのような野球教室があったら参加しますか

・はい	23	100.0%
・いいえ	0	0.0%
計	23	100.0%

#### Q6 その他、お気づきになった点をご記入ください

- ・ウラガクの投手と、バッターとして勝負したかったです。事前応募制にすれば尚良いと思います。
- ・キャッチボールと捕る練習の時、ずっと障害者同士だったので、浦学の選手と一回でもいいから キャッチボールや守備の相手をしてほしかったです。走塁が時間の都合でできず残念でした。 ほかはとてもよかったです。来年もぜひ企画してください。去年やった浦学のピッチャーの球を 打ってみようをまたやってほしいです。握手してもらえて良い思い出になりました。
- ・スタッフの方々が親切に案内してくれたので助かりました
- また野球がやりたい
- ・浦和学院野球部員の皆様の技術力、精神力、優しさに感動しました。ますますのご活躍を! 貴重な機会をどうもありがとうございます。今度もこのような楽しい教室があると非常にうれしいです。
- ・球場に入れてうれしかったそうです
- ・丁寧なご指導を受け、技術面でも向上したように思います。本人も大変嬉しそうで満足感を得る ことができました。
- ・配慮が行き届いていてよかった
- ・普段体験できないこと(今回はりっぱな球場に足を踏み入れることができました)をさせていた だけるので、いつも感謝しています
- ・野球部員の方から丁寧に教えていただきました。生徒もいきいきと楽しそうに活動することができました。達成感をえることができたように思います。お世話になりました。

### Q7 埼玉県障害者スポーツ協会が主催する事業(ふれあいピックなど)に参加したこと がありますか



ある

ソフトボール大会 ふれあいピック春、秋 ボッチャ大会、四面卓球バレー大会 陸上大会

### ②浦和学院高等学校野球部アンケート(3年生15人中15人が回答)

### Q1 本日の感想をお聞かせください。

- ・指導という立場でやらせてもらい、自分にとってとても良い経験になりました。コミュニケーションをとることで指導のしやすさを感じることができました
- ・幅広い年代の方々と野球で心が通じたと思い、楽しませていただきました。
- ・初の体験で、どうなるかと思っていたが、時間とともにコミュニケーションをとれるようになれた。
- ・普段できない貴重な体験ができてとても良い経験をすることができました。最初は戸惑いもありましたが、徐々に話すことができて、野球をやりいろいろな人と話すことができ良かったです。
- ・野球をとおしてふれあえたことで、笑顔になっていただき嬉しかった。
- ・体に不自由な部分がありながらも一生懸命に野球に取り組んでいる姿をみてとても感動した。自分が不自由なく野球できることに感謝して取り組もうと思う。

### 2. ふれあいフットサル大会 (参加 36 チーム中 22 チームから回答)

### Q1 大会に参加した感想を教えてください

①たいへんよかった	14	63.6%
②よかった	7	31.8%
③ふつう	1	4.5%
④悪かった	0	0.0%
計	22	100.0%

### (その理由)

大変 よかった 理由	・色々な部門に参加でき、まさにふれあいという感じで良かった ・親子が一緒にサッカー出来て楽しかった ・試合のテンポが速くてよい。1試合目から9試合目までちょうど良い間隔である ・障害の有無、大人・子供同じスポーツを同じ場で行うことができてよかった。 ・全員が参加で来た。子供が大人をしっかりおうえんできていた。 ・天気が良くて楽しくプレーできた ・伸び伸びとできました。 ・普段あまり関わりのない方とふれあうことができてよかったです。 ・フレンドリー且つアットホームな雰囲気でサッカーを通じた親交が深められた
よかった 理由	・棄権したチームが出て2試合しか出来なかったのが残念だった ・各試合ごとに賞があると子供たちが盛り上がる ・第三者に評価してもらえるところ ・普段フットサルをしないので楽しく出来ました。ハートフルもよかったです! ・コンパクトに時間がまとまっている ・普段フットサルはしていないので勝手が分からず苦労しましたがチームにとってはよい経験になりました ・他チームと交流できたこと
ふつう の理由	・試合時間が短い

### Q2 今後、このような大会を開催する際には、参加したいと思いますか

①はい	21	95.5%
②いいえ	0	0.0%
③わからない	1	4.5%
計	22	100.0%

### (その理由)

(しの生田)	
①の理由	<ul> <li>・体をよく動かしたいから</li> <li>・こどもがイキイキプレーできていた。年齢関係無く楽しめた。</li> <li>・サッカー最高!!</li> <li>・サッカーをする機会が多くなるから</li> <li>・サッカーを通しての交流を深めていきたいから</li> <li>・ボールにたくさん触れられ、楽しめる</li> <li>・試合の勝敗にこだわることなくみんなで楽しめるから</li> <li>・勝負にこだわらず楽しめる大会であった</li> <li>・人工芝で出来るから</li> <li>・選手たちの励みになるため</li> <li>・楽しかったから</li> </ul>
③の理由	・社会人が多いので日程的な制約があるので。
③の理由	・社会人が多いので日程的な制約があるので。

### Q3 今後の事業についてご提案がありましたらお聞かせください

- ・大人と子供が一緒に(混合など)プレーできる機会があればよい。
- ・今回と同じ大会またやりたい
- ・月に1度くらいのフットサル教室等があるといい
- ・出来ましたら埼スタでやってみたいです。
- ・年間通して行えるサッカー教室。障害者、健常者問わず。

### Q4 その他、お気づきになった点がありましたらご自由にお書きください

- 試合進行がスムーズでよかったと思います。
- 時間などちょうどよかったです。ありがとうございました。
- ・大会運営が昨年よりスムーズだったと思います。お疲れ様です。

### 3. 四面卓球バレー大会 (参加 12 チーム中 5 チームから回答)

### Q1 大会に参加した感想を教えてください

①たいへんよ	かった 2
②よかった	1
③ふつう	1
④悪かった	1
計	5

#### (その理由)

	•
①の理由	<ul><li>・みんな楽しそうに参加していました</li><li>・寒い時期での開催でしたが、暖房等配慮していただき楽しく参加できました</li></ul>
④の理由	・うちのチームはミスが多く、情けないチーム。 去年と比べれば、悪くなっている。四面卓球卒業したいけど

#### Q2 今後、このような大会を開催する際には、参加したいと思いますか

①はい	4
①はい ②いいえ	0
③わからない	1
計	5

### Q3 今後の事業についてご提案がありましたらお聞かせください

- ・ティーボールの教室。県北、秩父地域でのソフトボール教室。
- ・原市公民館などでボッチャ、四面卓球バレー教室を開いてほしいです。

### Q4 その他、お気づきになった点がありましたら、ご自由にご記入ください。

- 参加する人は、ルールをちゃんと理解してほしい。
- ・審判によって試合の流れが変わってしまった。審判の方が選手の間に入ってきて、やりづらかった。

### 4. **障害者スポーツ指導者アンケート** (30 人中 28 人から回答)

### Q1 あなたの主な活動実績(障害者スポーツ指導者として)をお知らせください。

- ・H24 ふれあいピック秋季大会陸上補助・四面卓球バレー
- ・交流センターの活動支援が主
- ・ジャパンパラリンピック アーチェリー大会補助
- ・障害者施設ハーモニーレクレーション、障害者交流センターリズム体操、バランスボール
- フライングディスク・ふれあいピック等
- ・ ふれあいサッカー、精神障害フットサル、交流水泳大会、ろうあバスケットボールチームサポート、知的障害バスケットボールチームサポート、体力測定会
- ・ ふれあい大会 3 技
- ・ボッチャ大会準備・審判員、STT大会審判員、卓球バレー・四面卓球審判員
- ・入間市ボッチャ講習会、入間市ボッチャ交流大会、ブラインドテニス

### Q2 本日活動しての感想をおきかせください。

_	・ルールの理解までは難しかったが楽しく過ごせた
ティーボー	<ul><li>一緒にふれあいできてよかった</li></ul>
	・子供たちと楽しくスポーツができ、よかったです。たくさんの笑顔とであえて嬉しいです
	・雨のため、体育館での活動になりましたが、広さ的にはかえってちょうど良かったと思い
ルル	ました。生徒の皆さんも先生も楽しくティーボールをしていてよかったと思う。
/*	・とても楽しく生徒たちがやっていたので私もうれしかったです
-	・参加者の笑顔が見れて、私自身としても有意義な時間でした。ありがとうございました。
ファッ	・久しぶりの参加として、とまどいがあり、流れがつかめにくかった。
大会	・子供成人入れまじっての大会、レッズ OB も参加、子供たちの目の輝きがすばらしい
ゴサル	・みんなが活き活きとプレーしていて元気を貰いました。
	・最高!!バスケもやりましょう
	・学校での教室はよかった
	・初めての参加で、学校での事業は初めてだったので、学校の雰囲気の中の教室とセンター
サ	での教室との違いを経験できてよかったと思いました。
ッ	・ミニゲームで思った以上に熱くなれました。
カー	・ディフェンスとシュートの迫力に驚きました。
教室	・子供たちがとても楽しそうに体を動かしていたので、私も自然に溶け込めました。
室	・ひとつのボールをみんなで追って、一生懸命な姿が素晴らしい
	・参加者が元気でよかった
	・皆さんの熱意にうたれました
	・副審の役割で主審とコンタクトをとって取る方法は安心感があり気持ち的に余裕ができた
だ四	・大会のたびに盛況になっていくので楽しみにしている
1~面	・競技参加者とともに付き添いの方々も楽しく参加できるように工夫されて運営されている
一大会	と感じました
会球	・会場の小学校、JA、卓球台など地域の人々の協力など、たくさんの人々の協力がありす
	ばらしいと思った。

### Q3 平日の事業開催についてご意見等ございましたらおきかせください。

- ・若干参加に無理があり、できれば土日で
- もっとふやそう
- ・学校での教室となれば平日でいいと思います。指導員もこの人数くらいの協力があるのでいいと 思います。(若い指導員の参加はできないが)

- 都合がつけばお手伝いしたいです
- ・平日の方が参加しやすいです
- ・参加者はどうかな(人数)
- ・平日は仕事もあるので協力出来る人は限られてしまうように思えます
- ・役所に依頼文章を出していただき市町村職員がサポート出来る体制が必要
- ・支援者の立場からは、リタイヤ組は参加可能ですが、若いメンバーは協力が難しいのでは・・・
- ・1ヶ月以上前に連絡があれば、予定を入れやすい

### Q4 今後の事業について、ご提案がありましたらおきかせください。

- ・地域に根差した(市町村レベル)の教室を増やして欲しい
- ・年間をとおして参加出来る教室等があるといい
- ・県南地区での開催があったらな・・・
- 近隣であれば良いと思います
- ・所沢・川越とか近場であると参加しやすいので、よろしくお願いします
- ・継続してしぼった型で行った方がいい
- ・肢体不自由の特別支援学校向けの物があると嬉しいです。
- ・平日の活動がたくさんあれば
- ・四面卓球においては、高齢者や子供たちも参加できるので、公民館などで教室を開いてほしい
- ・年間4回連動した大会としての運営を行う競技大会もおもしろいのではないでしょうか?
- ・毎年同じ時期に事業があると参加しやすい
- ・カーリングもみなさん楽しんでいますが、大会は無理でしょうか

## Q5 全国的に障害者スポーツ指導者の活動実績が少ない傾向にあります。思い当たる理由・参加しやすい提案等がありましたらおきかせください。

- ・積極的に参加してます(2年間で150回)
- ・どんなところでどんなスポーツをしているのか情報を手に入れる方法がよくわかっていません
- ・関心のあるスポーツ種目があれば参加してくれるのでは、と思う。
- ・地方全体の活動目がわかると参加できる範囲が広がるかもしれないと思います。
- ・地域での活動がない
- 地域→県→日本→世界
- ・活動場所の提供が大切だと思いますので、このようなイベントが重要だと思います。
- 単なる通知等だけでは・・・
- ・ソーシャルネットなどを使ってインターネット上の活動が必要。場所や団体にこだわらずネットでスポーツサポートすることも可能
- ・遠い場所だと考えてしまう
- ・きっかけだと思います。私も仕事をリタイヤする直前から積極的に参加するようになりました。
- ・どのように活動していいのかよくわからない
- ・地域の方でお呼びがなく、区域が違うと声がかからずお手伝いしたくてもできず、残念です

# Q6 障害者スポーツ指導者の資格を生かす方法等についてご提案がありましたらおきかせください。

- 講習会が多いと嬉しいです
- ・各々の要望を聞く。参加出来る指導者の増加が第一
- ・厚生省、文科省の資格認定、スポーツボランティア休暇、職務免除制度の設立など
- ・さいたま市のスポーツ指導協議会と連携した活動につなげていけばいいのでは?障害者は障害者だけで大会をするのではなく、健常者と一緒にやれる大会を増やすことも考えてはいかがでしょうか。
- 活動の場やノウハウを教えてほしい
- これから資格があっても活かすことができるかどうか・・

### VII 実行委員の感想(ふれあい地域振興事業に参画して)

### 実行委員長、四面卓球バレー大会委員 河野 章

はじめに、今年度はイベントが重複することが多く、障害者スポーツ協会はじめ実行 委員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたことお詫びいたしますとともに、皆様 のご協力により本事業が無事終了いたしましたことに御礼申し上げます。

私が唯一参加しました「ティーボール教室」は、特別支援学校の授業の中での実施であり、希望者のみでない多くの生徒さんがスポーツに触れる機会となっていました。また多くの先生方にも参加いただき、他の授業と違った場面での生徒さんの行動等を見ていただく機会ともなりました。障害者スポーツ指導員側でも、平日の日中時間ではありましたが、この時間帯が参加できるとの声もありました。本事業の主旨の一つを感じることができました。

今後の障害者スポーツ指導員(指導者協議会)としては、スポーツ基本法からくる社会の流れの中、今アクションを起こす時ではと思うと、障害者スポーツ指導員の社会(行政)への認知、スキルアップ、地域におけるスポーツ推進委員との関わり等々の多くの課題が考えられます。障害者スポーツ指導員のスキル・ニーズにも大きな幅があるところもふまえ、何をすべきか見極めながら取り組んでいければと考えています。

#### フットサル大会、四面卓球バレー大会委員 鮎川 雄一

#### 【事前準備に関して】

- ・正直な所、初めて参加した事業で、一度しかお会いしてない方々とメールのみでのコミュニケーションを取るのは難易度が高いと思いました。
- ・予算、日程の調整等、多々問題があると思いますので Facebook などを使えたら、も う少し事前にコミュニケーションが取りやすかったと思います。

### 【当日の運営に関して】

- ・当日、ぶっつけ本番にも関わらず、とても分かりやすいオペレーションが出来ていて 本当に助かりました。ありがとうございました。
- ・当初から決まっていたのでしたら恐縮ですが、指導員の全体数は適正だったのでしょうか?四面卓球バレーに関しては実行委員を含めたら多い印象がありました。

#### 【総評】

指導員として、地域に於いて障がい者スポーツを実施する体験ができ今後参考になりました。この事業の目的にあります、地域での共生社会を目指すのであれば参加者や、ご家族以外の地域の一般住人をもっと巻き込んだ方が良いと思いました。実際地域で行うには多くの協力者が必要だと思うので。

四面卓球に於いては、視覚障がい者のスポーツだと思っており近隣にも関わらず職場の発達障がいのお子さんや、親御さんにお知らせできなかったのが残念でした。今後地域でやりたい方が増える可能性もありでした。事前に参加者の障がいの内容を確認すれば良かったです。『ふれあい』という部分では、ご参加者の笑顔を見る限り大成功だと思います。こういった活動の意義をもっと多くの方に伝えていき共生社会の実現に微力ながら力を尽くしたいと思います。

### 野球教室・ティーボール教室、四面卓球バレー大会委員 上田 健太郎

今回、「ふれあい地域振興事業」に実行委員として参画させて頂く上で、今年の7月に初級障害者スポーツ指導員を取得したばかりの一人として何ができるのかという不安がある反面、スポーツを通じてより生活を豊かにしたいという私自身の考えを実現できるという期待でいっぱいでした。そんな中、「ふれあいフットサル大会」「ふれあい野球教室」「四面卓球バレー大会」と携わらせていただきました。運営側として、私自身一番に感じたことは各大会言うまでもなく、障害者スポーツ指導員さんとの連携の上に成り立っていると言う点が非常に大きいと感じました。各大会運営には事務局の全面サポートの下、チーフの実行委員を中心に計画、準備、進行など進められるが、実際大会を運営する上では大会役員一丸となる必要があり、より密接な連携が必要になってくると感じました。より明確なマニュアルやより明確な共通認識など確認が必要であると感じました。

また、全国に先駆けて取り組まれている「ふれあい地域振興事業」としてもっと県内への広報を充実させ、参加者を募り、私自身も働きかけていかなければならなかったと反省しております。今後の課題として障がい者スポーツとしてだけでなく、共生社会の『スポーツ』として地域社会で根強く、継続的に取り組める企画を行い続けることがスポーツを通じた共生社会のさらなる実現・発展に繋がるのではないかと考えます。

最後に、全国に先駆けた「ふれあい地域振興事業」に携わらせていただき誠に光栄であり、すごく幸せな時間を過ごさせて頂きました。気が回らずにご迷惑おかけしたところが多々あったと思います。お詫び致しますと共にフォローして頂いたすべての皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

### サッカー教室委員 大久保 春美

この事業のねらいの一つに、「若手の障害者スポーツ指導員による事業検討会議を組織し、事業の企画・調整・運営等のマネージメントを担当することにより、将来の本県における幅広いスポーツ振興のための実務の担い手を育成する」ことが挙げられています。私は、昨年に引き続き実行委員に加わりましたが、委員の一人として積極的に参画し若い指導者達と一緒に、この事業を進める努力をしなければなりませんでした。事務局や各事業のリーダー任せにしてしまったことを深く反省しています。来年はモデル事

業として最後の取り組みになります。3年間の地域振興事業がしっかり実を結べるよう、もう一度緊張感をもって取り組んでいけるよう努力したいと思っています。そして、平成23年にスポーツ基本法が施行されましたが、現在、各地域では障がい者のスポーツをどのように取り込んでいくか具体的な方法を模索している状況です。私たち障害者スポーツ指導者達が地域と連携しながら、障がい者のスポーツ環境の整備に積極的に取り組んでいく時期です。まさしく、求められている時であり、それに応える時期でもあります。市町村スポーツ行政や団体、社会福祉協議会や障がい者団体等と連携し、障がい者のスポーツが日常化できるように行動することが3年目の課題であると考えます。

### 野球教室・ティーボール教室チーフ、四面卓球バレー大会委員 大武 光典 今回、実行委員として参加させていただきましたが、今まで運営側の立場になっての 活動経験がなく、不安もありました。ですが、どの種目であっても参加者の方々が楽し んで身体を動かす環境を設定していくことが、大切だと思い取り組んできました。チー フであった野球教室では「参加者と指導者が一緒に楽しむ」「安全面での配慮やスムー ズな進行」を心がけ行いました。参加者の方々の笑顔が多く見られ、さまざまな人との 交流ができたという良い点がある反面、時間配分やメニューの改善の必要があると感じ ました。

ふれあい地域振興事業を通して、障がい者スポーツに携わっている人々が、イベント 開催などの情報発信を積極的に行い、参加者を集うことで、地域にも障がい者スポーツ が根づいていくものだと感じました。そういった役割を今後、私も担い支援していけれ ばと思います。今回、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

### フットサル大会チーフ 上 良弘

昨年度に引き続き「ふれあい地域振興事業」に参加し、事業実施の目的の大切さを実感した。今事業の目的は、障がいの有無に関係なく、ともにスポーツを楽しむことを主眼に置き、若手の障害者スポーツ指導員の活用が大きな所である。それを考えると、「ふれあいフットサル大会」は、その共生スポーツであると考える。

今年度は、昨年度の反省を活かし半日の事業日程にしたことが大きな変更点である。また、全参加者に対して、身体を動かす楽しさを体感して貰うため、「浦和レッズハートフルクラブ」によるサッカーを基本としたレクリエーションを導入した。サッカー組織の最高峰に位置するJ1の浦和レッドダイヤモンズの全面協力を得て実施する今大会には、大きな意義を感じる。同チームは、「こころ」を育むことをテーマに、サッカーというスポーツを通じて多くのコミュニケーションが誕生する新しい試みが「浦和レッズハートフルクラブ」であるとしている。そのハートフルクラブによるイベントは、「障害の有無に関係なく、ともにスポーツを楽しむ」を実現する形になった。加えて、ハートフルクラブのスタッフ陣がチームを編成して同大会に参加してくれたのも、目的実現

の一助になったと感じている。しかし、全てが上手く事業が進行した訳ではない。今大会を主管する他の人たち協力がなければ、事業そのものが成り立たないのも事実である。 最終的には、今大会の目的は達せいしたのかもしれない。ただ、どれだけの参加者が「また次回も」と思ってくれたのか。次年度も開催するに至れば、その結果が解ると思う。

障害者スポーツ指導員の活用は、数値としてどう反映するかと感じる。私たちの知らない場所で、障がい者のスポーツは取り組まれている。ただ、現状では同指導員の情報がない、活動場所がないといった意見が集約され、様々な展開がなされている。コミュニケーションツールが直接的な会話でなされない現代、やはり場の提供は必要不可欠であると感じる。昔は・・・と経験値で語ることは、現状の障がい者スポーツの普及に大きな妨げになるようにも思える。どれだけの情報がどこにどのように集約されるのか。そして、障害者スポーツ指導員としての立場が社会にどう認められるのか。スポーツ基本法の基本理念が8項目に及んでいる。その中の第5項目に、「障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進」とある。しかし、全文に障害の有無を区別する文言がない以上、基本理念の8項目も障害の有無を区別するものではないと信じている。これからも「私と出会って良かった」と思って頂ける人たちとどれだけ出会っていけるのかを信念とし、先ずは地域を大切に背丈にあった取り組みをしていきたい。

今回もこのような機会を頂き感謝しています。ありがとうございました。

### 四面卓球バレー大会チーフ、サッカー教室委員 木村 和芳

今年度よりふれあい地域振興事業実行委員として参加させていただき 主に四面卓球バレーを担当させていただきました。四面卓球バレーは多くの障害者スポーツ指導員の参加を頂き審判を担当していただきました。

大会という形で各施設、団体より参加頂くと若干ルールの食い違いがあることに改めて気づかされ。今後用具、運営面も含め競技開発元の県リハビリセンターと指導者協議会とでルールの1本化をすすめなければと感じさせてくれた大会になりました。

普及途上の今だからこそ明解なルールを作り広く県内外に定着すればと思います。

### フットサル大会委員、ふれあい事業全般 白石 三重子

障がいのある人とない人がスポーツを通じ交流し、お互いの理解を深めると共に、障がいのある人のスポーツの進展を図る。その推進役としての障害者スポーツ指導員の育成を図ることを目的として、5つの振興事業が行われた。

今回の実行委員は、昨年も担当した指導員と、今年度の養成研修会を受講した新しい 指導員との構成で行った。2年目となり、昨年度の反省や、マネージメントの経験が生 かされ、新しく1から始めるといった事業形態ではなく行えたため、その分、事業の内 容での充実が図れたように考える。継続して行うことで、その経験の積み重ねが地域で の障がいのある人のスポーツ環境が根づくのではないかと改めて感じた。埼玉県でのスポーツ推進計画では、「地域において障害者スポーツの支援が出来る障害者スポーツ指導員の養成を推進し障害者のスポーツの普及に努める」といった施策が挙げられている。今回の事業が埼玉での普及に活かされるよう、微力ではあるが引き続き努めていきたい。最後に裏方役であった埼玉県障害者スポーツ協会の職員の皆様と、実行委員の皆様に心より感謝申し上げます。

<u>サッカー教室チーフ、フットサル大会・四面卓球バレー大会委員</u> 野元 政司 地域で、障がいのある人とない人がスポーツを通してふれあう機会というのはどれだ けあるのだろうか。この事業に参画して2年目だが、それは極めて少ないというのが、 実感である。スポーツは、障がいのあるなしそれぞれに行われているのが現実である。 そのような機会がたくさんあることは歓迎である。しかし、ノーマライゼーションの理 念からみると、そのような機会を作る大事さが浮かんでくる。ふれあうこと、それは理 解しあうことにつながってくる。この事業は、そのような意味で、今後とも継続して取 り組むべき働きかけであるといえる。どのようなスポーツをいつどこでどのようにして 開催していくかは、まだまだ検討の余地がある。共存する者の一人として、これからも 力を尽くしていきたいと、今年度の事業を終えて思う。

サッカー教室、四面卓球バレー大会委員 増渕 洋一郎 障がいのある人と障がいのない人との相互の理解を図るために、スポーツを通じた交流 は、非常に効果のある方法の一つであることを、ふれあい地域振興事業は示すことがで きたと思います。

スポーツを「楽しむ」という感覚をお互いが共有することが、交流する時の重要なポイントであったと思いますが、「ふれあい地域振興事業」を通じて、障がいのある人と障がいのない人とが「楽しむ」ことを共有し、より深い相互の理解が図られたと思うからです。

お互いがスポーツを「楽しむ」ことから、身近な地域で継続的に障がい者がスポーツをする環境を整備、充実させていく「きっかけ」が生まれることを期待したいと思います。

障がいのある人を深く理解する者の一人として障害者スポーツ指導員がいるならば、 障がい者スポーツを推進することによって、障がいのある人の社会参加を促し、同時に 障がいのない人の理解を図ることは、その大きな役割であるでしょう。多くの方々に参 加してもらう工夫は困難な課題でもあると思いますが、障がいがある人と障がいのない 人の相互の交流の場を設けていくことは、今後も障害者スポーツ指導員の重要な役割だ と思います。 障害者スポーツ指導員がより効果的な活動をしていくためには、運営要項作りや下準備、現場での楽しめる雰囲気作りなど、より主体的で実践的な力を身につけることが必要であると感じると伴に、身近な地域で機会を作り、継続的な活動に取り組んでいくことが重要であると感じました。

### フットサル大会、四面卓球バレー大会委員 免田 佳子

2年目となるふれあい地域振興事業では、2つの大会に参加させていただきました。フットサル大会では、試合ごとに他のチームが選ぶ「oo賞」が昨年同様に実施されました。「oo賞」を選ぶことで、他部門の試合を観戦し、年齢や障がいの有無をこえてふれあうことができます。予想もしないユニークな賞は、笑いや歓声をおこし、明るい雰囲気を作り出します。試合の勝敗や得点は関係なく賞が与えられるのが魅力です。運営する中では、このシステムを参加者に説明したり、選出のサポートをしたり、1つの試合が終わるごとに表彰したりと、指導員の果たす役割は多岐にわたりました。各チームの空き時間が少なく、内容の凝縮されていた半日だったように思います。

一方、四面卓球バレー大会は、予選から始まって決勝戦で終わり、1 位から 3 位にはメダルが授与されています。決勝に進めず悔しがる選手や、優勝に喜ぶ選手、色々な表情を見ることができました。また、老若男女、障がいの有無にかかわらず皆が同じコートで楽しめるのが、四面卓球バレーの魅力だと再認識することもできました。埼玉県発祥ということもあり、もっと多くの地域で今回のような大会や教室など開催できたら素晴らしいと感じています。普及を進めていくうえで大切なことの一つに、ルールの確立が挙げられます。障がいの程度や体力レベルに応じて、ルールを柔軟に変更できることが大切だと思いますが、それはベースとなるルールがあってこそ可能となります。更なる普及に向けてルールの確立は、第1の課題だと感じました。

フットサルも四面卓球バレーも「大会」と標記していますが、勝敗の扱いは全く違います。それぞれの競技特性を生かしながら、大会や教室ごとに特色を出し、参加者が自分に合ったものを選択できることはとても大切です。開催地域については様々な要因があり大幅に変更することは困難かもしれません。しかし、今後もこの事業が継続できるのであれば、今まで開催していない地域での開催を提案したいと思います。実行委員として本事業に参加させていただいたことで、参加者の引率だけでは分からない、運営の難しさや奥深さを学ぶことができました。この場を借りて御礼申し上げます。今後も色々なかたちで「ふれあい」や「地域」を大切にした障がい者スポーツの振興に、微力ながら携わっていきたいと思います。

### Ⅷ まとめと今後の課題

### 1. 埼玉県における障がい者スポーツの現状

平成 16 年に埼玉県で開催された第 4 回全国障害者スポーツ大会を契機に、埼玉県障害者スポーツ協会が設立され、埼玉県における障がい者のスポーツは、行政主体のスポーツ振興から障がい者やスポーツ関係者が主体になったスポーツへと発展してきました。現在、一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、12 の障がい者競技団体、障害者スポーツ指導者協議会や埼玉県特別支援学校体育連盟、そして障がい者団体などが障害者スポーツ協会の構成員となり、これらの組織による連携、さらに行政や一般競技団体、民間スポーツ団体からの協力や支援を得て多くの事業を実施しています。

しかし、障がい者が、市町村民の一人として、気軽に地域のスポーツイベントに参加 したりスポーツ施設を利用したりする状況には至っていない現状があります。

今後は、「スポーツ基本法」や平成 25 年 1 月に策定された「埼玉県スポーツ推進計画」により、市町村での障がい者のスポーツの参加機会の拡大や、競技レベルの向上を目指した強化事業、さらに障がいのある人とない人が共にスポーツを楽しむことができる共生スポーツの実現への期待が高まることと思われます。

### 2. 埼玉県ふれあい振興事業

昨年は、初めてモデル事業としての地域振興事業を行いました。障害者スポーツ指導者による実行委員会を組織し、事業の企画・調整・運営等のマネージメントを担当しました。スポーツをとおして、障がいのある人とない人との交流や、異なった障がい者間の交流、さらに市町村教育委員会と連携した事業など、4事業を実施しました。昨年の事業報告書には、今後の課題と方向について、次のことを報告しました。

- ①スポーツの共生にむけた県民意識の高揚と障害スポーツの推進のための事業の継続
- □事業の周知を徹底するための工夫と努力
- □地域における障害者のスポーツ参加機会の提供のため、市町村の理解
- □市町村スポーツ振興計画に障害者のスポーツについての明文化
- ⑤地域での障害者スポーツの推進役として、障害者スポーツ指導者のさらなる活動

さて、これらを引き継いで平成 24 年度の地域振興事業を実施しました。事業のねらいは昨年と同じですが、一部の事業の対象や内容を変えて 4 事業を行いました。

各事業の名称には「ふれあい」の冠をつけています。いずれの事業でも障がいのある 人とない人、また異なる障がい者同士が一緒に同じスポーツを楽しみ、さらに指導者と 障がい者がふれあい交流することで、相互の理解が深まりました。アンケートの結果を みると、ふれあい野球教室では、障がい者は技術の向上を実感できたことや本物の野球 に触れることができたことが、一番良かったことと答えています。また、浦和学院高等 学校野球部 3 年生は、「どうなるか、戸惑いがあった→関わることでコミュニケーションがとれてきた→自分が教えることで、相手が上手になったり笑顔がでたり→喜んでもらえて嬉しかった」と、教室が始まる前から終わったあとまでの感想を述べています。フットサル大会は、319 人(36 チーム)が参加しました。知的障がい者のサッカーチーム、精神障がい者のフットサルチーム、サッカー少年団のチーム、保護者のチームと、幅広い年齢層、障がい層、障がいの有無などチーム構成は異なっていますが、勝敗にこだわることなく、みんなでフットサルを楽しむことができたことがアンケートからも読み取れました。

このように、わたしたちが取り組んだ「ふれあい地域振興事業」は、スポーツをとお した共生社会のモデルを示すことができたものと思います。

### 3. 障害者スポーツ指導者の「活用」から「育成」へ、発想の転換

各事業における障害者スポーツ指導者の活用は、事業をとおしてリーダーの育成や自立を促すことが本事業の主眼とすべきところでありました。しかし、今年度は、事業の手伝いという役割を提供するだけで終わってしまった部分が多く、この点は大いに反省しなければならないことです。「障害者スポーツ指導者の活用」というのは、「障害者スポーツ指導者」をどう使っていくか、という発想ですが、「活用」されるのでは、将来に「生きる力」とはなりにくく、そろそろ発想の転換が必要かもしれません。事業をとおしてリーダーの育成をする、ここに1つの主眼が置かれるべきです。来年度は、障がい者のスポーツの日常化をめざし、障害者スポーツ指導者が自立して地域のスポーツをマネージメントしていけるかという視点をもって事業を準備していくことが必要です。

### 4. 今後の課題

来年度は、県内各地域(市町村)が、障がい者のスポーツを振興するために行動(実行)に移せるような事業をモデルとして実施し、県内全域に示すことが必要です。その ための具体的な課題と取り組みについて整理すると、次のことが考えられます。

### (1)地域(市町村)の既存事業と連携し、障がい者が参加できる事業の提案と協力を 行い、共生スポーツ事業を実現する

障がい者のために新たな事業をスタートさせることも大切ですが、まず市町村が取り組みやすく、継続して事業を行えるようになるための支援をすることが、共生スポーツ実現への近道だと考えます。すでに市町村行政等が主催しているスポーツ事業のなかで、障がい者が参加しやすい事業があれば、実施要項の見直しや運営の工夫、具体的な組織の連携について提案することで、地域での障がい者のスポーツの導入そして継続が比較的スムースに可能になります。これにより、特別支援学校だけでなく、小・中学校の特

別支援学級児童・生徒のスポーツへの参加も身近なものになってくると思います。

# (2) 障害者スポーツ指導者の「活用」から「育成」そして「自立」へ向けた取り組みを実践する

(1)を実現するためには、障害者スポーツ指導者の参画が不可欠です。できれば県内ブロック単位で、連携・協調して地域支援を進めることが効果的です。障害者スポーツ指導者が、地域のスポーツ推進委員や社会福祉協議会、学校などの多くの関係者を繋ぐ役割を果たし、人・事業・地域の核になって地域のスポーツをマネージメントできるよう支援していくことが、この地域振興事業モデル事業の最終年の課題になります。

過去の反省を踏まえて事業を進める際の留意点をあげると、スポーツ協会の役割とスポーツ指導者の役割を明確にし、何にどこまで関わるかをはっきりさせる必要があります。また、指導者の役割は、できるだけ具体的に分担し、責任をもって事業にあたることができるような仕組みを作っておくことが重要です。

### (3) 地域振興を推進するための手引き書の作成

(1)(2)を推進するツールとして、また、将来的に県内全地域での事業の推進に活用するためには手引き書の作成が必要です。市町村の既存事業の見直しのノウハウだけではなく、共生スポーツの具体例も盛り込んで誰もが理解できる内容にすることで、市町村や関係者の理解や協力が得られやすくなるとともに、障害者スポーツ指導者が地域をマネージメントする際の重要なテキストになるはずです。

手引き書の作成にあたっては、障害者スポーツ指導者等による検討委員会を設置して 準備を進めるとともに、(1) の事業を実施しながら得られた情報を手引書に反映させ ることも必要になってきます。

#### (4)「埼玉県障がい者フットサル協会」設立に向けた支援

フットサル大会には、障がいや年齢の枠をこえて多くフットサル愛好者が参加しました。 障がい者のフットサルを振興させ、共生スポーツの実現を向かうためには組織化を図ることがひとつの方策となります。 当事者を中心にした「埼玉県障がい者フットサル協会」の設立にむけた支援を行う必要があります。

#### 3. おわりに

地域振興事業は、障がい者のスポーツ事業内容そのものがモデルであることだけではなく、事業の準備の過程、運営に関わる人々がどのようにそれぞれの役割を果たしていくかなど、成功例も失敗例も含めて事業の全ての部分を公開することが、モデル事業の使命であります。

来年はモデル事業最終年度であり、地域で継続的にスポーツの活動に取り組める環境

づくりが構築できるよう、地域のスポーツ関係組織や団体が繋がるためにも、具体的に 示すことができるようなモデルづくりのために一層の努力が必要になっています。

### IX 資料

1. 事業の実施要綱および4事業実施要項

平成24年度埼玉県ふれあい地域振興事業 実施要綱

#### 1 目 的

障害のある人と障害のない人がともにスポーツを楽しみ、スポーツをとおした共生社会の実現をめざ すとともに、障害者が暮らす身近なスポーツ環境の充実を図ることを目的に、4つの事業を実施する。

とかくスポーツの機会に恵まれない分野についても、積極的な働きかけを行うことで今後の継続的な スポーツへの参加に繋げるとともに、若手の障害者スポーツ指導者を中心にした実行委員会を組織し、 幅広いスポーツ振興の担い手を育成するとともに実行委員につぐ指導者を養成することにより、本県に おける障害者スポーツの一層の推進を図ることを目的とする。

さらに、競技から健康づくり、そしてすべての障害を対象とした事業を展開する中で、一般県民への 障害者スポーツが幅広いものであり、スポーツの共生が可能であることの理解を促進できるものである ことを、これらの事業をとおして示すことも本事業の大きなねらいである。

### 2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

### 3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

#### 4 後 援

埼玉県

### 5 協力

学校法人明星学園浦和学院高等学校、埼玉県特別支援学校体育連盟、埼玉県フットサル協会、埼玉県障害者サッカー協会、社団法人埼玉県精神保健福祉協会、社団法人埼玉県手をつなぐ育成会、社会福祉法人埼玉県身体障害者福祉協会、浦和レッドダイヤモンズ、レッズランド、モアスマイルズ

#### 6 期間

平成24年6月から平成25年2月まで

### 7 実施事業、期日、会場等

ねらい:障害のある人と障害のない人がスポーツをとおして交流し、お互いの理解を深めるとともに、障害者のスポーツの進展を図る。その推進役として若手の障害者スポーツ指導者による実行委員会を組織し、幅広いスポーツ振興のリーダーを育成するとともに次に続く指導者を養成し、もって事業におけるスポーツの振興を図り、将来の本県における幅広いスポーツ振興のための実務の担い手を育成する。

事業	日程	会場	各事業のねらい	回数
ふれあい地域振興	8月、	彩の国すこやかプラザ	委員 12 人、スポーツ指導	全体会議
事業実行委員会	平成 25 年 2 月		者の自立的活動の推進を	2 回
			図る。	
事業	日程	会場	各事業のねらい	回数
ふれあい野球教室	11月24日(土)	県営大宮球場	障害者と高校生が同じグ	60 人×1 回
			ラウンドに立ち、ボールを	
			とおして共生社会の実現	
			を目指す。引き続き、身体	
			障害者野球の組織化を目	
			指す。	
	6月~12月			
ふれあい		特別支援学級及び特別	特別支援学級及び特別支	50 人×2 回
ティーボール教室		支援学校グラウンド	援学校に対し、ティーボー	
			ルをとおしてソフトボー	
			ル人口の拡大をはじめス	
			ポーツ全般の啓発を図る。	
			ティーボール団体の組織	
			化を目指す。	
ふれあい	11月3日	レッズランド	障害者チームと青少年か	340 人×
フットサル大会	(土)		ら高齢者までの健常者チ	1 日
			ームが同一ルールで競技。	
			共生スポーツのモデル。引	
			き続き、フットサルの組織	
			化を目指す。	
ふれあい	7月~12月	特別支援学級及び特別	特別支援学級及び特別支	20 人×
サッカー教室		支援学校グラウンド	援学校に対しサッカーを	3 地域
			とおしてスポーツ全般の	=60 人
			啓発を図る。	
四面卓球バレー	平成 25 年	公立大学法人埼玉県立	障害者と 1 名の健常者で	4名×
大会	2月	大学体育館	チーム編成を行い、共生事	10 チーム
			業のきっかけづくりとす	=40名
			るとともに軽スポーツの	
			啓発を図る。	

### 8 対象者

- ① (野球教室) 野球に興味のある障害者と高校野球部の選手(肢体・聴覚・知的・精神) (ティーボール教室) 特別支援学級あるいは特別支援学校に在籍している生徒(肢体・知的)
- ② (ふれあいフットサル大会) フットサルの興味のある障害者 (肢体・知的・聴覚・精神) 及び一般の青少年から高齢者まで
- ③ (ふれあいサッカー教室) サッカーに興味がある特別支援学級あるいは特別支援学校に在籍している生徒(肢体・知的)
- ④ (四面卓球バレー大会) すべての障害者及び地域の高齢者

#### 9 実施方法

本事業においては、障害者スポーツ指導者が中心になって全体の「実行委員会」を設置し、事業それぞれに責任者を配置し、実施する。

また、各事業については、各競技の経験がある指導者が各事業を担当し、運営要領の作成や各種依頼文の作成や交渉を含め担当委員を中心に実施し、スポーツ協会職員はそれを補佐する。

### 10 実行委員の募集について

前年度の実行委員を中心に埼玉県障害者スポーツ指導者協議会に所属するスポーツ指導者を募り、実行委員会を組織する。

- 11 健康、安全管理
- 12 傷害保険の加入
- 13 事務局
  - 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

#### 14 その他

(1) 写真等の使用について

大会結果や本事業で撮影する写真等は、一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会ホームページ等に掲載する場合及び障害者のスポーツに関する広報用として使用する場合があります。 また、事業当日、テレビ・新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像がテレビ・新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえ参加してください。

(2) この要綱の定めるもののほか、各事業の実施に関し必要な事項は別に定める。

### 平成24年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

### ふれあい野球教室実施要項

#### 1 目 的

障害のある人と障害のない人がともに野球を通じてふれあい、もってスポーツをとおした共生社会の実現を目指すとともに、地域の一体感並びに活力の醸成及び身近なスポーツ環境の充実を図ることを目的とする。

#### 2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

### 3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

#### 4 協力

埼玉県高等学校野球連盟、学校法人明星学園浦和学院高等学校

#### 5 後 援

埼玉県、埼玉県教育委員会

#### 6 対象

- (1) 障害(肢体・聴覚・知的・精神)のある方で、野球を楽しみたい人、興味のある人
- (2) 小学5年生以上

#### 7 指導者

学校法人明星学園浦和学院高校野球部

#### 8 日 時

平成 24 年 11 月 24 日 (土) 13:00~受付開始 16:00~終了 ※雨天の場合は球場会議室で野球教室を開催します。

#### 9 会 場

埼玉県営大宮球場

所在地:埼玉県さいたま市大宮区高鼻町4丁目

アクセス:東武野田線大宮公園駅から徒歩10分、JR 大宮駅東口から徒歩20分

### 10 プログラム

・投球、打撃、守備の基本

打撃、守備の実践

・高校球児のデモンストレーション

ふれあい交流会

#### 11 申し込みおよび参加方法

参加申込書に必要事項を記入し、10 月 31 日 (水) までに郵送またはファックスにて一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に申込んでください。ただし、ファックスの場合、送信後に電話で確認をいれてください。

#### 12 費 用

無料

#### 13 服装

ユニフォーム、ジャージ、運動靴等できるだけ野球のできる服装でお願いします。帽子もご用意ください。また、グローブをお持ちの方はご持参ください。(名前等目印をつけてください。)

#### 14 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任においてご参加ください。

#### 15 傷害保険の加入

主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険(レクレーション保険)に加入します。 <保障内容>

通院時:1日1,500円、入院時:1日3,000円、死亡時:240万円

#### 16 その他

ふれあい野球教室において撮影する写真は、当事業の報告書、主催者のホームページや会報に掲載、あるいは障害者のスポーツの広報用として使用することがあります。また、教室当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえご参加ください。

#### 問い合わせ・申し込み先

一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会

担当:石川、松本

〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町 1-1 2 4 埼玉県大宮合同庁舎 3 階電話: 0 4 8 -6 5 0 -0 1 7 0 FAX: 0 4 8 -6 5 0 -0 1 7 1

HPアドレス <a href="http://sainokuni-sasa.or.jp">http://sainokuni-sasa.or.jp</a>

# ふれあい野球教室【参加申込書】

(平成24年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」)

ふりがな			性別	男·女
氏名			生年月日	T·S·H 年 月 日( 歳)
住 所	₸			
	Tel		Fax	
<b>障害について</b> (あてはまるものに(		1、肢体不自E 【障害の状態	Ħ	1
   ※肢体不自由の方は障害の状態についてご記入をお願いします。		2、聴覚障害【手話通訳	要	· 不要 】
	手話通訳の「要・不要」いずれかに○をつ	3、知的障害		4、精神障害
参加時に使月	引する補装具等について	1、使用なし	2、車村	奇子 3、杖
(あてはまるものに(	)をつけてください)	4、その他【		1
野球・ソフトボ (あてはまるものに(	ール経験について )をつけてください)	1、野球 2、	ソフトボーノ	レ 3、経験なし
特記事功	※運動・集団活動を実施するに	・	「 <b>か</b> いなっぱる」	<b>禁川 ブノセジ</b> ヤリ

# ※ 申込締切:平成24年10月31日(水) 必着

※ この【参加申込書】に記入された個人情報については、業務運営に必要と認められる目的以外には使用しません。

#### 平成24年度埼玉県ふれあい地域振興事業

# ふれあいティーボール教室開催要綱

# 1 目 的

この教室は、スポーツをとおして心の豊かさと思いやりの心を育むとともに、スポーツへの参加機会の拡大と障害者の社会参加の推進を図ることを目的とします。

#### 2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

#### 3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

#### 4 後 援

埼玉県、埼玉県教育委員会

#### 5 日時、会場

日時:開催希望校と別途相談しますが、平日の開催とします。

会場:開催希望校グラウンド 又は 体育館

#### 6 対 象

特別支援学校・特別支援学級に在籍している生徒(肢体・知的)

#### 7 指導者

元プロ野球選手

#### 8 申し込み方法

別紙「ふれあいティーボール教室申込書」に必要事項を記入し、4月末日までに一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に、FAXで申込んでください。

#### 9 費 用

無料

#### 10 服装

運動のできる靴と服装でご参加ください。タオルと飲み物もご用意ください。

#### 11 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加してください。

#### 12 その他

ティーボール教室において撮影する写真は、主催者のホームページや会報または埼玉県障害者スポーツ指導者協議会のホームページに掲載、あるいは障害者スポーツの広報用として使用することがあります。また、教室当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえお申込みください。

≪問い合わせ・申し込み先≫

#### 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町 1-124 埼玉県大宮合同庁舎 3 階

電話: 048-650-0170 FAX: 048-650-0171

E-Mail: 2004@sainokuni-sasa.or.jp HPアドレス: http://sainokuni-sasa.or.jp

# 平成24年度埼玉県ふれあい地域振興事業 ふれあいティーボール教室申込書

(ふり7 学 校											
連絡責氏		ふりがな									
連絡責何所属											
住	所	Ŧ									
電	話				FAX						
E-M	[ail										
			第1希望		月	日	(	)	午前	•	午後
参	多加希望	日	第2希望		月	日	(	)	午前	•	午後
			第3希望		月	日			午前		
				<b>*</b>	平日の開催。	となり	ます。	月~金剛	醒日からこ	:選択	.ください。
参加者	香数(見	し込み)			※開催決定征	幺 本	こをめ	アタ 畑 (	名のご提出な	・小匹	
				:	常用惟伏足1	交 、 <i>(</i> )	5/200	(石傳)	ノ 二 1 年 山 を		V. U. x. 9 .
特記事項	※開催にる	あたり、ご要!	望やご意見がな	うりました <i>ら</i>	、ご自由に	ご記 <i>)</i>	人くださ	۲۷۰.			

# 平成 24 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# ふれあいフットサル大会実施要項

#### 1 目 的

障害のある人と障害のない人がフットサル競技を通じてともに楽しみ、スポーツをとおした共生社会実現を目指すとともに、障害のある人が暮らす身近なスポーツ活動への参加機会の拡大や活動環境の充実を図ることを目的とする。

- 2 主 催
  - 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会、埼玉県障害者スポーツ指導者協議会
- 3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

4 後 援

埼玉県、埼玉県教育委員会

5 協力

浦和レッドダイヤモンズ、レッズランド、埼玉県障害者サッカー協会

6 日 時 \*雨天中止

平成 24 年 11 月 3 日 (土) 8 時 30 分~ 受付開始

8時40分~ 代表者会議

9時00分~ 試合開始

11時40分 参加者全員による浦和レッズハートフルサッカー教室、

閉会式

12 時 30 分 終了予定

#### 7 開催地

「レッズランド 人工芝」

〒338-0825 さいたま市桜区下大久保 1771

- 8 競技種目およびチーム構成
  - (1) 競技区分
    - ① 中学生以上の部 (障害あり) ……………… 12 チーム
    - ② 小学生の部 (障害なし) …………………… 8チーム
    - ③ 一般交流の部 ………………… 12 チーム
    - ④ ふれあいMIXの部(混合) ······ 4チーム
    - 注) ここでいう「障害あり」は、肢体障害(立位)、聴覚障害、知的障害、精神障害とします。

#### (2) チーム構成

①中学生以上の部 (障害あり)

中学生以上の障害のある選手で構成されている5名以上のチームで、女性の出場も可とします。

②小学生の部(障害なし)

小学5年生以下の選手で構成されている5名以上のチームで、女子児童の出場も可とします。

③一般交流の部

中学生以上の選手で構成されている 5 名以上のチームで、「障害あり」「障害なし」チームの交流戦を行います。

④ふれあい MIX の部 (障害ある・ない混合)

男性および女性で構成されている 5 名以上のチームで、且つ当該試合中は障害のある選手 2 名と女性選手 1 名の計 3 名以上が出場できるチーム構成であることとします。

- 注) エントリーについては、各区分1チームを原則とします。
- 9 競技規則 \*詳細は、別紙「ふれあいフットサル大会ローカルルール」参照
  - ① 競技はJFAフットサル競技規則をベースにしたローカルルールを適用します。
  - ② ピッチサイズは  $40m \times 20m$  のフットサルコートを使用します。
  - ③ ボールは、フットサルボールを使用します。
  - ③ 交代要員の選手数の制限は設けません。
  - ④ 選手は、ソックスとすね当てを必ず着用してください。
  - ⑤ サッカーシューズについては靴底がゴム製でポイントのない(凹凸のない)平らなものとします。
  - ⑥ 当該チームの話し合いにより、一部競技規則を緩和することもあります。

#### 10 大会方法

- ① 最大参加チーム数は全体で36チームとします。
- ② 障害のあるチームについては、それぞれの障害によってリーグ(4 チーム)に分けます。ただし、 決勝トーナメントは行いません。
- ③ 申し込み状況によっては、競技種目の参加チーム数が増減する場合があります。
- ④ 試合時間は、10分(前後半なし)を予定していますが、詳細については参加チーム数により主催者側で決定します。
- ⑤ 最大参加チーム数を超えた場合は抽選となります。

#### 11 表彰

当該試合のそれぞれのチームから、優秀選手を選出します。

#### 12 申し込みおよび参加方法

別紙「ふれあいフットサル大会参加申込書」に必要事項を記入し、<u>10 月 15 日(月)まで</u>に、一般 社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に、郵送またはファックスで申し込んでください。ただし、ファックスの場合、送信後に電話で確認を入れてください。

#### 13 費用

無料

#### 14 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加してください。

#### 15 傷害保険の加入

主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険(レクリエーション保険)に加入します。 <保障内容>

通院時:1日1,500円、入院時1日3,000円、死亡時:209万円

# 16 その他

\* フットサル大会において撮影する写真は、当事業の報告書、主催者のホームページや会報に掲載、あるいは障害者のスポーツの広報用として使用することがあります。また、大会当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがあるので、予めご了承のうえご参加ください。

#### 問合せ・申込先

一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会

担当:優、松本

〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町 1-124 埼玉県大宮合同庁舎 3 階電話: 048-650-0170 FAX: 048-650-0171

HPアドレス http://sainokuni-sasa.or.jp

#### ふれあいフットサル大会のローカルルール

競技は、2011-2012(財)日本サッカー協会制定の「フットサル競技規則」をベースに行なうが、以下の点に留意下さい。

#### 1 ピッチとボール

- ① ピッチサイズは、 $40m \times 20m$  のフットサルコートを使用。(人工芝コートについてはサイズが異なる場合があります。)
- ② ボールは、フットサルボールを使用します。ただし、小学生の部(障害なし)については、小学生用のボール(軽量ボール  $340 \, \mathrm{g} \sim 380 \, \mathrm{g}$ )を使用する。
- 2 競技者(選手)の数
  - ① 試合は、5人以下の競技者からなる2つのチームによって行う。チームの競技者のうち一人はゴールキーパーとする
  - ② ただし、何らかの理由で5人に満たない場合は、他のチームから補充し対戦できるよう配慮する。
- 3 交代要員
  - ① 交代要員の選手数は制限しない。
- 4 選手が着用する用具
  - ① ソックスとすね当ては、必ず着用すること。
  - ② シューズは、靴底がゴム製でポイントのない(凹凸のない)平らなものとします。
  - ③ ユニフォームまたはそれに代わる物を着用してください。ただし、キーパーは色違いの服であること。
  - ④ 着用するものは対戦相手と同じ色の場合やない場合は、主催者側で用意した色違いのビブスを着用する。
- 5 試合時間
  - ① 10分を予定しているが、出場チームにより主催者側で当日までに決定する。
  - ② タイムアウトの時間はとらない。
- 6 壁なしフリーキックと4秒ルール
  - ① 一般交流の部以外は、「壁なしフリーキック」および「4秒ルール」は適用しない。

# フットサルの試合に初めて参加される方へ 〜サッカーとフットサルの違い〜

- 1 ショルダーチャージとスライディングは禁止です。反則行為として直接フリーキックになります。
- 2 サッカーでのゴールキックは、フットサルは「ゴールクリアランス」にあ たります。クリアしたボールがノーバウンドでハーフウエーラインを越えた ら、ハーフウエーラインの任意の地点から蹴る間接フリーキックが相手チー ムに与えられます。

ふれあいフットサル大会 参加申込書 (平成24年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」)

		(120-1120-01		. 3. 7.		-00.7 01-1		4
	チーム名	(ふりがな)					•••••	
	, 44							
<del>-</del>	 競技区分	① 中学生以上の	部(障害あり	J)		2	/]\	学生の部(障害なし)
	つ)で囲む	③ 一般交流の部(				4		れあいMIXの部(混合)
<	連絡先>							
連	絡責任者				電話	5		
	氏名				FAX	(		
	住所	〒			•	•		
	緊急連絡	A先(携帯電話)						
<	メンバー表	>						
	督		コーチ					コーチ
1	ふりがな		性	男	年	歳	障	肢体(立位) ・ 聴覚 ・ 知的
	氏名		別	· 女	齢	成	害	精神 ・ なし
	ふりがな		性	男	年	лЕ	障	肢体(立位) ・ 聴覚 ・ 知的
2	氏名		別	· 女	齢	歳	害	精神・ なし
	ふりがな			男	年		障	肢体(立位)・ 聴覚 ・ 知的
3	氏名		別	· 女	蛤	歳	害	精神 · なし
	ふりがな			男	年		障	
4	氏名		別	· 女	齢	歳	害	精神 · なし
	ふりがな			男	年		障	
5	氏名		別	· 女	齢	歳	害	精神 · なし
	ふりがな			男	年		障	
6	氏名		別	· 女	齢	歳	害	精神 · なし
	ふりがな			男	年		障	
7	氏名		別	· 女	蛤	歳	害	精神 · なし
	ふりがな			男	年	ı le-	障	肢体(立位)・ 聴覚・ 知的
8	氏名		別	· 女	齢	歳	害	精神 ・ なし
	ふりがな			男	年	-1 <b>-</b>	障	肢体(立位)・ 聴覚・ 知的
9	氏名		別	· 女	齢	歳	害	精神 ・ なし
1.0	ふりがな		性	男	年	-1 <b>-</b>	障	肢体(立位)・ 聴覚・ 知的
10	氏名		別	· +	蛤	歳	害	*** *** *** *** *** *** *** *** *** *

11名以上の場合は申込書をコピーしてご使用ください。

# 平成24年度埼玉県ふれあい地域振興事業

# ふれあいサッカー教室開催要綱

#### 1 目 的

この教室は、スポーツをとおして心の豊かさと思いやりの心を育むとともに、スポーツへの参加機会の拡大と障害者の社会参加の推進を図ることを目的とします。

#### 2 主 催

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会

#### 3 運 営

埼玉県ふれあい地域振興事業実行委員会

#### 4 後 援

埼玉県、埼玉県教育委員会

#### 5 日時、会場

日時:開催希望校と別途相談しますが、平日の開催とします。

会場:開催希望校グラウンド 又は 体育館

#### 6 対象

特別支援学級あるいは特別支援学校に在籍している生徒(肢体・知的)

#### 7 指導者

- ○北本綾子(元サッカー女子日本代表選手、元浦和レッズレディース)
- ○木原 梢 (元浦和レッズレディース)

#### 8 申し込み方法

別紙「ふれあいサッカー教室申込書」に必要事項を記入し、6月末日までに一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会に、FAXで申込んでください。

#### 9 費 用

無料

#### 10 服装と持ち物

運動ができる靴と服装でご参加ください。タオルや飲み物もご用意ください。 体育館用運動靴もご用意ください。(寒い場合あるいは雨天の場合は体育館で実施)

#### 11 健康・安全管理

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加してください。

#### 12 その他

サッカー教室において撮影する写真は、主催者のホームページや会報または埼玉県障害者スポーツ指導者協議会のホームページに掲載、あるいは障害者スポーツの広報用として使用することがあります。 また、教室当日にテレビや新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがありますので、ご了承のうえお申込みください。

# ≪問い合わせ・申し込み先≫

#### 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町 1-124 埼玉県大宮合同庁舎 3 階

電話: 048-650-0170 FAX: 048-650-0171

E-Mail: <u>2004@sainokuni-sasa.or.jp</u> HPアドレス: http://sainokuni-sasa.or.jp

# 平成24年度埼玉県ふれあい地域振興事業 ふれあいサッカー教室申込書

(ふりがな) 学校名							
連絡責任者 氏名	(\$ b b	(t <sub>a</sub> )					
連絡責任者(							
住所	∓ 						
電話			FAX				
E-Mail			·				
	•	第1希望	月	日 (	) 午前	· fi •	午後
42 Lu 3	< <del>4</del> □ □	第2希望	月	日 (	) 午前	<b>前</b> •	午後
参加者	7 全日	第3希望	月	日 (	) 午前	前 •	午後
		※開催曜日の指領前)からご選択。	定がございます。 ください。	火曜日、水曜	日(午前)、	金曜日	(午
参加者数	(見込み)					名	
			※開催決定後、	あらためて名紀	簿のご提出を	お願い	します。
※開催	<u></u> にあたり、	ご要望やご意見があり	ましたら、ご自日	由にご記入くだ			
	·		. , , , ,		-		
特							
記							
事項							

# 平成 24 年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会開催要項

#### 1 目 的

この大会は、スポーツをとおして心の豊かさや思いやりの心を育むとともにスポーツへの参加機 会の拡大と障害者の社会参加の推進を図ることを目的とします。

- 2 主 催
  - 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 埼玉県障害者スポーツ指導者協議会
- 3 運 営

埼玉県ふれあい振興事業実行委員会

4 後 援(予定)

埼玉県 埼玉県教育委員会

5 協 力

さいたま市立植水小学校 埼玉県総合リハビリテーションセンター

6 日 時

平成 25 年 2 月 10 日(日) 9:30~16:00 (予定)

①受付 9:30

②開会式 10:00

③競技開始 10:30

④競技終了 15:30

#### 7 会 場

さいたま市立植水小学校 体育館

〒331-0057 さいたま市西区中野林 225-1

〈交通機関〉

- ①大宮駅バスターミナル 1 番発車のバス全てまたはバスターミナル 2 番発車の指扇駅行に乗車 「水判土 (みずはた)」バス停下車・徒歩 8 分
  - 片道 190 円
- ②指扇駅から大宮駅西口行に乗車「水判土(みずはた)」バス停下車・徒歩8分
  - 片道 170 円

#### 8 対 象

次のすべての条件を満たす選手により構成するチームまたは個人申込とする。

(1)小学生以上の身体障害者、知的障害者、精神障害者。

ただし、各試合に1名まで健常者が出場できることとする。

(2)埼玉県に現住所を有するか、埼玉県内の学校、更生援護施設等に入所、通所、通学している者。

#### (チーム編成)

#### 【チーム申込】

4名以上のチーム申込。

#### 【個人申込】

1名~3名のチーム及び個人申込。チーム編成は主催者にて行う。

9 競技規則、競技の進め方 別紙参照

#### 10 競技方法

予選リーグ戦を行い、各グループの上位チームによる決勝トーナメント戦で順位を決定する。 ※ただし、申し込み状況により変更することがある。

#### 11 表 彰

1位から3位までに賞状・メダルを授与する。

#### 12 参加費用

無料 (ただし、交通費、昼食代等は各自負担とする)

#### 13 申込方法

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町 1-124 埼玉県大宮合同庁舎 3F

TEL 048-650-0170 FAX 048-650-0171

\*FAXにてお申込みの場合は、確認のお電話をお願いします。

#### 締切 平成 25 年 1 月 23 日(水) 必着

#### 14 服装等

服装は運動に適したものを着用してください。また、上着、タオル、体育館シューズ、昼食、 その他に必要なものは各自で用意してください。ただし、下肢装具を装着している場合は靴 の汚れを落としてご入場ください。

#### 15 健康管理について

参加者は、各自の責任において健康管理し、自己責任において参加してください。

#### 16 傷害保険

主催者において、参加者を被保険者とした普通傷害保険(レクリエーション保険)に加入する。

#### <保障内容>

通院時:1日 1,500 円、入院時:1日 3,000 円、死亡時:330 万円

#### 17 その他

(1) 広報等について

本大会において撮影する写真は、当事業の報告書、主催者のホームページや会報に掲載、 あるいは障害者スポーツの広報用として使用することがあります。また、教室当日にテレビ や新聞等の報道機関が来場することが予想され、写真、映像が新聞等で報道されることがあ るので、ご了承のうえご参加ください。

(2) 設備について

身障者用トイレを利用することができます。

(3) 来場方法について

車で来場する場合、できるだけ乗り合わせでのご来場にご協力をよろしくお願いいたしま す。駐車場のご案内は、参加チームに対し後日ご連絡申し上げます。

#### 問合せ・申込先

一般社団法人 埼玉県障害者スポーツ協会 担当:石川、松本

〒330-0843 さいたま市大宮区吉敷町 1-124 埼玉県大宮合同庁舎 3 階

電話:048-650-0170 FAX:048-650-0171

HPアドレス http://sainokuni-sasa.or.jp E-mailアドレス 2004@sainokuni-sasa.or.jp

# 本大会の競技の進め方

#### ①<招集>

〇サーブ権、座る位置を決める チーム代表者のジャンケンにより、勝ったチームにサーブ権が与えられる。 座る位置は、勝ったチームから順に  $1\rightarrow 2\rightarrow 3\rightarrow 4$  の位置とする。

#### ②<入場>

○各チーム 4 名が決められた位置に座る

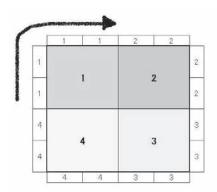
#### ③<試合時間>

予選リーグの試合時間は7分です。 決勝リーグの試合時間は10分です。

# ④<試合開始>

審判の開始合図後、

- ○サーブ権を得たチームから、ボールをコート上に置き、「行きます」等の合図の後、サーブを打ち、ボールアウトやミス・反則が起こるまで、4 チームでボールを打ち合う。
- ○ボールアウトやミス・反則があったチームに1点が入る。
- ○サーブ権は右回り(左隣の人)で移動し、サーブを打ち、ゲームを繰り返す。



サーブ権の移動

#### ⑤<試合終了>

○試合終了時に点数が少ないチームから順に4点、3点、2点、1点となり、最終的に合計点数の多い4チームが決勝リーグへ進出する。合計点数が同立の場合は総失点の少ないチームを上位とする。

#### ⑥<退場>

○コートから退場する。

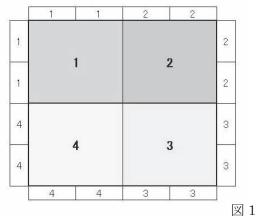
# 四面卓球バレー競技規則

#### 1、設備・用具

# ①コート

コートは図1のように卓球台を2台あわせて、ネット用の支柱4本(ネットは使用しない)を通常 とは逆の方向に向け台を固定する。

コートの周りの指定された場所に4チーム16名が座る。





STTボールを使用する。

ボールは、直径が 4.0cm の球体で、その中に金属球 4 個が入った総重量 3.6g~3.8g のものとする。

#### ③ラケット

②ボール

ラケットは STT ラケットまたは、シェイク型のラケットを基本とする。(ラバーの有無は問わな (1)

ラケットを作成する場合は打つ面の大きさが縦 16cm×横 17cm 以内で厚さは 2cm 以下とする。

#### 2、ゲーム

#### ①チーム

1チームは4名とする

#### ②対戦方法

4 チームで対戦し、ミス・反則したチームに 1 点を与える失点方式で行う。

#### ③時間

予選リーグの試合時間は7分です。 決勝リーグの試合時間は10分です。

#### ④選手交代

登録された選手は、随時交代することができる。

#### ⑤勝敗の決め方

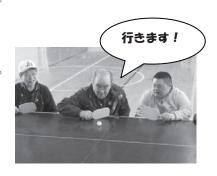
ゲームの勝者は、ゲーム終了時に点数が少ないチームから順に勝ちとする。

<u>予選リーグ</u>については勝点制とし、1位4点・2位3点・3位2点・4位1点を与える。同点の場合は、総失点の少ないチームを上位とする。

決勝トーナメントで同点の場合については、抽選により決定する。

#### 3、サービス

サーブ権を得たチームから右回りで一人ずつサーブ権が移動する。 サーブは、ボールをコート上に置き、「行きます」等のかけ声、 または、ラケットをあげるなどの合図をしてから、他チームに 向けて打つ。



#### 4、返球

返球は3打以内で他のチームに返さなければならない。また、返球は卓球台の上をゴロで転がることを基本とするが、バウンドしてしまった場合は、一度相手チームの卓球台に触れていればインプレイとする。

ノーバウンドで出てしまった場合は反則となるが、もし選手のラケットに触れた場合はそのまま 競技は続行される。

# 5、反則(1点が与えられる場合)

オーバータイムズ・・・3 打以内で他チームに返球できなかったとき

ドリブル・・・一人がボールに連続して2回触れたとき

ストップボール・・・触れたボールがコート上で止まったとき

*ボールアウト*・・・自チームのコート上からボールが落ちたり、打球がノーバウンドでコートから出るなど、ボールがアウトになったとき

サービスミス・・・正規のサービスが行えなかったとき。また支柱に当たったとき



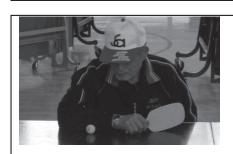
スタンディング

・競技者が椅子から腰を浮かしたとき



ホールディング

・・ボールを押さえたり押したりしたとき



#### ボディーボール

・・コート上でボールがプレイヤーに当たったとき、ラケットの範囲外で打球したとき ※ラケットの範囲とは、ラケット及びラケットを保持する手首まで

# 彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会 参加申込書【チーム申込】

(平成24年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」)

手.	一ム名	(ふりがな)					
<連約	各先>					1	
演怒	各責任者				電話		
	氏名			ŀ			
,	20 11				FAX		
	住所	〒					
<来場	易方法>						
1,乗用 4,その		数 ) 2,自転車 (台数 )		)		3,徒歩	
<b>&lt;メン</b>	バー表>						
	ふりがな		] <u> </u>	見			
	7,0 0		~  1±	.	年	歳	□ 手話通訳を希望する
選手	氏名		別	<sub>女</sub>	齢	7/15%	
1				$\sim$ $\perp$			
	障害	肢体(車いす) ・ 肢体(立位) ・	· 視覚	• ]	聴覚	· 内部	<ul><li>知的 · 精神 · なし</li></ul>
			1 1				
	ふりがな		- 性  5	男	年		
選手	   氏名		묘	.	齢	歳	□ 手話通訳を希望する
医士	戊名		3	女	M I		
	777	P+ (+ ( + , , + ) P+ (+ ( + , 1 )	10 224		T+ 224		
	障害	肢体(車いす) ・ 肢体(立位) ・	祝見	•	聴覚	・内部	<ul><li>知的 · 精神 · なし</li></ul>
	ふりがな			∎Т			
	73.773 &		"  1±		年	歳	□ 手話通訳を希望する
選手	氏名		別り	· 女	齢	<b></b>	□ 于品地がと布主する
3							
	障害	   肢体(車いす) · 肢体(立位) ·	・視覚	. ]	聴覚	· 内部	<ul><li>知的 ・ 精神 ・ なし</li></ul>
			1 1		1		
	ふりがな		··· 性  <sup>身</sup>	男	」		
電工	- A		"[注]	.	年 齢	歳	□ 手話通訳を希望する
選手	氏名		3	女	可用		
4		,					
	障害	肢体(車いす) ・ 肢体(立位) ・	· 視覚	• ]	聴覚	· 内部	<ul><li>知的 ・ 精神 ・ なし</li></ul>
	ふりがな						
	7,37,4		┥性┃ り		年	ᄹ	口 手託语記去茶胡子四
選手	氏名		別り	· 女	齢	歳	□ 手話通訳を希望する
5				×			
	   障害	   肢体(車いす) · 肢体(立位) ·	. 俎曾	. 1	<b></b>	. 内部	· 知的 · 特神 · か
			70 <i>7</i> C		ンし、プレ	r JHP	
	ふりがな			男	_		
\== -	. ,		" 1±		年	歳	□ 手話通訳を希望する
選手	氏名		別	女	齢		
6							
	障害	肢体(車いす) ・ 肢体(立位) ・	視覚	• ]	聴覚	・内部	・ 知的 ・ 精神 ・ なし

7名以上の場合は申込書をコピーしてご使用ください。

# 彩の国ハート&スマイル四面卓球バレー大会 参加申込書【個人申込】

(平成24年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」)

<b>&lt;</b> メン	・バー表>	- 成24年及陣舌右人ホーツ振典事業! 心場における	の呼音1	3 ^ /	<b>\</b> — \( \cdot \)	ノ加い	<b>夹 争 未</b> 」	)
	ふりがな							
	氏名		性別	男	. 3	女	年齢	歳
	住所	〒						
選手	電話		FAX	(				
	障害分類		聴覚	· 内	]部 •	知	的·	精神 ・ なし
	障害名	手帳に記載されているものをご記入ください					□ 手記	括通訳を希望する
	ふりがな							
	氏名		性別	男	¦ · 3	女	年齢	歳
マー	住所	<b>=</b>						
選手 ②	電話		FAX	(				
	障害分類		聴覚	· 内	]部 •	知	的·	精神・ なし
	障害名	手帳に記載されているものをご記入ください					□ 手記	舌通訳を希望する
	ふりがな							
	氏名		性別	男	¦ · 3	女	年齢	歳
選手	住所	<b>=</b>						
選士	電話		FAX	(				
	障害分類		聴覚	· 内	]部 ·	知	的·	精神・ なし
	障害名	手帳に記載されているものをご記入ください					□ 手詞	舌通訳を希望する
く来り	易方法>							
1,乗用 4,その		数 ) 2,自転車 (台数 )	)	3,彷	走步			
	等で連絡責付 各先>	任者がいる場合はご記入ください。						
	団体名		電話					
連絡	責任者氏名		FAX					
	住所	Ŧ		-				

#### 2. 新聞記事(抜粋)





平成 24 年 11 月 5 日 埼玉新聞

平成24年度障害者スポーツ振興事業「地域における障害者スポーツの振興事業」

# 平成 24 年度 一秋田県内における障害者スポーツ振興事業―

一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会

# 平成 24 年度「地域における障害者スポーツの振興事業」 〜秋田県内における障害者スポーツ振興事業〜 事業報告

#### 1. はじめに

秋田県では、スポーツを通じた秋田の元気づくりと地域の活性化、生涯を通じた豊かなスポーツライフづくりなど、スポーツ振興を県民運動として展開するため、平成21年9月に「スポーツ立県あきた」を宣言した。これに伴い障害者も含めた生涯スポーツの振興を通じた、健康で豊かな生活の実現を目指している。

当協会がこれまで取り組んできた「障害者スポーツ教室」において、障害者の皆さんからは「日頃運動する場所が欲しい」「継続して取り組める環境はないか」といった声が寄せられていた。スポーツ立県を宣言し、秋田県スポーツ振興基本計画を整備してもなお、障害者がスポーツ活動するには満足な環境であると言えない現状である。

そこで、この度国庫補助事業として当事業を行うにあたり、誰もが気軽にスポーツを行うことができる地域住民のためのスポーツクラブ「総合型地域スポーツクラブ」での活動において、障害者も積極的に地域の一住民として参加することができるよう、また地域においても一層障害者スポーツの振興に努めていただきたく、計画・開催に至った。

#### 2. 目 的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツ の専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの 交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ 講習会及び交流会を開催する。

#### 3. 主 催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

#### 4. 概要

内容	也区名	県北地区 (三種町)	中央地区(秋田市)	県南地区(横手市)		
後援	:	三種町福祉課	秋田市福祉事務所	横手市福祉事務所		
恢 按	:	三種町社会福祉協議会	秋田市社会福祉協議会	横手市社会福祉協議会		
会場		三種町琴丘総合体育館	県勤労身体障害者	白山体育館		
云 物		二性叫今山松口径月路	スポーツセンター	大森体育館		
時間		9:30~12:00	9:30~12:00	9:30~12:00		
H-21 [H]		9.30 -12.00	9.30 12.00	※10/21 は9:30~16:00		
		琴丘地域スポーツクラブ連盟	グリーンスポーツ倶楽部	大森スポーツクラブさくら		
		八竜地域スポーツクラブ				
対象者	٠	山本地域スポーツクラブ	在宅障害者(身体・知的・精神)	在宅障害者(身体・知的・精神)		
		在宅障害者(身体・知的・精神)	市福祉事務所・市社協職員	市福祉事務所・市社協職員		
		町福祉課・町社協職員				
講習会		障害の理解と安全なスポーツ環境	竟づくり			
A 1 th		10月 3日(水)	11月 2日(金)	10月21日(日)		
交流会		卓球、卓球バレー	卓球、卓球バレー	フライングディスク		
(第1回目	∄)	10月31日 (水)	11月30日(金)	10月21日(日)		
交流会	:	ボッチャ	ボッチャ	卓球、卓球バレー		
/844	_,	ふうせんバレーボール	ふうせんバレーボール	<b>中</b> //、中//、/		
(第2回目	∄)	11月 7日 (水)	12月21日(金)	11月11日(日)		
交流会	:	フライングディスク	フライングディスク	ボッチャ		
			) /1 V / / 1 A /	ふうせんバレーボール		
(第3回目	∄)	11月28日 (水)	1月18日(金)	12月23日(日)		
指導者打合		※障害者スポーツ指導員対象(原	所要時間 2 時間 / 於:秋田県	社会福祉会館)		
11等41行	ゴエ	9月22日 (土)	9月30日(日)	10月 7日 (日)		
147.异本(141 H	t.A	※障害者スポーツ指導員対象(原	所要時間 2 時間 / 於:秋田県	社会福祉会館)		
指導者報告	云云	3月20日(水)				

#### 5. 参加費

無料(交流会の傷害保険は事務局負担)

# 6. 事務局

一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会 《担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子》 〒010-0922 秋田市旭北栄町 1-5 秋田県社会福祉会館 5 階(TEL)018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

# 7. 参加者

# 【県北地区(三種町)】

事業名 内 訳	講習会	交流会 (第1回目)	交流会 (第2回目)	交流会 (第3回目)
総合型地域スポーツクラブ (町スポーツ推進委員含)	8名	6名	4名	4名
町福祉課・生涯学習課・社協	9名	1名	5名	4名
	4名	3名	3名	4名
スポーツ指導員	上級1名	上級1名	上級0名	上級 0 名
7.44 7 担 寻食	中級0名	中級1名	中級1名	中級 2 名
	初級3名	初級1名	初級2名	初級2名
		14名	12名	14名
障害者	_	肢体不自由 9 名	肢体不自由 9 名	肢体不自由 9 名
<b>学</b> 百		内部障害3名	内部障害1名	内部障害 4 名
		視覚障害2名	視覚障害2名	視覚障害1名
事務局	1名	2名	3名	2名
合 計	22名	26名	27名	28名

# 【中央地区(秋田市)】

事業名 内 訳	講習会	交流会 (第1回目)	交流会 (第2回目)	交流会 (第3回目)
総合型地域スポーツクラブ	5名	5名	3名	2名
市福祉事務所・社協	0名	0名	0名	0名
	11 名	11 名	9名	10名
スポーツ指導員	中級 5 名	中級 5 名	中級 5 名	中級 5 名
	初級6名	初級0名	初級 4 名	初級5名
障害者	_	10名	4名	3名
		肢体不自由 10 名	肢体不自由 4 名	肢体不自由 3 名
事務局	1名	3名	1名	2名
合 計	17名	29名	17名	17名

# 【県南地区(横手市)】

事業名 内 訳	講習会	交流会 (第1回目)	交流会 (第2回目)	交流会 (第3回目)
総合型地域スポーツクラブ (市推進委員・付添職員等含)	15名	15名	4名	7名
市福祉事務所・社協	1名	1名	0名	5名
	5名	5名	7名	7名
スポーツ指導員	中級3名	中級3名	中級 5 名	中級 5 名
	初級2名	初級2名	初級2名	初級2名
		0名	2名	7名
障害者	_	_	肢体不自由 2 名 精神障害 0 名	肢体不自由 4 名 精神障害 3 名
事務局	1名	1名	1名	1名
合 計	22名	22名	14名	27名

#### 8. 成 果

① 交流会の前に総合型地域スポーツクラブ会員と市・町障害福祉担当課職員、社会福祉協議会職員を対象に、障害の 理解及び障害者がスポーツを行う際の安全面について学ぶ機会(講習会)を設けた。このことにより、講師を依頼した 障害者スポーツ指導員の指導が適切に実施され、指導員自身の経験を発揮できた。

また、参加した方々の知識や理解が広がり、安心して交流会を開催する準備が整った。

② 交流会では障害者に加え、講習会参加者も参加した。障害者が日頃取り組みやすいスポーツを選定して3回実施した。 初めて体験する方にとっても難しい種目でなかったことから、障害者だけでなく子どもから高齢者まで取り組めるとの 評価をいただいたほか、地域のクラブ活動でも是非取り入れたいとのことであった。

また活動中は、障害者と積極的にコミュニケーションを図るなど、自らサポートするクラブ会員が多く目立った。 障害者もこういった時間を過ごしたことで、クラブの活動に参加したいという気持ちが現れるようになった。

- ③ 4回実施した中で、障害者スポーツ指導員の活躍の場を作ることができたため、指導力を高める機会となった。普段は幅広い種目に関わらず、特定の競技に特化して活動してきた指導員が多かったほか、自ら率先して活動してきた指導員が決して多くなかったのも実情である。この事業を通じ指導員としての自信を深め、今後のスポーツ指導に大いにプラスになるものと思われる。
- ④ アンケート調査の結果から見ると、クラブ会員は「誰でも気軽に参加できる場である」というクラブの本来の目的を 再確認し「子どもから高齢者まで、そして障害の有無を特別視することではないのだ」ということを痛感した様子で ある。それはこの講習会、交流会に参加して実際に障害者と触れあったことにより、生まれた意識であろうと思われる。 また、総合型地域スポーツクラブが自分の住む地域にあること自体を知らず、運動不足に悩み、地域住民との交流を 望んでいた障害者にとっては、活動できる場があるということを知るきっかけにもなった。

#### 9. 課 題

- ① 国庫補助事業としての手続きが遅くなり、計画、準備、周知など全般において時間が足りなかった。何よりも周知に要する時間が少なく、参加者の少ない地区もあった。また、冬期間の道路状況や天候により、当日キャンセルをする方も続出し、実施時期の選定も改める必要性を感じた。
- ② 障害者スポーツ指導員(障害者スポーツ指導者協議会)との協議を深める時間が足りなかった。また、開催地区在住の協力可能な指導員も少なく、予定よりも少ない人数で指導を行わなければならない地区もあった。平日は仕事をしており、休日でないと難しいという指導員が大半であり、若手指導者育成のために若年層に協力依頼をしても断られるケースが多々あった。このように、多くは退職後であり、仕事をしていない指導員で構成することとなり、50~60代の指導員が中心となった。今後は若手指導員の確保を図ることも課題である。(男女比は14:8)
- ③ 各地域で自主運営を目標とした場合、総合型地域スポーツクラブ及び障害者スポーツ指導員の協力が必須であり、 予算や会場の確保から活動まで、一任して実施するまでは事務局がサポートしていく必要がある。

また、市・町障害福祉担当課及び社会福祉協議会からの後援を得たうえ、それぞれの職員が参加者という立場でもあった。職員の中には全日程欠席という残念な地区もあり、アンケート調査の結果からも見て分かるように、地域での障害者スポーツ振興に積極的に取り組む(今後取り組もうとする)体制がある地区と、予算や人員的なことから困難であるという地区がはっきりした。障害者が地域でスポーツを継続して取り組むためには、行政等の支援・援助が必要不可欠となるため、各市町村において障害者のスポーツ振興の推進により努め、スポーツ施設のバリアフリー化などのハード面に限らず、障害者が安心してスポーツを行うことができる仕組みや計画の整備を、是非進めていただきたいと強く願う。

④ 各地域においてクラブ組織・運営がスムーズに進み、障害者が積極的・継続的にスポーツ活動に取り組める環境が根付くことが今後大切であると考える。障害者も地域の一住民としてスポーツをすることに対し、周囲の理解が重要である。そのために当協会も、県内の障害者スポーツ指導員も、県をはじめ市町村との連携を図りながら、「地域における障害者スポーツの振興」の役割を担い、その推進により一層力を入れて行く必要がある。

#### 1. 目 的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツ の専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの 交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ 講習会及び交流会を開催する。

#### 2. 主 催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

#### 3. 後 援

三種町福祉課、社会福祉法人 三種町社会福祉協議会

#### 4. 講習会及び交流会

#### 【講習会】

期日	内 容	時間
10月3日 (水)	障害に対する理解 及び安全なスポーツ活動の環境づくり (講師:障害者スポーツ指導員)	9:30~12:00

#### 【交流会】

期日	内 容	時間
10月31日 (水)	障害者スポーツの体験・交流 (講師:障害者スポーツ指導員)	
11月 7日(水)	種目:ボッチャ、ふうせんバレーボール、	9:30~12:00
11月28日 (水)	卓球、卓球バレー、フライングディスク	

#### 5. 会 場

三種町琴丘総合体育館

〒018-2104 三種町鹿渡字盤若台75-1 (TEL) 0185-87-2222

#### 6. 対象者

#### 【講習会】

琴丘地域スポーツクラブ連盟・八竜地域スポーツクラブ・山本地域スポーツクラブ会員 三種町福祉課職員、社会福祉法人 三種町社会福祉協議会職員

#### 【交流会】

三種町在住の身体・知的・精神障害者

琴丘地域スポーツクラブ連盟・八竜地域スポーツクラブ・山本地域スポーツクラブ会員

三種町福祉課職員、社会福祉法人 三種町社会福祉協議会職員

#### 7. 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へFAX 又は郵送にて送付。 〆切は開催日の1週間前までとする。

#### 8. 参加費

無料。(交流会の傷害保険は事務局にて加入します)

#### 9. 事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

◇この事業は平成24年度国庫補助事業地域振興モデル事業として実施するものです。

# 在宅障害者用 申込書 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業《県北(三種町)地区》

ふりがな					性	男	生年	月日	昭 • ፲	卒 年	月 日生
名 前					別	女	年	齢			歳
連絡先		TEL FAX									
障害名 (障害の程度が分か 記載してくだる	いるように										
身障手帳	等級		種		級	療(○で囲	育手帕 ルでくだ	長(さい)	A		В
車椅子の(()で囲んでく	使用 ださい)	有	•	無			<b>話通</b> 記		要	•	不要
精	神障害ネ (○で囲	者保健福祉 んでください)	手帳			1級	•		2級	•	3級
参加期 (〇で囲んでく)	——— ださい)	10月3	3 1 目	(水)	1 1	月 7	7 日(	(水)	1 1	月28日	(水)
備考	i.										

※申込書に記載された個人情報は、本事業以外の目的に使用することはありません。

□申込・問合先 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会事務局 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

# 総合型地域スポーツクラブ 町役場・社協用 申込書

# 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業《県北(三種町)地区》

団体名	
	〒
連絡先	
	TEL
	FAX
代表者	(役職名)
1八衣有	(氏名)

No.	ふりがな 氏名		連	参加期日 (○で囲んでください)			
		₹					10月 3日(水)
							10月31日(水)
		TEL					11月 7日(水)
			年	月	日生 (	歳)	11月28日 (水)
		₸					10月 3日(水)
2							10月31日(水)
		TEL					11月 7日(水)
			年	月	日生 (	歳)	11月28日 (水)
		₹					10月 3日(水)
3							10月31日(水)
		TEL					11月 7日(水)
			年	月	日生 (	歳)	11月28日(水)
		₹					10月 3日(水)
4							10月31日(水)
		TEL					11月 7日(水)
			年	月	日生 (	歳)	11月28日(水)
		₸					10月 3日(水)
5							10月31日(水)
		TEL					11月 7日(水)
			年	月	日生 (	歳)	11月28日(水)

※2枚目以降はお手数ですがコピーして活用ください。

※申込書に記載された個人情報は、本事業以外の目的に使用することはありません。

□申込・問合先 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会事務局 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

# 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 県北地区 (三種町) 活動のもよう

10月3日講習会【障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり】



10月31日交流会【卓球】



10月31日交流会【卓球バレー】



11月7日交流会【ふうせんバレーボール】



11月7日交流会【ボッチャ】



11月28日交流会【フライングディスク】







スポーツクラブ員らとともにフライング ディスクに挑戦した交流会 (三種町総合体育館で)

琴丘総合体育館で開か 域でスポーツを楽しむ交 の少ない在宅障害者が地 会が11月28日、三種町 目ごろ体を動かすこと 参加者がスポーツ指

ンディスクを楽しみなが 県障害者スポーツ協会 心地良い汗を流した。 員らとともにフライン 地域スポーツクラブの会 に対する理解や安全なス 象に講習会を開き、障害 員や町社福協職員らを対 同野野は、八章、山本の に先立ち、10月3日には で開催。この日の交流会

として県北、安、県南 を図ることを目的とした 障害者スポーツ振興事業 ツ活動できる環境の整備 が最終日。町身体障害者 が参加した。 会員らを合わせて約30人 町社福協職員、県障害者 域スポーツクラブ会員 協会の会員はじめ、各地 切りに実施され、この日 スポーツ指導者協議会の 交流会は10月3日を皮

し、2人1組になって投 盟公認のディスクを使用 者フライングディスク連 交流会では、日本障害

の主催。障害者が地域で

安全かつ継続的にスポー

について学んだ。

ポーツ活動の環境づくり

北羽新報

など声を掛けられてい クラブ員やスポーツ指導 をつかみ出すとスムーズ なかったが、徐々にコツ イスクが思うように飛ば げ方を練習。はじめはデ 員から「うまい、うまい に行き交うようになり、 が、クラブ員らとともに で、車いす使用者もいた 肢体、内部などさまざま 参加者の障害は視覚、

楽しみ、はつらつとした 和気あいあいスポーツを 歓声を響かせていた。 の佐藤慶子さんは「障害 県障害者スポーツ協会

ったが、これをきっかけ きる環境がこれまでなか 域を変えて開催する。 けづくりになれば」と話 などで活動できるきっか に地域のスポーツクラブ 者が継続的にスポーツで 計画で、来年度以降は地 していた。同事業は3年

もらおうと、県障害者スポーーいた。

#### 秋田魁新報社

る「障害者スポーツ体験交流 ツクラブの会員が交流を深め 台体育館で開かれた。 障害者とクラブ会員 障害者が地域のスポーツ活 障害者と総合型地域スポー スポーツ通じ交流 が28日、三種町の琴丘総 三種町でイベント

ツ協会が主催した。 グディスクに挑戦。障害者が ディスクを何回通すことがで 加者たちから拍手が沸き起こ 見事にゴールを決めると、参 きるかを競う障害者フライン ブの会員など18人。この日は、 ほか、町内の3スポーツクラ 参加したのは障害者16人の

大館支社 会 0186-49-1231 FAX 0186-49-3294 鹿角支局 会 0186-22-1236 原果支局 会 0186-62-1239 FAX 0186-62-1229 能代支局 会 0185-54-1550 FAX 0185-54-1560

動に参加するきっかけにして一り、楽しそうに競技を進めて一ツを楽しむための注意点など一技を楽しんだ。 先月、障害者と一緒にスポー を学ぶ講習会を受講。これま 「月、障害者と一緒にスポー|ッチャや卓球バレーなど4競スポーツクラブの会員らは|でに2回の交流会を行い、ボ M 交流会は今回が最後で、同

障害者フライングディス クを楽しむ参加者たち

(齋藤将典

う動きがよく見えるようにな 積極的にサポートしようとい 子さんは「回数を重ねるごと 協会スポーツ推進員の佐藤慶 った」と話していた。 に障害者への理解が深まり、

の諸語

#### 1. 目 的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツの専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ講習会及び交流会を開催する。

#### 2. 主 催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

#### 3. 後 援

秋田市、社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会

#### 4. 講習会及び交流会

#### 【講習会】

期日	内 容	時間
11月 2日(金)	障害に対する理解 及び安全なスポーツ活動の環境づくり (講師:障害者スポーツ指導員)	9:30~12:00

#### 【交流会】

4.			
	期日	内 容	時 間
	11月30日(金) 12月21日(金)	障害者スポーツの体験・交流 (講師:障害者スポーツ指導員)	9:30~12:00
	1月18日(金)	種目:ボッチャ、ふうせんバレーボール、 卓球、卓球バレー、フライングディスク	

#### 5. 会 場

秋田県勤労身体障害者スポーツセンター

〒010-1602 秋田市新屋下川原町2-3 (TEL) 018-863-7762

#### 6. 対象者

#### 【講習会】

グリーンスポーツ倶楽部会員

秋田市福祉事務所職員、社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会職員

#### 【交流会】

秋田市在住の身体・知的・精神障害者

グリーンスポーツ倶楽部会員

秋田市福祉事務所職員、社会福祉法人 秋田市社会福祉協議会職員

### 7. 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へFAX 又は郵送にて送付。 〆切は開催日の1週間前までとする。

#### 8. 参加費

無料。(交流会の傷害保険は事務局にて加入します)

#### 9. 事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

◇この事業は平成24年度国庫補助事業地域振興モデル事業として実施するものです。

# 在宅障害者用 申込書 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業《中央(秋田市)地区》

ふりがな					性	男	生年	月日	昭 •	平	年	月	日生
名 前					別	女	年	齢					歳
連絡先		〒 TEL FAX											
障害名 (障害の程度が分か 記載してくだる	いるように												
身障手帳	等級		種	ì	級	療 (○で囲	育手帆 ルでくだ	<b>長</b> さい)	A		•	Ι	В
車椅子の(()で囲んでく	使用 ださい)	有	•	無		手 (Oで囲	<b>話通記</b> Bんでくだ	尺 さい)	要		•	不	要
精	神障害ネ (○で囲	者保健福祉 んでください)	手帳			1級	•		2級		•	3;	級
参加期 (〇で囲んでく)	——— 目 ださい)	11月5	30日(2	金)	1 2	月21	日 (	(金)	1	月 1	8日	(金)	
備考	<u>,</u>												

□申込・問合先 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会事務局 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

<sup>※</sup>申込書に記載された個人情報は、本事業以外の目的に使用することはありません。

# 総合型地域スポーツクラブ 市役所・社協用 申込書

# 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業《中央(秋田市)地区》

団体名	
	〒
連絡先	
	TEL
	FAX
代表者	(役職名)
八女石	(氏名)

No.	ふりがな 氏名		連	参加期日 (○で囲んでください)			
		〒					11月 2日(金)
1							11月30日(金)
		TEL					12月21日(金)
			年	月	日生 (	歳)	1月18日(金)
		₹					11月 2日(金)
2							11月30日(金)
		TEL					12月21日(金)
			年	月	日生 (	歳)	1月18日(金)
		〒					11月 2日(金)
3							11月30日(金)
		TEL					12月21日(金)
			年	月	日生 (	歳)	1月18日(金)
							11月 2日(金)
4							11月30日(金)
		TEL					12月21日(金)
			年	月	日生 (	歳)	1月18日(金)
		〒					11月 2日(金)
5							11月30日(金)
		TEL					12月21日(金)
			年	月	日生 (	歳)	1月18日(金)

<sup>※2</sup>枚目以降はお手数ですがコピーして活用ください。

□申込・問合先 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会事務局 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

<sup>※</sup>申込書に記載された個人情報は、本事業以外の目的に使用することはありません。

# 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 中央地区(秋田市)活動のもよう

11月2日講習会【障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり】



11月30日交流会【卓球】



11月30日交流会【卓球バレー】



12月21日交流会【ふうせんバレーボール】



12月21日交流会【ボッチャ】



1月18日交流会【フライングディスク】







秋田魁新報社



ッシュを決めると、「ナイス プレー」と歓声が上がった。 良く球を打ち返し、見事スマ シングルスやダブルスでラ やゲームに挑戦。テンポ

同倶楽部に協力を呼び 主催。障害者の健康づ 会(菅原三朗会長)の くりを目的に、協会が

出て、みんなとスポーツを楽 りにみんなで体を動かすこと ほしい」と語った。 と話した。 しみ、健康的な生活を送って (33)は「今後も積極的に外に ができて、とても楽しかった 同協会職員の佐藤慶子さん

-106-

#### 1. 目 的

日頃体を動かすことの少ない在宅障害者が、スポーツ活動に積極的・継続的な参加ができるように、障害者スポーツの専門的知識を持ち合わせている障害者スポーツ指導員を活用しながら、在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域において障害者が安全にかつ継続的に活動できる環境の整備を図ることを目的とした障害者スポーツ 講習会及び交流会を開催する。

## 2. 主 催

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会

#### 3. 後 援

横手市、社会福祉法人 横手市社会福祉協議会

#### 4. 講習会及び交流会

#### 【講習会】

-			
	期日	内 容	時 間
	10月21日(日)	障害に対する理解 及び安全なスポーツ活動の環境づくり (講師:障害者スポーツ指導員)	9:30~12:00

## 【交流会】

期日	内 容	時 間
10月21日(日)	障害者スポーツの体験・交流	(※10月21日のみ)
11月11日(日)	(講師:障害者スポーツ指導員)	13:00~16:30 <b>(※11月11</b> 日
12月23日(日)	種目:ボッチャ、ふうせんバレーボール、 卓球、卓球バレー、フライングディスク	<b>及び12月23日)</b> 9:30~12:00

## 5. 会 場

白山体育館(10月21日)

〒013-0552 横手市大森町上溝字白山下72 (TEL) 大森生涯学習センター 0182-26-4073 大森体育館(11月11日及び12月23日)

〒013-0519 横手市大森町字持向192 (TEL) 0182-26-4167

#### 6. 対象者

#### 【講習会】

大森スポーツクラブさくら会員

横手市福祉事務所職員、社会福祉法人 横手市社会福祉協議会職員

#### 【交流会】

横手市在住の身体・知的・精神障害者

大森スポーツクラブさくら会員

横手市福祉事務所職員、社会福祉法人 横手市社会福祉協議会職員

## 7. 参加申込

別紙申込書に必要事項を記入し、事務局へ FAX 又は郵送にて送付。 〆切は開催日の1週間前までとする。

## 8. 参加費

無料。(交流会の傷害保険は事務局にて加入します)

## 9. 事務局

一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

◇この事業は平成24年度国庫補助事業地域振興モデル事業として実施するものです。

## 在宅障害者用 申込書 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業《県南(横手市)地区》

ふりがな				性	男	生年	月日	昭・	平	年	月	日生
名前				別	女	年	齢					歳
連絡先		〒 TEL FAX										
障害名 (障害の程度が分か 記載してくださ	いるように											
身障手帳	等級		種	級	療(○で囲	育手帕	長(さい)	А		•	I	3
車椅子の( (○で囲んでく)		有	•	無	手 (Oで	: <b>話通記</b> <sup>囲んでくだ</sup>	尺 さい)	要		•	不	要
精	神障害ネ (○で囲	<b>省保健福祉</b> んでください)	手帳		1級	•		2級		•	3	級
参加期日 (○で囲んでください)		10月2	21日(日)	1	1月1	1 目(	(目)	1	2月	23月	(日	)
備考	ĵ											

※申込書に記載された個人情報は、本事業以外の目的に使用することはありません。

□申込・問合先 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会事務局 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

## 総合型地域スポーツクラブ 市役所・社協用 申込書 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業《県南(横手市)地区》

団体名	
	₸
   連絡先	
上 上 上	TEL
	FAX
代表者	(役職名)
1、衣有	(氏名)

No.	ふりがな 氏名	連絡先・生年月日					参加期日 (○で囲んでください)
		₹					10月21日(日)
1		TEL					11月11日(日)
			年	月	日生(	歳)	12月23日(日)
		₹					10月21日(日)
2		TEL					11月11日(日)
			年	月	日生(	歳)	12月23日(日)
		₹					10月21日(日)
3		TEL					11月11日(日)
			年	月	日生(	歳)	12月23日(日)
		₸					10月21日(日)
4		TEL					11月11日(日)
			年	月	日生(	歳)	12月23日(日)
		₹					10月21日(日)
5		TEL					11月11日(日)
			年	月	日生(	歳)	12月23日(日)

<sup>※2</sup>枚目以降はお手数ですがコピーして活用ください。

□申込・問合先 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会事務局 担当 スポーツ推進員 佐藤 慶子 〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館5階 (TEL) 018-864-2750 (FAX) 018-874-9467

<sup>※</sup>申込書に記載された個人情報は、本事業以外の目的に使用することはありません。

# 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 県南地区(横手市)活動のもよう

10月21日講習会【障害に対する理解及び安全なスポーツ活動の環境づくり】





10月21日交流会【フライングディスク】





11月11日交流会【卓球】



11月11日交流会【卓球バレー】



12月23日交流会【ふうせんバレーボール】



12月23日交流会【ボッチャ】



# 地域ワイド



助事業として10月から3回に

秋田魁新報社

## 支社・支局電話番号

大館 0186-49-1231

鹿 角 0186-22-1234

鷹 巣 0186-62-1239

能 代 0185-54-1550

男 鹿 0185-23-2303

南秋田 018-888-1840

本 荘 0184-24-3122

秋 田(報道部)

018-888-1870

横 手 0182-32-2345

大曲 0187-63-0163

角館 0187-54-2345

湯 沢 0183-73-2187

## 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート

記	入	老	H	夕
PL.	/ \	· 1	1	-

※来年度の事業開催の参考にしますので、	ご意見等ご協力くださいますようお願いします。

1. 講習会に参加しての感想をご記入ください

2. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

3. 日頃のクラブの活動において、障害者は参加していますか?		
□ ( )参加している ( )参加していない	(	)分からない
□参加している場合、その方の障害や状況をご記入ください		
(		
)		
4. 今後、障害者がクラブの活動に参加することについて		
□( )良い ( )心配、不安 (	)その他	
□その理由をご記入ください		
(		
)		
□参加に際しての希望や悩みがあれば教えてください		
(		

## 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート回答

【総合型地域スポーツクラブ会員及び市・町スポーツ推進委員】※回答:17人/39人中

## 1. 講習会に参加しての感想をご記入ください

- ・各障害の知識を得ることができた。
- ・未知の分野であったので、話を聞いているうちに興味を持つ分野へと変化した。少しでも障害者のよき 理解者になっていければ良いなという気持ちでいるが、短い時間学んだだけでこんなことを思うのは申し訳 ない。
- ・日頃から障害者スポーツに関わる指導員から話を聞くことができ、大変勉強になった。今回のような勉強会 等があれば、また参加したい。
- ・障害者にとってスポーツをすることは特別なことではなく、健常者とも一緒に競い合い楽しく活動できる ものだと再認識した。
- ・各障害の知識や、自分の知らなかった障害者のスポーツ種目も多くあり勉強になった。
- ・身体障害者以外と接するには、色々と気を遣いそうで大変に感じる。軽度の身体障害者はクラブでも参加 しており、助け合ってクラブの機能も問題なく進んでいるので、今後は積極的に交流を図りたい。
- ・大変分かり易くご教示いただき、勉強になった。
- ・それぞれの障害によって対応の仕方も変わることに気付かされた。これは勉強だけでなく経験も必要だと 感じた。この事業に関わるスタッフの明るさと、エネルギーは素晴らしかった。
- ・指導者の皆さんは障害を理解しており、頭の下がる思いでいっぱいだ。
- ・今自分が健常者であっても、いつ障害者になるかも知れず、また障害と言っても分からないことがあった ため、多くのことを知ることができた。
- ・指導者が活躍されている事に心を打たれた。友達に障害者の子どもを持つ方々がいて、付き合いも多いため 関心はあったが、支援や指導をするといった機会がなかったので、今回はとても有意義な会であった。今後 積極的に関わって行きたい。
- ・実用学がいっぱいでとても役立った。指導者の熱心な姿に共感した。
- 新しいことを覚えることができ、楽しかった。

#### 2. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

- ・初めて体験した種目ばかりだった。これからクラブの活動に取り入れて行きたい。
- ・クラブ会員の他、市スポーツ推進委員にも呼びかけ多くの方が参加したが、一般の地域の方々にも参加を してもらえればより良いと思った。
- ・障害者の参加が多くあれば良かった。
- ・フライングディスクの楽しさが理解できた。またやってみたいとも思った。
- ・フライングディスクは単純明快であったが、基本と継続が大事だと思った。
- ・障害者、健常者の縛りが無く、一緒にプレーできる種目を教えていただき、楽しかった。
- ・卓球は考えていたよりも、障害者は取り組みやすいスポーツだと実感した。ルールが少し難しいかなと思う 種目もあったが、誰でも参加できるという点、思った以上に体を動かすという点では良かった。
- ・障害者の方々が生き生きとしている姿を見て、自分も参加して良かったと思った。ボッチャ、ふうせんバレーボールはとても楽しかった。
- 分かり易く指導していただき、楽しく参加できた。
- ・全て新鮮でとても良い体験ができた。もう少し年齢が若ければ、もっとお手伝いできるだろうにと思うと 残念だ。
- ・テレビで見る障害者のスポーツを実際に体験してみると、結構難しいものだと感じた。

## 3. 日頃のクラブの活動において、障害者は参加していますか?

回答	参加している場合、その方の障害や状況
□参加している:5名	<ul> <li>・足や手の障害(軽度)</li> <li>・肢体不自由</li> <li>・車椅子常用者</li> <li>・視覚障害者</li> <li>・参加しているが、障害の程度があまり気にならない。</li> </ul>
□参加していない:12名	
□分からない:0名	

## 4. 今後、障害者がクラブの活動に参加することについて

回答	参加している場合、その方の障害や状況				
	・このような活動の場を作り、外出することは良いこと。				
	<ul><li>誰もが隔たりなく一緒にスポーツできると楽しい。</li></ul>				
	<ul><li>クラブの目的が「誰でも気軽にスポーツができる場」であるため。</li></ul>				
	<ul><li>大変なのは最初だけで、慣れれば問題ないと思う。</li></ul>				
	・障害者スポーツを推進するうえで、お互いが助け合いスポーツをすることは				
口中)、112	良いことだ。				
□良い:11名	・参加する意欲が伝わり、全体の士気が向上する。思いやりの心も生まれる。				
	・クラブ会員がもっと積極的に動くべき。				
	・最近クラブの活動に参加する障害者がいるが、まだ一緒に楽しむまでには				
	達していないため。				
	・障害者が一緒に活動することは何の問題もない。多くの参加者がいれば、				
	クラブの活動も賑わって良い。				
	・もっと多くの方に障害に対しての理解が深まってから…				
□心配、不安:6名	・障害の程度で個々に対応できるか不安。				
	・なかなか企画ができない現実がある。				
□その他:0名					
	・不安を持たずに取り組めるよう、このような会をどんどん開いて欲しい。				
	・参加者ももっと増えて理解者が増えて欲しい。				
	・対応や接し方について、不安な部分が大きい。				
   □希望や悩み:7名	・怪我だけが心配。				
, ,,,,	・全障害に対応できるか心配。				
	・うまくクラブ全体の調和を取って行けるかどうか…				
	・用具の常備がないため、スポーツ協会から借用し、運搬するのに少々手間				
	がかかる。				

- ・色々ご指導いただきながら活動でき、大変充実した事業だった。今後も誰でも参加できる生涯スポーツの 幅を広げられるよう頑張りたい。
- ・障害を理解し、交流していくことの重要さが分かった。参加できて良かった。
- ・この事業があること自体を知らない人が多いと思う。より多くの団体・関係者に周知して欲しい。
- ・一緒にスポーツをするうえで、障害者に何のハンデも与えず健常者と同等に楽しめる点が良かった。

## 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート

⇒¬	-1	<del>1</del> %.	IT.	H
計二	Л	.者	IT.	4

※来年度の事業開催の参考にしますので、ご意見等ご協力くださいますようお願いします。

1. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

<ul><li>2.総合型地域スポーツクラブでの活動を望みますか?</li><li>□ ( ) はい ( ) いいえ</li><li>□ その理由をご記入ください (</li></ul>	)
	) ) いない いいえ )
□ ( )していない ①理由を教えてください ( ②今後運動やスポーツをしたいと考えていますか? ( )はい ( )いいえ ③どのような環境であれば活動したいと考えていますか? (	)

## 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート回答 【障害者・引率者】※回答26名/39名中

## 1. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

- ・楽しく参加できた。指導者の方々の親切な指導を受けることができ、大変嬉しく思う。今後も 継続して欲しい。
- ・ボッチャはもっと上達し、ふうせんバレーボールはチームを作って、競技大会に出場してみたい。
- ・障害の種別、年齢の違いはあっても、一緒に楽しむことができ充実した時間を過ごした。
- ・障害の有無を問わず皆が楽しめる種目なので、今後もこのような会があれば参加したい。
- ・そんなにハードな動きを要さないため、レクリエーション感覚で皆と楽しめたので良かった。
- ・体と共に頭も使う種目が多かった。
- 新しい友人ができて楽しかった。
- ・初めて体験する種目もあったが、皆と笑いながら交流も深められた。毎年このような会を設けて 欲しい。
- ・運動不足の解消になって良かった。
- ・十分満足できた。
- ・冬は外に出る機会がないため参加を楽しみにしていたが、あいにくの悪天候が続き参加できない 日もあり残念だった。
- ・その都度ルールの詳細についての資料が提示され、非常に良かった。
- ・参加者がもっと多い方が良い。
- ・こういったせっかくの機会を障害者自身が積極的に活用したら良い。
- ・高齢になり、思うように体が動かせずにいるが、体力維持・増強のため、今後も元気に活動したい。 スタッフの皆さんに大変親切にしていただき有り難かった。

## 2. 総合型地域スポーツクラブでの活動を望みますか?

回答	その理由
	・理想の場所。天候にも関係なく体育館で活動できる。
	・活動している会場が近いので参加したい。
	・1 人でスポーツするより、クラブの活動に参加したい。
	・楽しいから。
□はい:17名	・心臓病のため継続しては難しいが、その時々の体調を見て参加したい。
LIVAV': 1 / 41	・運動不足解消のため。
	・大勢で取り組む種目もあるため、クラブで皆さんと活動したい。
	・色々なスポーツを楽しみたい。
	・障害者だけの活動よりも、健常者も一緒だとより楽しみが広がる。
	・支援や指導においても一緒の活動を望む。
	・各種競技大会出場が希望。
	・他の活動があり、難しい。
□いいえ:7名	・交通手段がなく、難しい。
	・健常者だけのクラブであれば無理だと考える。
	・仕事重視。

# 3. 日頃、地域において運動やスポーツをしていますか?

## □している:20名

質問	回答				
	・バレーボール(障害者、健常者のそれぞれのチームにおいて)				
	・卓球バレー(身障協会での活動)				
	· 卓球				
	・健康教室				
	・自主トレーニング (トレーニング器具のある場所で)				
□種目・競技は何か	・水泳				
│□性日・呪汉は刊ル	・ボッチャ				
	・ゲートボール				
	・グラウンドゴルフ				
	• 3 B体操				
	・気功				
	・フライングディスク				
	・月5~6回				
	・月に2回				
□活動頻度	・週に1回				
	・週に4~5日				
	・大会前は週に2回程度				
	<ul><li>年に5~6回</li></ul>				
  □指導者の有無	いる:11名				
口担益中公共巡	いない:8名				
   □障害者のみの活動か	はい:12名				
口体日日かりかりに対か	いいえ: 7名				
	・バレーボールに興味のある障害者の情報が欲しい。				
□希望や悩み	・思うように参加者が集まらない。				
	・交通手段が確保できないため参加できないことが多い。				
	・用具を購入する予算がない。				
	・大勢の方と楽しみたい。				
	・使用しにくい施設が多い。				
	・体力的に活動自体が厳しくなってきた。				

# □していない:6名

質問	回答		
	・施設に入所しているため。		
   □その理由	・時間がない。		
しての座田	<ul><li>・活動するクラブなどない。</li></ul>		
	・運動したいが活動できる場を知らない、分からない。		
□今後運動やスポーツは	はい:6名		
したいか	いいえ: 0名		

質問	回答
□活動環境への要望	<ul> <li>・施設に入所していても送迎が可能であれば問題ない。</li> <li>・各種大会に向けた練習会には参加したい。</li> <li>・交通手段の確保できれば参加したい。</li> <li>・近場で気軽に参加できるようであれば参加したい。</li> <li>・障害者でも気兼ねなく参加できる環境。</li> </ul>

- 4. その他お気づきの点がありましたら、ご記入ください
  - ・障害者の参加が少なく驚いた。
  - ・パラリンピックの種目にも挑戦でき、内容の濃密さに参った。
  - また参加したい。
  - こういった場が多くあると良い。
  - ・1人でなく大勢で活動できる種目が楽しかった。
  - ・指導者の方々の指導力に感心し、私も熱が入り技を磨かなければと思った。
  - ・私は恵まれた環境でスポーツができているので、満足している。

## 【スポーツ指導員】

## 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート

≑⊐	7	者	工	Þ
БĽ	ハ	. T	1	1

※来年度の事業開催の参考にしますので、ご意見等ご協力くださいますようお願いします。
1. 講習会における感想をご記入ください
2. 交流会における感想をご自由にご記入ください
3. この事業は来年度地域を新たにし継続する予定ですが、依頼があった場合指導可能ですか? □ ( ) 可能 ( ) 不可能 ( ) 分からない □ その理由をご記入ください ( )
<b>4. 今回参加した各総合型地域スポーツクラブより、指導の依頼があった場合指導可能ですか?</b> □ ( ) 可能 ( ) 不可能 ( ) 分からない □ その理由をご記入ください

5. その他お気づきの点がありましたら、ご記入ください

□参加に際しての希望や悩みがあれば教えてください

## 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート回答 【障害者スポーツ指導員】※回答:21人/24人中

#### 1. 講習会における感想をご記入ください

- ・普段指導者の方々と一緒に活動することが少ないため、とても良かった。「指導者」と名ばかりになりがちなので、実際に現場で他者に指導する場面を提供してもらえることはとても勉強になるため、今後も継続して欲しい。また、多くの指導方法を自分の不足部分にプラスして行きたい。
- ・視覚、聴覚、肢体不自由に関しては、実際に体験することにより、体で感じ取ることもできるので、 アイマスクを使用したり、車椅子を使用したりする疑似体験もできれば良かった。
- ・総合型地域スポーツクラブの皆さんも意欲的に参加され、質問の内容も濃かった。予め準備していた講習会 資料も分かり易くまとめられ、スムーズに進行することができた。
- 事例を交えての話しが良かった。
- ・指導者が講師となって講義をする機会がほとんどないため、とても良い経験になった。改めて学ぶことも 多く、講義中は活発な意見も交わされ有意義であった。
- ・市障害福祉担当課及び社会福祉協議会職員にも参加していただきたかった。(中央地区) 担当した部分の発表について、内容が広範囲になってしまい焦点ボケの感があった。次の機会があればテーマを絞り発表したい。
- ・できればあと数回、講習会が実施できたらより良かったが、いくらかでも障害者に対する理解が深まった のではないか。
- ・担当する部分の時間配分や役割分担について、もう少し事前に打ち合わせできていれば良かった。
- 初めての指導で、きちんと伝えることができたのか不安だ。

#### 2. 交流会における感想をご自由にご記入ください

- ・フライングディスク以外はほとんど指導経験がないため、他の種目日は一緒に楽しませてもらった。今後も 可能な限り参加し、ひとつでも多くの種目を指導できるように頑張りたい。
- ・自分の専門分野以外の種目も指導でき、非常に有意義な時間を皆さんと共有できた。
- ・じっくり色々な種目に触れ、体験できて良かったのではないか。種目を知ってもらう場にもなり、今後 各地区で普及してくれればと思う。
- ・障害の有無に問わず楽しめる種目ばかりであるため、今後も継続して欲しい。
- ・今後もこのような指導できる活動の場を提供して欲しい。
- ・実際にプレーしながらルールの説明も行ったため、ルールの浸透も早く参加者全員で楽しむことができた。 初心者も指導者の指導が適切であったため、上達した様子だった。
- ・とても雰囲気が良かった。各地区の指導員もより多く参加できれば、質も上がると思う。
- ・指導に関して大変不慣れだが、これからも多くの障害者の皆さんとスポーツを通じて交流して健康づくりや 体力づくりを推進して行きたい。
- 各種目の指導方法を再度自分自身が確認できる場にもなり、良い刺激になった。
- ・全種目に対応できるよう、指導員としての質を上げたいと思った。
- ・皆さん笑顔で活動していた。
- フライングディスクは外で行っても良かったかもしれない。
- きちんと指導できたか不安だ。
- ・上履きを忘れて、スリッパで参加した障害者がいた。安全面に配慮したが、やはりハラハラした。
- ・障害者の参加が少なく残念な日もあった。
- ・もう少し暖かい時期に実施できれば、参加者も多く集まると思われる。

## 3. この事業は来年度地域を新たにし継続する予定ですが、依頼があった場合指導可能ですか?

回答	その理由
□可能:18名	<ul> <li>・勤務状況と調整する。</li> <li>・休日なら問題ない。</li> <li>・継続して実施することが普及のためと原点と考える。</li> <li>・スポーツの楽しさを体験して欲しい。</li> <li>・自分自身も一緒にスポーツ活動したい。</li> <li>・指導員として積極的に活動したい。</li> </ul>
□不可能:0名	
□分からない:3名	・家の都合次第。 ・仕事優先になりがち。 ・勤務の調整が必要になる。

# 4. 今回参加した各総合型地域スポーツクラブより、指導の依頼があった場合指導可能ですか?

回答	その理由		
	・1 人でなく複数の指導者と一緒であれば。		
	・レベルアップしたい。		
□可能:18名	・可能な限り地域に貢献したい。		
	・スポーツ協会だけでの主催は大変だと思うので、多くの指導者が協力		
	できると良い。		
□不可能:0名			
□分からない:3名	・ 1 人だけでの指導は無理。複数の指導者がいれば…		
口がからないころも	・勤務の調整が必要になる。		
	・複数の指導者がいた方がメリットは大きい。		
	・自分が把握している種目が少ないため、定期的に指導方法等研修会を		
	開催して欲しい。		
	・専門以外の種目は指導できないが、色々な種目に触れ、理解を深めたい。		
	・休日でないと参加できない。		
   □希望や悩み:14名	・平日は(半日)であれば可能。		
日本主で図グ・14石	・何事も事前に勉強したい。		
	・障害者のスポーツに関して知識が浅いこと。		
	・知識や経験が浅いため、参加(指導)することに消極的になってしまう。		
	・指導者としての自信が、もう少しあれば良い。		
	・開催時期は冬期間を除いて欲しい。		
	・参加者が集まりやすい暖かい時期に、事業開催を望む。		
	・上達するための指導は難しい。		

- 5. その他お気づきの点がありましたら、ご記入ください
  - ・横手市(県南地区) そのものが広範囲のため、中心部での開催であれば参加者も多かったと思われる。 今後新たな会場での開催について検討願う。
  - ・市障害福祉担当課及び社会福祉協議会職員の積極的な参加が望ましい。次年度は事前により丁寧な説明と協力依頼が必要ではないか。
  - ・各種大会、講習会等、指導員の顔ぶれがいつも同じという場合がほとんどである。初めての指導者を多く 導き出し、裾野を広げることが大切だ。
  - ・指導者と言いながら何もできない自分がいる。もっと勉強しなければと思う。今回は指導する役割分担が 敷かれていたため、良い勉強になった。
  - ・指導しながらルールの再確認もでき、勉強になった。参加者は純粋にスポーツを楽しんでおり、参加者同士 の交流も目立った。来年度もより多くの方々に参加して欲しい。
  - ・指導者同士の打合せを持ちたかった。
  - ・今年は大雪で会場までの往復が大変だった。雪の降らない時期に開催できればもっと良かった。
  - ・実施した種目は年齢に関係なく取り組めるため、県内の特別支援学校及び学級の児童・生徒にも参加を 促して、競技人口を拡大させてみてはどうか。
  - ・総合型地域スポーツクラブの活動に指導員も積極的に参加して、クラブ会員と指導者、障害者との信頼関係 がより築くことができれば良い。
  - ・障害者の活動の場を多く作り、様々な団体に障害者スポーツを推進したい。
  - ・このような地域での障害者スポーツ振興に関する事業は、継続して開催して欲しい。
  - 「スポーツ基本法」についての講習会も設けて欲しい。
  - ・指導者仲間を増やして行きましょう。

## 【後援先職員】

# 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート

記	入	者	H	夕
$H \cup I$	/ 、		-	´ ⊢

※来年度の事業開催の参考にしますので	ご意見等ご協力くださいますようお願いします。
70 /N   /X */ # /N/// E */ % ** / */ C \	

1. 講習会に参加しての感想をご記入ください

2. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

3.貴所主催等の障害者スポーツに関する事業はありますか?	
□ ( ) ある ( ) ない	
□「ある」: 内容を教えてください	
)	
□「ない」: 理由を教えてください	
(	
4. 貴所における障害者スポーツの振興について	
□( )実施している ( )計画する又は計画中	
( ) 予定なし ( ) その他	
□その理由をご記入ください	
(	
□障害者スポーツ振興についての希望や悩みがあれば教えてくださ	V`

## 平成24年度秋田県内における障害者スポーツ振興事業 アンケート回答 【市・町障害福祉担当課及び社会福祉協議会職員】※回答:9人/13人中

#### 1. 講習会に参加しての感想をご記入ください

- ・障害福祉担当課とはいえ、専門的知識に乏しいため、大変勉強になった。(特に知的障害について)
- 各障害、中でも補装具について理解することができた。
- ・障害者への接し方、スポーツを行ううえでの留意点等、大変勉強になった。
- ・3障害について詳しく知ることができて、大変良かった。
- ・障害者にスポーツを楽しんでいただくために、最低でも障害について理解しておかなければならないことに 気付かされ、勉強になった。小・中学校で実施している福祉教育(疑似体験)での参考になった。

## 2. 交流会に参加しての感想をご自由にご記入ください

- ・今まで経験のなかった種目で、とても楽しく参加した。ふうせんバレーボールはふうせんならではのゆっくりでありながら不規則な動きや、ボッチャの戦略など、障害の有無に関係なく楽しめるものだと感じた。ふうせんが空中を飛んでいるときに、鈴の音がより鮮明に聞こえれば視覚障害者の参加の幅が広がると思う。
- ・寒い中での実施であったが、笑い声の絶えない楽しい時間であった。障害の有無に関係なくできスポーツばかりであったので、たくさんの方に知ってもらいたいと思う。機会があればふうせんバレーボールはもう一度行いたい。 楽しい企画だった。
- 体を動かすことは楽しい。機会があれば、また参加したい。
- ・スポーツを通じて、誰もが交流できることを再認識した。参集範囲の拡大ができれば、更に意義があると思う。
- ・障害の有無に関係なく、楽しめるスポーツだった。今後もこのような会は必要だ。
- ・スポーツを通じて参加者の方々と話しをすることができ、交流も深められた。スタッフの皆さんの指導も丁寧で 感謝している。
- ・障害者スポーツに関係する方々の名前と顔が分かるようになった。
- 競技中、参加者の方々が熱中して楽しんでいるようだった。
- ・分かり易く楽しめるスポーツばかりで、障害者の方はもちろん、子どもから高齢者までが楽しめるものだと思った。

#### 3. 貴所主催等の障害者スポーツに関する事業はありますか?

回答	その内容
□ある:3名	・「輪気愛相スポーツ交流会」を実施している。
	(市が社会福祉協議会へ委託している事業)
□ない: 6名	・障害者スポーツ関連の事業に前例が無く、不安も多い。
	・各障害者団体が主催する事業に協力対応している。
	・身障協会主催での開催事業があるため。

#### 4. 貴所における障害者スポーツの振興について

回答	その理由
□実施している:1名	(無記入)
□計画する又は計画中:1名	・スポーツ協会と協力しながら、考えていければと思う。
□予定なし:4名	・各障害者団体が主催する事業に協力対応している。
□その他:1名	(無記入)
□希望や悩み:1名	・今年度より障害者のサロンを開催しているが、今後各種スポーツを取り入れてみたいと思う。主に視覚障害者や精神障害者のサロンであるが、菓子作りや和太鼓は実施してみたものの…今回この事業に参加してスポーツにもチャレンジしてみたいと思った。その際はご指導願いたい。

- ・今後、バリアフリーな(障害者とボランティアとの)交流事業等において、今回のような内容を取り入れた場合、 スポーツ協会へのご協力とご指導をお願いしたい。
- ・障害者がたくさん参加できれば良かったが、会場や開催時期の関係で集まりが悪く、申し訳なく思う。また冬は 交通手段がなく参加しづらい障害者もいる。
- ・周知開始が遅かった。広報誌の掲載締切りに間に合わず、掲載できない日があったのが残念。
- 大変有意義な事業だった。

平成 25 年 3 月 29 日発行 発行 公益財団法人日本障害者スポーツ協会